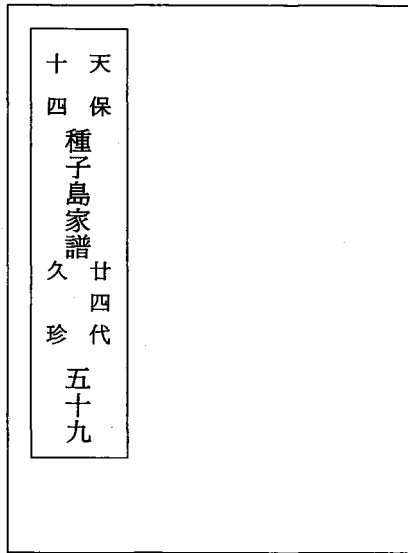


(表紙)



○天保十四年癸卯正月、以居先考之喪止規式、

○十七日、賜金子三百疋于西村太平次、雖家貧且以有疾屢辭職、命御竿方掛故不許賜之、以賑救其貧、

○廿二日、賜赤米四斗于海士泊浦之嘉太郎、住吉浦之周吉、洲之崎浦之虎次郎・仙兵衛・仙太郎・

專次郎・傳吉・周之允・善次郎、池田浦之孫次郎

・兵吉・仲吉、去十八日夜、風波俄起、在港

内、永徳丸甚危、時彼輩犯逆浪能保護船、故

賞之也、

○廿四日、平山村郷士上妻惣四郎宅火、人馬等無恙、

恙、

○納三狩所獲鹿皮子官、

○改諱時珍、

○二月三日、中田仲太初謁見、獻火繩、

○九日、家老前田十九郎宗恭・美座十郎右衛門時敏

至市田右近宅、獻種子島製鉄炮一挺・肴一

折・樽代金五百疋、謝名跡中與聽家政、翌

日贈書見謝之、

○三六八 市田義近書狀

態与以書札申入候、各御無吳珍重存候、然者先年

御名跡中我等事差引被仰付置、是迄御家政向承候

為挨拶、先日者銘、預見舞、其上種子島作鉄炮

挺・肴一折・樽代金五百疋御役人中より被相贈忝
存候、右為可申謝如此候、尚又島元同役中江茂宜
傳達頼入候、以上、

二月十日

(市田義近
市右近)

前田十九郎殿

美座十郎右衛門殿
(時魁)

○十四日、阿高礮塩戸納科錢四十貫文、屋久津梶

鴻塩戸三十貫文、坐私江豚也、

○十五日、初狩、名代家老上妻小左衛門定直、物奉

行羽生太左衛門能俊、用人渡邊早右衛門兼重、組

頭平山唯七寄・種子島友右衛門時大・美座矢太右

衛門、山奉行中田宇平太・羽生紋九郎・下村源之

允、西之表庄官獻上、如例、

○同日、古田村蓮勝寺獻神酒・桑盛、如例、

○十七日、甲冑之賀及在郷諸寺獻上、如例、

○同日、的始、名代家老岩河十右衛門時行、用人西

村田代時和、射手一番美座織太郎
河内十助、二番下村源助
日高六郎、

三番武田勇吉
八板仙次郎、

○同日、本源寺軍陣・温坐折念、如例、

○廿六日、國老島津登傳丁令丙年寄女中初野屬之吾侍

女甲、事開于左、

○三六九 島津久備久申渡書

御年寄

初野

表使格

種子島報七郎殿

御附

右之通御役替被仰付、種子島報七郎殿江被附置

候、諸給分御法之通被下置候条、可承向江可申渡

候、

二月廿六日

(島津久備)
登

○廿七日、賀繼家統一赦賣米于屋久島之徒上、

西之村犀川甚作郷土・濱田藤次郎・濱田孫吉・濱田

仙助・名越休太郎・松右衛門、流人随音・三吉・

- 濱田万兵衛・小川甚助・小川十作・日高金次・名越平八・柳田與三左衛門・德永源之進・川野孝十郎・德永覺次、流人善吉・日高十次郎・岩次郎・彌助・孫平・次平太・武平太・七次郎・權次郎・早吉・金左衛門、莖永村之日高瑞碩・古市伴左衛門・權之進、平山村之太郎吉、下中之村鮫島七右衛門・古市源九郎・柳田喜十次、
- 同日、西之村之鮫島五右衛門寺三入于増田村清淨寺三三七日、坐三犯レ法商三米于屋久島人二也、五右衛門爲下商三米于屋久島二之長上、賀レ繼三家統一有下一等上、及于茲一、
- 廿九日、叱三山奉行若河助七一、以丁狼許内伐之莖永村松原山之木甲也、
- 同日、莖永村庄官日高休右衛門寺三入于中之村本善寺一七日、坐レ伐三松原山之木一也、連及叱三同村山役石堂喜角一、
- 同日、賜三篠卷三把于中西之表足輕河口六次郎一、屢命三急使二之中之郡及下之郡一、不レ辭レ勞奉レ命、故賞レ之也、
- 三月三日、令三森周右衛門友諒讀三法章一、
- 同日、賜三艾餅于三箇寺一、慈遠寺獻三同品一、
- 同日、賀三瀬引三西之表村庄官獻三酒肴一、
- 十日、以三西村休八時乘一爲三用人一、
- 十四日、国上村浦田浦之善五郎納三科錢七百文一、同村之小三次五百文、坐丁善五郎使内小三次竊伐之樅材甲也、
- 同日、現和村之藤太郎納三科錢一貫五百文一、坐三竊伐三知覽才之允櫛圃所有之材二也、
- 十五日、田上助十郎初謁見、
- 十九日、住吉村郷士上妻權四郎父勘左衛門隠栖火、勘左衛門焼死、宗門手札二枚焼失、締方横目鎌田清藏・種子島翁之助、吾横目西村源五右衛門・渡邊早右衛門監一察之、事聞三官一、
- 廿四日、締方横目藤島孫右衛門・有川壯次郎來、
- 廿八日、以レ繼三家統一出三法章一、招三家老・物奉行・用人及諸奉行・諸士于廣間一講之示レ之、松

壽院殿亦傳書以見謝一家老及諸有司之勤勞、事開左、

○三七〇 種子島久珍申渡書

我等事、今度當家名跡相續被仰付、難有仕合ニ候、家中之輩、御上之御政道者勿論、當家仕置萬端先代之通不致忘却、堅固相守之、役人始役、猶又入念、無緩疎正道可相勤者也、

天保十四年二月

役人中江

○三七一 松寿院達書

當家物每龜略無之筈候得共、是迄多年名跡之事候得者、依向等閑ニ成行候事可有之哉、第一家格向者勿論、對世上候儀自然不束之取しらへ等有之候而者、相續涯外聞旁如何之事候間、向、一涯令精勤、不都合之儀無之様可相心得候、且又御奉公人等江者懇勸致應對、作法惡敷儀共無之様相嗜、

学文武藝等致出精、惣躰風俗不乱、夫、身分之程を存、無益之費等不致、質素を可心掛、惣而農業無油断可致沙汰候、

右之通、役、始惣家中末、迄茂可申渡候、

此節隱居家作思通より手廣結構出来致仕合存候、誠ニ此已前より表方御物入打續、殊更去ル子年之凶歳ニ付而者、役人を始諸役、一方ならぬ骨折致、役料を茂夫、差上候而精勤いたし候折柄、此節報七郎殿御入興ニ付而者、双方之家作旁莫大之物入之上なから、いつれ大奥栖居所報七郎殿江ゆつり候ニ付而者、別段隱居家作不致候而者不叶時宜ニ而、無據及手當候処、誠ニ手廣出来致候事、藏方難涉之折柄重疊之物入甚氣之毒ニ存候、然共右通萬端都合能致出来候事、全く役、之はたらき骨折精勤故と、彼はおもひ合、いか計か忝存候、表向隠宅引移り者追而申出候事候得共、此節家作成就相成候間、當分滞在ニ引越、日、本宅江茂参り致世話候事ニ候、尤表向引越之上申候筈な

ら、餘り役々骨折之志忝き、此節先あらまし書付を以申候間、物奉行以下江茂宜敷申傳候様頼行候、

三月

松壽院

役人中江

○賀_レ継_二家統_一、與_二金子各百足于西村甚五太夫時

員・前田十九郎宗恭・美座十郎右衛門時敏・岩河

十右衛門時行・西村源左衛門時民・知覽才兵衛行

修・宮浦藤九郎、金子三百足于平山直次・日高杉

右衛門・西村蔵多・岩河九郎助・日高勘太郎・廣

瀬平太夫、金子二百足國上只次・下村十郎・上妻

藤八・吉平友碩・白男川隆雲、

○西村甚五兵衛僕・種子島次郎左衛門僕・野間仲左

衛門僕・子島桃園僕・西村百太郎僕、各納_二科錢

五百文_一、坐_レ於_二新城之坂_一伐_レ松也、

○四月五日、締方横目鎌田清蔵・種子島翁之助歸、

○同日、種子島百市元服、賜_二字平蔵_一、名代家老

岩河十右衛門時行、理髮西村甚四郎時冥、

○六日、於_二本源寺弓場_一射禮、家老・物奉行・用

人・與頭觀_レ之、緒方善蔵軍勢書入束矢、

○八日、以_二組土上妻関右衛門養子住吉村上妻文之

進_二爲_二郷士_一、文之進旧以_二足輕_一貶_二一等_一、

○同日、與_二金子二兩于鮫島孫右衛門_一、賞_下以_二檢

地之事_一數役_二于覺府_一之勞_上也、

○十二日、洲之崎浦之仲次郎下_レ牢、坐_二竊商_一我

荒_一也、

○十四日、三役・組頭觀_二武藝_一、

○十五日、國老傳_二長崎奉行異國船之令_一、事開_二于

左_一、

○三七二 島津久宝外四名連署申渡書

吳國船入津之時_二候間、御領内浦_一、如何可被入御

念旨、長崎御奉行被仰渡候条、兼而申渡置候通堅

固_二相守候様、種子島江可被申渡者也、

猪飼央(尚敏)

四月十五日

島津登(久徳)

菱刈安房(隆親)

島津石見(久淳)

島津主計(久室)

種子嶋報七郎殿(久珍)

○廿日、蟹泊浦之嘉吉納科錢一貫文、住吉村之助

七一貫文、坐嘉吉令助七竊伐樅材也、

○廿七日、二階堂右八郎示糸荷船漂着之日處置之

法且禁商唐貨、

○五月三日、與染布一端于岩河作左衛門時典、

賞乙以普請奉行一役于覺府司下造營第宅一之

事上精勤也、

○同日、與金子三百疋于日高杉右衛門、賞以下

納殿役人一役于覺府、就檢地之事來往于種

子島勤勞上也、

○同日、與金子三百疋于西村源左衛門時民、以

物奉行一役于覺府、當府庫困窮能辨金錢、

或下于種子島、速促材木備造管入與之事、
凡無停滯成就、故賞之也、

○五日、與粽于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○十八日、増田村洪水、大損田地、

○廿三日、西町桑原六次郎養子患痘、

○廿六日、公儀流人夫病死、聞于官、

○廿八日、奉命登城、賜久之字改名久

珍、即到國老・若年寄・大目附之第謝之、

○監察一向宗聞于官、如例、

○六月一日、奉命登城、拜謝續家統、且

請命改字彈正、即到國老・若年寄・大目附

等之第謝之、歸而於奥書院開賀筵、又翌

日招親族于表書院賀之、事開左、

○三七三 末川久平申渡書

報七郎殿事
種子嶋彈正殿

右、名跡相續之御禮被 仰付候通、願之通名替被

仰付候条可申渡候、

六月朔日

(采川久平
將監)

○六日、西之村足輕濱田仙助・濱田孫吉下獄二年、日、坐結黨入流人隨音宅一狼藉也、

○同日、所放于西之村之流人隨音下獄二年、不顧分限驕奢侮人、以出家之身耽淫欲、或稱失所有之金將托罪于結黨之徒、故及于茲、

○同日、西之村之日高佐平次姉密通于流人隨音、罪之爲住吉村庄官之婢女一箇年、

○同日、西之村之藤太郎・甚助・七次郎・新七・武吉・平吉・仁平次・八次郎・孫市・十作・善次・孫平・新作・仁作・權次郎・助次郎・仙五郎・藤十郎・十助・金助・平作・傳吉・金平・金六・宇作・仙之進・藤次郎・金次郎・藤助・岩次郎・專藏・弥助・金助・惣十郎・新六・金太郎、坐是輩隨仙助・孫吉入隨音宅一狼藉、修道路三十日、

○同日、叱西之村庄官濱田萬之進、村吏名越市十郎・河東休次郎・名越惣四郎・鮫島友市、以村中教令不嚴仙助之徒數十人結黨狼藉也、

○十六日、加與永代扶持高一石于柳田今右衛門、賞爲巧匠之棟梁役于覺郎、能稱其職而速就第宅造營之功也、

○十八日、以上妻才次郎宗敏爲家老、

○廿一日、以繼家統赦公儀流人友吉、下中之村之新吉、油久村之平五郎、同村足輕有留次平太、池田浦之太吉、島間浦之覺之允・惣助・庄市、岩屋口浦之小市、

○廿五日、與金子三百足于田上市郎、以老年多病頻辭職、然而愛其才不許、賞其多年勤勞與之、以助其貧、

○廿九日、夏越之式、如例、

○七月七日、家老上妻才次郎宗敏拜日深公鑑、如例、

○同日、牧平七・平山一右衛門・大山小太郎初謁

見、牧・平山獻_二征矢_一、大山獻_二火繩_一、

- 八日・九日、於_二本源寺_一修_二清孝院殿十七回忌_一、
初日八講、結日頓寫說道、名代家老西村甚五太太
時員、松壽院殿名代西村源左衛門時民、時中及左
登名代河内六郎時然、法事奉行森周右衛門友諒・
西村休八時乘、靈膳奉行種子島權之允・美座善兵
衛、手長羽生紋九郎・野間龍之助、詰衆前田平八
・河東仲助・市來勝之進・羽生平左衛門、出家三
十五人、

- 八日、名代家老上妻才次郎宗敏詣_二于大會寺_一、
祭_二祖先及戰死之靈_一、

- 九日、以_二平山新兵衛武雄_一爲_二物奉行_一、美座源
助留主居_{船奉行}
如故、

- 十三日、名代家老岩河十右衛門時行詣_二于慈遠
寺_一、祭_二祖先及戰死之靈_一、

- 十六日、名代家老西村甚五太太時員詣_二于本源寺
方丈_一、祭_二祖先及戰死之靈_一、

- 廿五日、野間村之才之允・國上村之芝伊左衛門

下_レ獄、伊左衛門納_二櫃_一于蠟澄屋_一及_レ歸盜_一収_二于
府庫_一之櫃_一故也、

- 八月一日、賜_二中紙各二束_一于慈遠寺・大會寺_一、
二箇寺亦獻_二同品_一、

- 十五日、蓮勝寺獻_二神酒・粟盛_一、

- 十七日、以_二西村十左衛門時弘_一・日高源藏爲_二親_一
爲_二用人_一、鮫島有右衛門馬役、有右衛門以_二數年
勤_一勞_二于勝手方_一也、

- 同日、締方横目松崎十太郎・種子島翁之助來、

- 廿四日、島津内匠殿第二女成_二婚姻之約_一、松壽
院殿到_二彼第_一、廿八日、内匠殿夫婦・又八郎殿
夫婦及婦女來結納、

- 以_二西村惣次_一爲_二近習役_一、

- 九月九日、使_二西村十左衛門時弘讀_二法章_一、

- 十五日、以_二日高嘉兵衛_一爲_二船奉行_一、出_二座于勝
手方_一、歲與_二米六斗_一、

- 十八日、浴_二櫻島温泉_一、

- 廿一日、締方横目藤島孫右衛門・有川壯次郎歸、

○廿二日、梶原岩右衛門寺三入于浄光寺二五七日、
庖丁人太山太郎右衛門・荒木休五郎寺三入于妙昌
寺二二七日、吉平友碩寺三入妙泉寺二七日、坐三簿
書不_レ正也、

○國老傳三 縣官之令一、命_下日本人漂_二流于外國_一者
則乘_二唐船或阿蘭陀船_一可_中歸國_上、又_示外國船渡
來之日處置之法、且_禁商人着_二美服_一、事開_二于
左_一、

○三七四 幕府触書

日本人之内、外國江漂流いたし候ものとも、手寄
次第唐・阿蘭陀之内江請取可連越候、其外之國、
より連越候ハ、請取間敷旨、此度在番かびたん江
申渡、外國之者共江茂通達ニ為及候、右ニ付而
者、向後唐・阿蘭陀之外外國之者共、若漂流人連
渡候儀有之候共請取申間敷候、

一 外國船何連之浦、江乘寄候共、去寅年相達候通、
薪水食料等乞候ハ、其廉而已用弁いたし遣、早

く出帆為致候様取計可申候、右之外都而去寅年相
達置候通可心得候、

右之趣、万石以上領分ニ海邊有之候面、江不洩
様可被相觸候、

八月

○三七五 幕府触書

(三七五の上)

大目附江

町人男女衣服之儀ニ付而者、前より觸并去寅十
月相觸候趣ニ有之候処、木綿ニ而模様等織出手数
相掛候品、高價ニ商ひ候もの有之、今般吟味之上
夫、咎申付候、右者他之聞得而已儉素ニいたし、
内実僑奢之風儀不致事与相心得、不埒之至ニ候、
已後呉服物ニ不限、何品ニ而茂右躰之品決而賣買
致間敷候、尤呉服之儀者國々元方江茂急度申渡事
候間、此後手数相掛綿純子・縮緬等見紛候木綿、
其外絹紬之類送越候ハ、早速可訴出候、萬一
等閑ニ相心得、觸表之趣相背者於有之者、吟味之上急

度咎可申付候、

右之趣違失無之様、御領者其所之奉行・御代官、私領者領主・地頭より急度可申付候、

右之通可被相觸候、

八月

^{三七五の二}別紙七通之通、

公儀被仰渡候条、與中・支配中・諸郷江不洩様可申渡もの也、

御家老座印

○國老島津和泉・調所笑左衛門示下収_二貢税_一之法上、事開_二于左_一、

○三七六 調所広郷・島津久風連署申渡書

諸所御藏之御年貢并出米取納方者勿論、給地取納之儀茂近年枅目強成立候ニ付、當秋より御旧法ニ被復、屹与適當之枅目致間敷趣共、先達而難有仰

出之趣者、諸郷一統奉承知候通ニ候、此上相違之向者無之筈候得共、以來之儀猶又左之通被仰付候、

一御藏、取納米斗方之次第、ゆり込割斗かきニ而搔切取納被仰付候、尤斗場敷付筵三枚落敷米之儀者剝上、取納人江引渡、左候而筵幅之尺定法茂有之事ニ付、鹿末之筵敷付之儀者堅致無用、入実俵作之次第者江戸御續兵庫繼船、其外諸御用米是迄之振合可取計候、

一御藏之小枅斗之儀者、起尅升之御法候間、其心得を以可致取納候、

一御田取納期ニ付而者、寅年申渡有之候通可取計候、

一諸寺院并御當地諸郷給地高取納ニ付而者、是迄依高主分外之取納及枅目候哉ニ相聞得、分而心得違之事候付、當秋より者御法之通尅起式斗入者表改、枅式斗式升搔切ニ而致取納、且又給地之内斗枅取納御免之家柄共取入、御藏米同様ゆり込搔切

二而、何れ茂取納米散米之儀者、斗場敷筵三枚
剗上作人江可差返候、此上ながら格別之御趣意茂
不願、御法違研目を以致取納候聞得之向候ハ、
先達而申渡有之候通、夫々支配ニ相届可訴出候、
左候ハ、実事糺方之上、吃与可及沙汰勿論、取納
方直取納者差止、高場最寄出物蔵江上納可申付
候、

右之通、取納方猶又嚴重被仰付候条、此旨表方
江致通達、奥掛御勝手江茂相達、諸郷・私領江
不洩様可申渡候、

八月

(島津久風)
和泉
(調所広郷)
笑左衛門

〇三七七 調所広郷・島津久風連署達書

三七七のし
一給地高出米之儀、高奉行書出通為致、取納何様と
の趣者追々申渡置候通候、然處是迄部下り足米を
以出米入付候茂有之候处、部下り之儀追々諸郷依
願差止候付而者、當秋より出米書出等改候様申付

筈候得共、既取納時ニ茂差掛たる事候間、混雜茂
可致候、足米書入申付候而者、部下り被仰付置候
高場所江夫々於御場所現米為致上納候筈候条、其
通可相心得候、尤来秋出米之儀、右通ニ而差支向
茂候ハ、高奉行申出、出米相改候様可致候、此旨
向々江不洩様早々可致通達候、

九月

(島津久風)
和泉
(調所広郷)
笑左衛門

三七七のし
右之通、被得其意、此書付登方江返納可有候、以
上、

九月

(久松)
大身分觸役所
種子嶋弾正殿

〇閏九月五日、國上村庄官日高休左衛門寺ニ入于満
徳寺ニ七日、坐ニ加籠之鯉船漂來之日處置不_レ宜
也、

〇十一日、以西村甚四郎ニ爲_レ物奉行、種子島五

郎衛門物奉行見習、西村城助・平山唯七兵具奉行、甚四郎・五郎衛門各歳與米二斛免役于覺府邸、

○十三日、唐物横目新納仁郎・附役關田番藏來、

○十六日、上西之表吉永新吉以納錢五十貫文爲二世足輕、

○廿日、吉平友碩寺入于妙泉寺一七日、坐爲覺府茶湯之時簿書錯雜不正也、

○同日、包人太山太郎右衛門・荒木休五郎寺入于妙昌寺各二七日、坐役于覺府之時簿書不正也、

○同日、梶原岩右衛門寺入于淨光寺一五七日、爲覺邸普請方下吏總計作簿、或不記工人之姓名、或不因券書出財、所宜重罪、然修造煩冗、故有恕及茲、

○同日、叱笹河五兵衛、製屏風一齣壁簿中記可羅紙三千五百枚、檢此無所用、故及茲、

○國老島津和泉・調所笑左衛門傳命、禁諸有

司入郷里私仕役夫、或貪飲食、且取稅米之日、漫料斗以疲下民、事記左、

○三七八 調所広郷・島津久風連署申渡書

^{三七八の1}諸奉公人宿送人馬并滞在中夫仕沙汰二付而者、每度申渡置候趣茂有之候得共、兎角緩ニ成立、近来別而夫高二相及、農業方妨ニ相成候儀、勿論問ニ者百姓共出錢ニ茂相及、甚致難渋候段相聞得、就而者不勤弁之面、助夫助馬等差立候様及相談候共、已來者被定置候、御法を以相斷、一切差出間敷候、尤通行之節ニ宿案内并水夫等定置候外、是又差出間敷候、就中谷山・伊集院・郡山・蒲生・重留・加治木・福山・新城・花岡等者、諸所江其通行要路ニ候得者、右驛ニおひて不法之人馬不差通候得者、おのつから通行不相調事候處、是迄大形之趣相聞得不埒之事候得共、此節迄者不及沙汰候、勿論不行届之儀於有之者急度可申付候、一夫仕之儀、御奉公人さへ右通之分ニ付而者、以後

共自俣ニ召仕候儀者勿論有間敷事ニ候、

一諸奉公人差入之節、酒食等差出間敷之趣茂已前より申渡置事候得共、今以其儀不相止趣与相聞得、

甚不可然事ニ候、以来者何御役たりとも一切可為

無用候、依向柄等酒飯等不差出候得者氣受不宜趣

を以致馳走、内実者其奉公人江名付其席江相加り、

諸入用付増、百姓共江出銭申付、尤入用之次第者

委敷不相分様油銭等之名目ニ而、郡見廻・庄屋在

役共不束之取計いたし候向茂有之哉ニ相聞得、別

而不埒之至候得者、是以已前之儀者令用捨候間、

以来屹与取違有之間敷候、

一近年何方茂御蔵枿目過當之趣申觸候得共、當秋より御旧法ニ復候様被仰付候ニ付而者、全申分茂無

之筈ニ候、併是迄之儀枿目のミ無之、前文之通無

故諸出銭を代米ニ而取揃、御年貢之外過分ニ為差

出、百姓共別而致迷惑候趣茂相聞得、如何至極之

事ニ御座候、已來之儀見分を茂かけ置候付、右躰

不埒之聞得候ハ、屹与可及取扱候、

右之通表方江致通達、奥掛御勝手方江も相達、

諸郷不洩様早々可申渡候、

調所
九月 和泉

調所
笑左衛門

三七八の二

右之通被得其意、此書付央方江返納可有之候、

大身分觸役所

種子嶋彈正殿

○十月九日、名代家老岩河十右衛門時行詣于本源

寺、盛供于宗祖之餅上、

○同日、賜青銅各三百疋于島間浦之清四郎・榮太

郎及水梢、賞下載米到于覺府、歸郷六日復到于

覺府速上也、

○十一日、名代家老美座十郎右衛門時敏、十三日、

名代家老上妻小左衛門定直詣于本源寺祭宗

祖、

○十五日、現和村庄司浦之甚次郎發狂縊死、事

聞_二官、

○廿八日、唐物横目染川彦八・附役日高戸左衛門

歸、

○十一月十三日、西村百太郎初謁見、獻_二征矢、

○十九日、以_二美座矢太右衛門_一爲_二留主居本役、

○廿二日、歸_レ自_二櫻島温泉、

○廿三日、官使_二野村弘記侍_一吾左右、

○廿九日、與_二染布一端于平瀬太郎右衛門_一、謝_レ

獻_二自製之鐵炮_一也、

○賜_二上下地各一具・太織細各一端于家老西村甚五

太夫時員・平山傳一郎武世・前田十九郎宗恭・上

妻小左衛門定直・美座十郎右衛門時敏・岩河十右

衛門時行・上妻才次郎宗敏、上下地各一具物奉行

西村甚五兵衛時_(下)・西村源左衛門時民・羽生太左

衛門能俊・種子島次郎左衛門時習・前田新五兵衛

宗誠・西村甚四郎時宴・種子島五郎衛門時義、用

人下村惣太郎時憲・種子島友右衛門時大・西村田

代時和・上妻七兵衛宗徳・西村九郎時起・河内六

郎時然・森周右衛門友諒・渡邊早右衛門兼重、

○以上妻七兵衛宗徳_一爲_二物奉行格_一、用人如_レ故、

○檢_二察一向宗_一聞_二于官_一、如_レ例、

○十二月一日夜、坂井村足輕池山勘次郎宅火、延

及_二足輕上妻善次郎宅_一、勘次郎焼_二宗門手札三

枚_一、事聞_二官_一、

○七日、以_二西村直之進・西村城助・平山唯七_一爲_二

組頭_一、西村十左衛門本源寺社奉行、美座源助

異國方掛、

○十一日、奉_レ命登_二城_一、國老島津和泉傳_レ命

曰、種子島者離_二本州_一之孤島而異國船之要路、

非_二庸人所_一能守_一、故使_二久珍續_二種子島氏之家

統_一、速下島而正_二齊家政_一、且須_レ嚴_二異國船防禦

備_一、事記_レ左、

○三七九 島津久風達書

御用之儀御座候間、明十二日四時可被成御登城

候、

十二月十一日 (島津久風)
和泉

種子嶋彈正殿 (久珍)

○三八〇 島津久風達書

種子嶋彈正 (久珍)

右者、種子島之儀端島、殊ニ吳國口之事候付、長
々家跡等ニ而被差置場所柄ニ而無之所より、別段
之厚以 思召亡伊勢名跡相續被 仰出候ニ付、追
々致下嶋仕置向者勿論、次ニ者吳國船漂來等之節
之手當向、萬端手厚指揮有之候様被仰付候、

十二月 (島津久風)
和泉

○十二日、以三上里村羽生助七ニ爲二世郷士、以下
爲ニ松壽院殿僕ニ數年勤仕上也、

○十三日、上妻源左衛門獻ニ斗搗之餅、如レ例、
○十六日、與ニ銀一枚于莖永村馬場友次郎、以下
爲ニ松壽院殿僕ニ勤仕今歳致仕歸島上也、

○使下調所笑左衛門・碓山將曹・島津石見及種子島

加次右衛門・友野市助・海老原宗之允・丸田泰藏
属ニ于吾ニ助中家政上、事記レ左、

○三八一 島津久風申渡書

調所笑左衛門 (広郷)
碓山將曹 (島津久徳)

右者、種子島之儀端島、殊ニ吳國口之事候間、長
々家跡等ニ而可被召置場所ニ而無之処より、別段
之以 思召彈正殿江種子嶋伊勢名跡相續被 仰出
候御事ニ候、就而者彈正殿より御相談も候ハ、
島津石見申談、此涯致御世話候様被仰付候条、此
旨彈正殿用頼江可申渡候、

十二月 (島津久風)
和泉

○三八二 島津久風申渡書

嶋津石見 (久登)

右者、種子島之儀端嶋、殊ニ吳國口之事候ニ付、
長々家跡等ニ而可被召置場所ニ無之処より、別段

之以 思召彈正殿江種子島伊勢名跡相續被 仰出候付、掛被仰付候条、萬端致御世話候様被仰付候条、此旨彈正殿用頼江可申渡候、

十二月 (島津久風) 和泉

○三八三 島津久風申渡書

種子嶋加次右衛門

右者、彈正殿事亡種子島伊勢名跡相續被 仰出、島津石見殿其外江掛被仰付、諸事致御世話候様被仰付候、就而者加次右衛門儀者末家儀ニ而、おのつから御世話可申上事候得者、右掛御役、江得差圖候儀候、其通ニ而、猶万端御世話申上候様被仰付候条可申渡候、

十二月 (島津久風) 和泉

○三八四 島津久風申渡書

友野市助

海老原宗之丞 (清忠)

右者、彈正殿事種子島伊勢名跡相續被 仰出候付、島津石見殿江掛被仰付、此節調所笑左衛門殿・碓山將曹江此涯致御世話候様被仰付ニ付、宗之丞ニも被掛置候間、右三人江得差圖、万端御都合取計候様被仰付候条可申渡候、

十二月 (島津久風) 和泉

○三八五 島津久風申渡書

丸田泰藏

右者、彈正殿事亡種子島伊勢名跡相續被 仰出候ニ付、鳴津石見殿其外江此涯致御世話候様被仰付候条、種子島加次右衛門申談、掛之面、江得差圖候儀者、其通ニ而、万端御都合取計候様被仰付候条可申渡候、

十二月 (島津久風) 和泉

○穎娃別府村松村門名子仙藏以ニ一向宗見放來、
○國老島津和泉・調所笑左衛門傳賀ニ年始一所飾

松、用_レ枝不_レ可_レ用_レ幹之令上、事記_レ左、

○三八六 島津久風申渡書

年頭飾松之儀、御一門方を始諸士・寺社家・諸郷・町・濱・寺門前其外ニいたり末々、外廻り門迄、手輕枝松類召建、其外之所者相立間敷との趣者、享和之度申渡之趣有之、猶其後茂同様申渡相成候処、又々近年仰山ニ相立候向も有之由相聞得、無益之事候条、来年頭より者松并小松相立候儀者急度令停止、外廻り門迄ニ手輕枝松類相飾候様被仰付候、右ニ付而者見分を茂掛置候付、乍此上万一不守之向茂候ハ、急度可及沙汰候、此旨組中・支配中・諸郷不洩様早々可被申渡候、

十二月

(島津久風)
和泉

○三八七 調所広郷申渡書

年頭飾松之儀、御改革御年限中者、御樓門・北御門・二之丸御門迄、是迄之通五重之松相立、其外

諸御門者、都而枝松相飾候様被仰付候条、可承向

江可申渡候、

十二月

(調所広郷)
笑左衛門

○國老以_ニ連名之書_ニ禁_ニ造言乱_ニ風俗_ニ、事開_レ左、

○三八八 調所広郷外五名連署申渡書

頃日無筋風説申觸候者有之由相聞得候、不詮儀候得共、御政道を妨、風俗を乱候端ニ相成、其咎不輕候、御領國之儀者、平生大切ニ奉存、假初ニ茂右躰之儀、曾而無之咎候処、却而誹誇ケ間敷風俗等申觸候儀、早竟其者之心躰不忠与申外無之、甚以不届ニ候、依之糺方トシテ此節横目被仰付置候、風説聞立次第稠敷遂穿儀、名元相知候ハ、少茂不被加御不便切腹、又者死罪可被仰付候条、無間違奉承知、至其時及後悔間敷候、尤輕儀迎茂無故風説申觸候儀、一切令停止候、右之通安永之度被仰渡、其後茂追々申渡候趣茂有之候処、程過候

得者致忘却候哉、不詮立落書又者無筋風說申觸候
聞得有之、第一御上を不奉惶憚心底、御政道之妨
ニ茂相成、分而不届至極之事ニ候、就而者見分を
茂掛置候ニ付、御取扱被仰付、親兄弟逆茂急度可
及迷惑候条、末々ニ至迄決而取違有之間敷候、此
旨支配人江も可被申渡旨向々江不洩様申渡、諸郷
・私領江茂可申渡候、

(島津久風)

和泉

(島津久浮)

石見

(兼刈隆親)

安房

(島津久備)

登

(猪飼尚敏)

中央

(關所広郷)

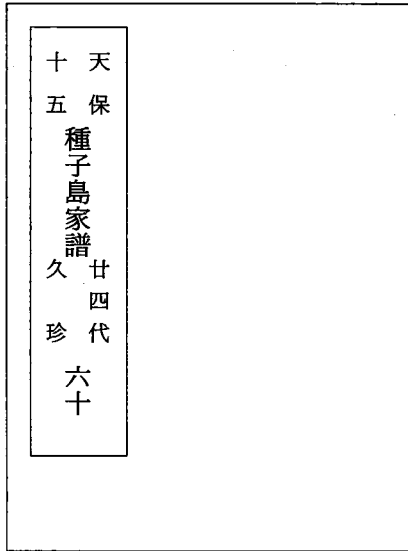
笑左衛門

十二月

○廿七日、廿人家・三箇寺・鍛冶献上、如レ例、

○歳暮之規式、如レ例、

表紙



- 天保十五年甲辰正月元日、規式、如例、
- 同日、國上村獻ニ野老、
- 二日、國上村獻ニ海物、現和村庄司浦鯨、
- 同日、覽レ馬、名代家老上妻小左衛門定直・馬役西村員右衛門、
- 同日、八箇寺獻上如例、名代家老上妻小左衛門定直、

○四日、上之郡庄官・小觸獻上、如例、

○六日、初狩、名代家老上妻小左衛門定直、物奉行

前田新五兵衛宗誠、用人上妻七兵衛宗徳、組頭西

村城助時(A)・渡邊早右衛門兼重・平山唯七武経、

山奉行中田宇平太・下村源之允・岩河助七・羽生

紋九郎、於ニ夕狩場ニ西之表庄官獻ニ酒肴、如

例、

○七日、中之郡・下之郡庄官獻上如例、家老上妻

小左衛門定直受レ之、

○同日、賜ニ染布一端于林林蔵、賞下以ニ調菜ニ役

于覺邸ニ稱ニ其職上也、

○十一日、古田村蓮勝寺獻ニ神酒・黍盛、

○同日、甲冑之賀筵、如例、

○同日、在郷諸寺獻上如例、名代家老上妻小左衛

門定直、

○同日、的始、名代家老上妻小左衛門定直、用人森

周右衛門友諒、射手一番美座矢太郎、二番下村源助、

三番羽生辰之允、
日高次郎

○同日、本源寺軍陣・温坐祈念、如例、

○同日、奉_下可_レ守_二衛柝形柵門_一之命_上、

○十三日、叱_二鮫島宗左衛門_一、去歲冬使_下宗左衛門

監_中現和村製_二砂糖_一之事_上、過燒_二所_レ居之小屋及所_レ藏之砂糖_一、故坐_二其怠慢_一也、爨夫平太亦坐_レ不少心護_レ火使_レ納_二科錢_一三百文、

○十六日、本源寺祈念、名代家老上妻小左衛門定直、

○廿一日、放_二西之村_一流人野田下名村添留門本湯田名字惣兵衛死、事聞_二于_一官、

○廿四日、放_二野間村_一摂州西成郡曾根村住吉屋利兵衛發_レ狂、以_二菜刀_一殺_二野間村原之門名頭亡惣八母及其妹_一、己亦自殺、締方横目松崎十太郎・種子島翁之助、吾横目河内六郎・西村田代監_二察其骸_一、事聞_二于_一官、

○廿八日、有_二違_レ意之事_一禁_二錮白男川隆庵_一、

○太守公以_レ繼_二種子島之家統_一賜_二銀百貫目_一、事聞_二于_一左、

○三八九 藩達書

銀百貫目

種子嶋_(久珍)彈正殿

右者、亡種子嶋伊勢名跡相續被_レ仰出候_二付_一、本行之通被遣候間、知行高之内他借等之方江振向有之候ハ、本行銀子_二而高取返_一、彈正殿一生御續料_二相備候様被_レ仰付候、

○監察丁夫・病夫及有職者聞_二于_一官、如例、

○二月十五日、柳田千榮・河内覺右衛門・長野壯之助初謁見

○廿二日、行_二婚姻之儀_一、

○廿五日、現和村田脇浦之周次郎納_二科錢一貫文_一、坐_二竊買_二莪荒_一也、柳田善兵衛科錢三十五貫文称_二禁制之物_一、執_二周次郎所_レ買之莪荒_一、藏_二之己家_一速不_レ告_二于_一廷、故及_レ茲、

○同日、住吉村之與吉納_二科錢一貫文_一、平次郎五百文、共坐_レ偷_二所_レ禁之材_一也、

○同日、上西之表之善之允・喜七・甚太・善吉・岩

吉、各納科錢五百文、坐竊伐國上山之松也、

○同日、賜染布一端于平瀬太郎右衛門、賞製鉄炮一挺獻之也、

○廿六日、唐物横目川上五後右衛門、附役長山治左衛門、締方志岐正八郎・徳永十左衛門來、

○廿八日、河内百助・羽生才之允初謁見、

○按察一向宗聞于官、如例、

○調所笑左衛門故家來舊恒吉名字小右衛門以一向宗見放來、

○三月三日、使西村休八時乘讀法章、

○同日、與艾餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、賀瀬引西之表庄官獻酒肴、

○同日、西村休八時乘代三役・諸奉行、名越木工之進代諸士、趣于覺府賀婚儀、

○五日、賜赤米四斗于八板盛右衛門及水楢、載材至覺邸之日昏儀頻煩役仕數日、故及茲、

○八日、唐物横目新納二郎・附役關田伴藏歸、

○十五日、納官村濱津脇浦船主甚四郎納科錢三百文、坐_下到坊之津、及歸載_中無信牌貨物上_上也、

○十八日夜、現和村西之門名頭勘四郎宅火、燒宗門手札二枚、事聞于官、

○廿二日、以西村藏多爲船奉行、猶聽高奉行之事、

○廿三日、締方伊集院萬次郎來代志岐氏、

○廿五日、以遠藤直四郎爲勝手方吟味役、

○廿七日、本源寺弓場射禮、西村直之進金の束矢、

日高平次大胃腑當束矢、

○國老島津主計傳_レ命、使_下屬于吾_レ年寄女初野・中藤磯賜告歸_中江府_上、事記于左、

○三九〇 島津久宝申渡書

御年寄

初野

御中藏

右者、種子嶋彈正殿江被附置候處、彈正殿所帶方極難涉ニ付、此節勝手向格外取縮ニ而例向より被及減少候ニ付、右兩人を永々御暇被下、歸府被仰付候条、仕廻次第立日限申出候様可被申渡候、

三月

(島津久室)
主計

○四月五日、島間村一世郷士柳田甚之進為二代々郷士、從坂井村庄官轉横目、數年勤勞故也、

○七日、家老・物奉行・用人・組頭觀武藝、

○同日、吉良甚助寺入于妙昌寺三七日、坐為

覺邸普請方下吏簿書不也正也、

○十四日、締方種子島翁之助・松崎十太郎・志岐正

八郎歸、志岐氏以親之病也、

○十五日、野間村足輕隅田四郎太為二代々郷士、

納錢八十貫文助府庫故也、

○同日、上西表一世足輕名越只右衛門為二代々足

輕、從去年四月至今為僕能勤仕故也、

○十八日、國老菱刈安房・島津石見・島津主計傳長崎奉行異國船之令、如例、

○十九日、二階堂右八郎示了糸荷船漂流之處置且

禁商之唐貨、如例、

○西村藏多・下村十郎、各役于覺府一期滿歸島、

故與金子各百足、

○五月五日、與粽子三箇寺、慈遠寺獻同品、

○檢察一向宗聞于官、如例、

○栗野郷士亡木瀬森右衛門妻見放來、事開于

左、

○三九一 猪飼尚敏申渡書

嶋津右門地頭所栗野郷士
亡木瀬森右衛門妻

てつ龜

右、依科郷士召仕申付候段者、先達而申渡置候

処、望之者無之候ニ付、右格を以種子嶋預申付、

嶋中外致徘徊候儀、且親子兄弟江對面停止申付

候、

但致欠落候ニ付、郷士為被召放者ニ候、

右申渡、此節前之濱出帆、船主種子嶋之牧瀨仁三

太船より放者ニ而差越候条、中途羽かひ付ニ而宰

領相付本船江乗付候儀、如例可申渡候、

五月

(猪飼尚敏) 央

○六月六日、修聞法院妙覺日淨大姉三十三回忌于

本源寺塔中上行寺、

○八日、浴于櫻島温泉、

○十一日、以下、太守公獻金十五萬兩見助江戶

御本丸造營之費用、國老傳命、五箇年毎高

一石一賦米五升、每一人銀一匁、牛馬一匹銀一

匁、船八反帆至廿三反帆、一反八匁、五枚帆至

七反帆、一反五匁、四枚帆以下至橋舟・平駄、一

反二匁、

○晦日、賀夏越西之表庄官獻上、如例、

○七月七日、飾日深公之鑑于廣間、家老美座

十郎右衛門時敏拜之、

○八日、名代家老上妻才次郎宗敏詣于大會寺、

祭先祖・宗祖及戰死之靈、

○九日、名代吉利仲登城、奉見許婚姻之

命、

○十三日、名代家老上妻小左衛門定直詣于慈遠

寺・祭先考・宗祖及戰死之靈、

○十四日、名代家老美座十郎右衛門時敏詣于本源

寺・祭宗祖、

○十六日、名代家老平山傳一郎武世詣于本源寺、

祭先祖及戰死之靈、

○廿六日、馬追、名代家老上妻小左衛門定直、物奉

行上妻七兵衛宗徳、用人森周右衛門友諒、馬役美

座善兵衛・東嘉助・下村十藏・上妻新太夫、

○監察鬼利支丹宗聞于官、如例、

○以國老連名之書、命佛朗西船漂来于琉球國、

故日夜無怠當嚴異國船之備、即促飛船

告于種子島、國老之書開于左、

○三九二 島津久宝外四名連署申渡書

當三月十一日琉球江吳國船壹艘漂來、卸碇候ニ付相尋候処、吳國人者言語文字不通、唐人尅人乘組居、佛朗西國之船、人数式百三十人乘ニ而、洋中逢難船修甫并糧食為求方致來着候段申出、尤本船江石火矢等乗セ付有之候得共、兵船之様子ニ而者無之候間、船具修甫用之木并糧食等相與候處、右船乘頭より佛朗西國之儀中國致通融候ニ付、皇帝之命を受、中國隣近之諸國可致交通候間、琉球江茂致交易度旨申出候ニ付、琉球之儀產物相少交易不相調段、分而申断候處、一圓承知不致、此儀不相調候者和を通し可致好を結申聞候ニ付、是又相断候得共落着無之、猶追々彼國大總兵船可致來着候間、交易等速ニ吟味難相逐候ハ、右大總兵船來着之上何分返答可致由ニ而、同十九日、吳國人尅人・唐人尅人濱江卸置致出帆候ニ付、子細相尋候処、大總兵船來着之節為通事殘居候様乘頭より申付候段申出、無是非寺中明除召置、柵を結番所

等數軒相構、夜白勤番堅取締申付置候、然處同廿八日通事唐人を以啖咭喇國多年琉球を望ミ心深く、追々兵船差渡ニ而可有之、佛朗西國与致和好得保護候ハ、自ら暎國より被奪候御難も無之与申聞、其上天主教を強而傳授可致事之様申聞候得共、琉球者孔孟之道を学ひ候ニ付、天主教与申者難成与之様ニ而相断、折角叮嚀を盡し無吳儀令歸帆候様取計可致旨琉球より申越候、就而者此末大總兵船來着何様難洩申掛候儀も難計候ニ付、為御手當二階堂右八郎を始、其外御役、一組人数被差渡候ニ付、領分浦々昼夜心掛、吳様之船見掛候ハ、早々申越、兼而申渡置候通種子嶋江可被申渡者也、

七月

猪飼央(尚敷)

嶋津登(久藤)

菱刈安房(隆憲)

嶋津石見(久登)

嶋津主計(久宝)

種子嶋^(久參)彈正殿

- 八月朔日、與^二中紙各二束于慈遠寺・大會寺、
二箇寺亦獻^二同品、
- 三日、唐物方横目今村金次、附役宅間金之允、締
方種子島翁之助・志岐正八郎來、
- 五日、以^二上妻七兵衛^一爲^二物奉行^一、
- 十日、喜界島流人濱田喜七得^レ赦歸、
- 同日、以^二正行院日章^一爲^二本源寺住職^一、
- 十三日、賜^二白塩燗十斤于安納村村吏^一、賞^レ不^レ可^レ
怠^レ異國船之事^甲也、
- 十五日、古田村蓮勝寺獻^二神酒・黍盛^一、
- 十七日、現和村淺川之善太納^二科錢一貫文^一、半
治三貫二百文、善治四貫文、新次一貫二百文、與
平次三貫文、喜三次二百文、万左衛門二貫文、仲
太郎二貫二百文、休兵衛四貫文、六次郎一貫二百
文、七之允四貫文、坐^二竊賣^一我荒于遠藤八次及
田之脇浦之周次郎^一也、

- 十九日、遠藤八次寺^二入于中之村本善寺^一五年、
現和村田之脇浦之周次郎爲^二西之村塩戸樵夫^一三
年、共^レ以^二買^一我荒^一之罪^上也、
- 廿七日、唐物横目川上五後右衛門、附役長山次左
衛門、締方徳永十左衛門・伊集院萬次郎歸、
- 廿九日、賜^二青銅百疋于安城村杣師周之進^一、使^二
彼取^二五葉松板^一甚勞役、故賞^レ之也、
- 九月三日、遠藤喜右衛門寺^二入于妙昌寺^一三七日、
坐^レ爲^二覺邸普請方下吏^一簿書不^レ正也、
- 九日、令^二日高源藏爲親讀^一法章、
- 十二日、東市街池田休太郎下^レ獄百日、借^二國上
村足輕榎本紋治錢材^一不^レ贖^レ之、且借^二彼馬^一賣^レ
之、其餘所^レ爲不^レ正、故罪^レ之也、連及其父休右
衛門寺^二入于國上村本法寺^一七日、
- 同日、國上村之足輕榎本紋治寺^二入于安城村妙泰
寺^一三七日、與^二池田休太郎^一爭^二論借債之事^一、
令^二有司糾^レ之其言多^二妄謬^一、故罪^レ之也、
- 十七日至十九日、修^二日良法印三百五十遠忌于

本源寺、十七日名代家老上妻小左衛門定直、十日名代家老西村甚五大夫時員・家老上妻才次郎宗敏詣之、行香、

○廿三日、以用人森周右衛門友諒・船奉行宮浦藤九郎爲異國方掛、時任平八船奉行、平山佐一郎・羽生仙藏南戶奉行、岩河作左衛門高奉行、野間龍之助山奉行、

○奉下禁驕奢一事、節儉一省費用、富中府庫上、以下當安國家之命上、故出書以示下修家政之事、家老上、事開于左、

○三九三 申渡覺

覺

御用有之、可致登城之処折節病中、川上龍衛名代三而別紙之通被仰出候趣致承知候、鳴元之儀一統御趣意難有謹而奉承知候、取違無之樣可相心得候、藏方難涉付昨年改革申渡、新古借財取補之趣法相立、一統無益之費相省候段申付置候折柄、

今般 仰出之趣ニ付而者、猶更身邊格別成省略不相用候而不叶儀ニ候条、鳴元諸士末々迄茂花美驕奢之風俗不被相行樣、質素節儉を専心掛、奉公向無滯相勤、精々儉約相用、家業不取失樣相嗜、屹与習俗立直趣意行届候樣可取計、此旨申付候、聊忘却いたす間敷候、

辰九月

役人中江

○十月三日、現和村近政之五市・七次郎、上西之表之周太郎、下中之村之休太郎・長助、平山村之善之助、安城村足輕小川政次郎・市十郎、坐于於處々博奕修道路二七日、

○同日、配于國上村大坂流人福藏配于安城村、若藏坐于於處々博奕上下獄一年、

○同日、安納村本蓮寺住職真善院納科錢一貫文、貶二本蓮寺一轉于極樂寺、坐于不願出家之身、招無賴之徒于寺内博奕也、

○同日、本源寺僧信瑞自性坊納科錢一貫文、坐於二本源寺塔中一博奕上也、

○同日、叱二國上村庄官日高休左衛門・安城村庄官鮫島新吉一、以レ不レ嚴二法令一使西流人徘徊博奕席甲也、

○六日、洲之崎浦之專次郎・次郎吉以下不告于唐物横目一釣中于馬毛島上修二道路一二七日、

○八日、長野幸之進寺三入于住吉村本成寺二二七日、坐下其子次郎於二處々一竊盜幽三于私室二、猶竊出二其牢一爲レ盜、幸之進居二同室一不レ察レ之甚緩怠上也、故及レ茲、

○同日、賜二白塩焔十斤于住吉村村吏一、賞レ不レ怠二異國方之事一也、

○九日、名代家老岩河十右衛門時行詣二于本源寺一、盛下祭三宗祖二之餅上、

○同日、西之表郷士牧瀬甚助下レ獄五年、有レ盜乙勝手方之金子甲者丙、令二有司謁問一常寓二直于城中一足輕以下之者、甚助亦其中也、其言胡亂而不

明、且平生之行不正無所逃罪、故及レ茲、
○同日、雷震電、

○十六日、以二國老連名之書一示下今歲來三于長崎港一阿蘭陀船來上、十八日促二歸帆一、若來三領内一卸レ碇、請三薪水一則與レ之、請二歸帆一則速可レ歸レ之也、事開三于左一、

○三九四 島津久宝外四名連署申渡書

當七月長崎江來津之阿蘭陀本國船壹艘、來ル十八日致出帆候二付、万一御領海之内江碇を入風待等いたし候上、又者薪水等相乞候ハ、繫留置相應御手當有之候様、風浪宜出帆いたし度趣申聞候ハ、無滯出帆之儀御取計可有之候旨、長崎御奉行被仰渡候条、得其意早レ申越候儀共、諸事無手拔様種子嶋江可被申渡者也、

十月十六日

猪飼高敏央
嶋津久備登
菱刈隆徳安房

鳴津石見(久遠)

鳴津主計(久遠)

種子嶋彈正殿(久遠)

○廿三日夜、納官村遠藤嘉之次宅火、人馬等無恙、

○改作政府、廿八日落成、

○國老島津主計傳、命、見許、製砂糖三十万斤、

○十一月三日、安城村妙泰寺番僧自眼院下獄、濱

津脇浦大火以來風説、自眼院所爲、故令、締方

横目種子島翁之助・志岐正八郎、吾横目日高源藏

爲親・西村十左衛門時弘・西村休八時乘詢問

之上、遂白狀曰、貧衲住濱津脇之寺、日與恒吉

者、友善、恒吉入贅亡甚太郎女、續家、后養母

不喜恒吉、故辭彼家歸、貧衲勸恒吉持

甚太郎牌主歸祭之、恒吉不肯、故自持之來

使強祭之、后謂貧衲曰、以師之教祭、甚

太郎神主、僕於理不甘心、將就妙昌寺師

正之、貧衲曰、汝不欲則屬于吾、吾須返

之彼家、自是心中各懷不平、且聞、以貧衲

好酒數發、狂里人疾之將追去、乃辭濱津

脇、移住于牧川之寺、十月二日夜獨飲酒、乘

醉熟思、將追吾者必恒吉所爲也、欲今宵與

彼爭論而究其實、行彼之宅不在家、於是

忿怒頻起、取所貯于廡下之藁、燃着火投戶

内、速歸而臥、醉裏不辨前後、明朝聞諸

人、稱濱津脇火盡燒失、初大驚携酒食去

與知音之者云、於是即下獄、事聞于官

以俟、命、

○同日夜、琉球大島飛船遇難風、漂于嶋間浦、

告二階堂右八郎無恙到于大島之事之船也、

即締方横目及吾横目檢見之、船少損、不加

修補、則不可涉大洋、故促小舟、乘大島

人三人、同七日發嶋間港、趣于本府、

○七日、賜赤米二斗于西市街之新左衛門、緣

有於寔邸患痘者、留彼船於寔府、久故也、

○八日、横目久保傳次郎護送大坂流人十四人
來、締方横目種子島翁之助・志岐正八郎、家老西
村甚五太夫時員・岩河十右衛門時行、横目渡邊早
右衛門兼重・種子島友右衛門時大及兵具奉行・内
横目等出之于船手受之、分與諸村庄官、流人
名如左、

○三九五 公儀流人書上

法華宗

一向宗

一向宗

一向宗

大念佛宗

浄土宗

浄土宗

無宿和泉之

無宿江州

無宿大仁之

筑山茂左衛門御代官所

河州茨田郡門真

三番村百姓

九右衛門二男

榮作

無宿機多前髪之

無宿

無宿機多村中之町菱屋

小四郎支配借屋紀伊國

屋岩吉同居

一向宗

一向宗

禪宗

真言宗

浄土宗

浄土宗

法華宗

音吉
無宿機多むんた之
鶴吉

松平主殿頭御預所豊後

大分郡京村之
幸吉

無宿京之
清吉

紀伊殿當表蔵屋敷
掃除人
喜助

高津町綿屋仁兵衛講師
瑞龍事

無宿淡路之
竹蔵

富三郎

○十六日、池村五右衛門寺入于妙泉寺、八板矢

一兵衛寺入于滿徳寺各七日、坐下爲米倉吏簿

書不正也、

○廿日、使下村要二製吾甲冑、故命下家老前田

十九郎宗恭、物奉行種子島次郎左衛門時習・平山

新兵衛武雄、用人西村休八時乘・河内六郎時然

監之、

○同日、島間浦之安次郎納科錢三十貫文、坐下

犯_レ法買_中樫材_上也、

○同日、安城村之鯨嶋直右衛門納_二科錢三貫文_一、納官村牧川之阿世知元治・住吉村深川之深田和太之進各科錢一貫文、坐_三共伐_レ所_レ禁之材_二也、

○同日、住吉村之深田仁作納_二科錢三十貫文_一、且収_三其斧_一、其黨住吉村羽島新太郎・遠藤市次郎・牧半次郎十五貫文、納官村竹之川塩戸次吉・七次十五貫文、坐_三共犯_レ法盜_三納官山之樫材_二也、

○同日、住吉村之長野善次納_二科錢十八貫文_一、其黨同村之長野平七・田上藤一九貫文、同村中宿湯田新次郎十五貫文、同村深田甚之進五貫文、坐_三犯_レ法盜_三樫材_二也、

○廿一日、賜_三青銅百疋于島間浦之幸助_一、賞_下琉球大鳴之飛船逢_二難風及於島間浦洋上_一、船將_レ覆、幸助獨游_三逆浪_二至_レ船、操_レ船入_二港中_一、輕_二身命_一救_中數人之命_上也、

○廿二日、叱_三住吉村横目羽嶋傳藏_一・平山今次_一・上妻勇吉_一・上妻五郎右衛門_一・鯨島半之允_一、坐_レ不_レ

察_三深田仁作等伐_レ禁木_二也、

○同日、賜_三青銅百疋于洲之崎浦之休太郎_一、賞_下在_二馬毛島_一見_三琉人船逢_二逆風_一、即至_二彼船_一自為_二夥長_一輒至_中於赤尾木港_上也、

○廿四日、落合四郎兵衛寺_三入于妙泉寺_二一十七日、坐_下爲_二船手下吏_一簿書不_中正_上也、

○廿七日、洲之崎浦之仲次郎禁_二旅行_一十二月、納官村之春田良吉納_二科錢五貫文_一、安城村之仲四郎一貫文、萬四郎・利三太各一貫文、藤八五百文、亡源太妻一貫三百文、亡藤六妻一貫四百文、納官村之仲四郎・政七各六百文、政之進・嘉左衛門各四百文、市之允五百文、半之進六百文、坐_下仲次郎犯_レ法買_三莪荒_二其餘賣_レ之也、

○廿八日、國老傳_レ命告_二前將軍家御臺所薨去之事_一、件々記_レ左、

○三九六 藩家老座申渡書
一位様御不例御養生不被為叶、去ル十日午上刻被

遊 薨去候旨從、公儀被仰渡候、依之普請・鳴物
・遊興ケ間敷儀、山野之殺生并魚臘^(マツ)迄茂、今日よ
り可停止候、日限之儀者追而可申渡候、此旨組中
江可申渡者也、

十一月廿八日

御家老座印

大身分觸役所

○三九七 島津久宝申渡書

三九七の1

松壽院殿

右者、去十日 一位様薨去ニ付、半減之忌服被相
受苦候得共、日數相過候ニ付、一日遠慮可有之
候、此段可申渡候、

十一月廿八日

(島津久宝)
主計

三九七の2

種子嶋彈正殿^(久珍)

右者、去十日 一位様薨去ニ付、他家養子ニ而半
減之忌服被相請苦候得共、日數相過候ニ付、一日
遠慮可有之候、此旨可申渡候、

十一月廿八日

○廿九日、以御臺所薨去、少將公賜使者被
弔慰、

○三九八 島津久宝申渡書

松壽院殿

種子嶋彈正殿^(久珍)

右者、

一位様薨去ニ付、少將様より奥向御使を以御尋被
仰付候、依之今日御使可相勤旨申渡、御使番江茂
可申渡候、

十一月廿九日

(島津久宝)
主計

○國老猪飼央傳、縣官之命、被諭阿蘭陀國使
節之船来于長崎之故、事關于左、

○三九九 猪飼尚敏申渡書

當七月中長崎表江阿蘭陀國使節軍船老親渡來書簡差上候、右大意者外國通商相願候儀を申立候迄ニ而、無別条事ニ候、世上ニおひて彼は雜説度可有之哉ニ付、心得罷在候向、江無急度可咄置事、

右之通從 公儀被仰渡候段申來候条、向、江可申渡候、

十一月

(猪飼尚敏)
央

○監察丁夫・病夫・有職者ニ聞ニ于 官、如レ例、

○十二月四日、 太守公嘗見レ請レ納ニ金十五萬兩、

以三助ニ 江城造営ニ見レ許レ之、今又有レ命曰、

近年諸國五穀不レ熟下民困窮、且從ニ 西之丸造

営ニ以来及ニ貢金數回、故減ニ十五萬兩、每ニ万石ニ

當レ納ニ五百兩ニ也、事開ニ于左、

○四〇〇 大身分觸役所達書

御本丸御普請ニ付、先達而願之通上納金被仰付候

得共、近年諸國作柄不宜、西之丸炎上之節御手傳

被仰付、其外御普請御修甫等ニ而御手傳御用數

度、且公役繁、被仰付候折柄之儀ニ付、格別之思

召を以願濟之通ニ者不及上納、一万石ニ付五百兩

之割合を以上納被 仰付候、尤今般願之通上納金

被仰付候面、も同様之思召ニ付、願高之通ニ者上

納ニ不及、一万石ニ付五百兩之割合を以上納被仰

付候、右之通被仰出候而者、銘々文道武備之心掛

手當共、是迄より一涯厚く引立候様との 御沙

汰ニ而、納方之儀者何茂三ヶ年ニ割合上納候様可

被致候、尤最前願濟之節年限之儀相達候向も可為

同前候、

右之通万石以上上納金願濟之面、并其外江も不

洩様可被達候、

十一月

右之通被得其意、此書付石見方江返納可有之候、

十二月四日

大身分觸役所

種子嶋彈正殿^(久珍)

- 十二日、以西村甚五右衛門時哉・種子島友之助政賢・西村直之進時義^二爲^二用人^一、野間仲左衛門船奉行、肥後渡前番頭、
- 十三日、上妻源左衛門獻^二斗搗之餅^一、如^レ例、
- 同日、改^三元弘化^一、
- 十五日、平山力之助・河東龜太郎初謁見、獻^二各征矢^一、河野休藏・小田彦太郎初謁見、獻^二火繩^一、如^レ例、
- 廿四日、禁^三錮有留五右衛門^一、坐^下爲^三現和村稅吏^一簿中有^中真米四十三石三升七合・赤米十一石七斗九升^二合拂不足^上也、
- 廿七日、二十人家及三箇寺・鍛冶獻^上、如^レ例、
- 廿八日、下村四郎初謁見、獻^二征矢^一、緒方長袈裟初謁見、獻^二火繩^一、如^レ例、
- 歲暮之規式、如^レ例、

弘化	廿四代
二年	久珍
種子島家譜	六十一

- 弘化二年乙巳正月元日、規式、如例、
- 同日、國上村獻_二野老_一、
- 二日、國上村獻_二瀨物_一、現和村庄司浦獻_レ鯨、
- 同日、覽_レ馬、名代家老西村甚五太夫時員、
- 同日、八箇寺獻上如例、名代家老西村甚五太夫時員、
- 同日、以_二美座玄助_一爲_二留主居_一、

○四日、上之郡庄屋・小觸獻上如例、家老平山傳一郎武世受_レ之、

○同日、以_二河内六郎時然_一爲_二大會寺社奉行_一、

○六日、初狩、名代家老前田十九郎宗恭、物奉行種子島五郎衛門時義、用人河内六郎時然、組頭森周

右衛門友諒・西村直之進時義・西村休八時乘、山

奉行中田宇平太・羽生紋九郎・下村源之允・野間

龍之助、於_二夕狩場_一西之表庄屋獻_二酒肴_一、如

例、

○七日、中之郡・下之郡庄屋獻上如例、家老平山

傳一郎武世受_レ之、

○十一日、蓮勝寺獻_二神酒・棗盛_一、

○同日、甲冑之賀、如例、

○同日、在郷諸寺獻上如例、名代家老平山傳一郎

武世、

○同日、的始、名代家老上妻才次郎宗敏、用人西村

甚五右衛門時哉、射手一番_{美座矢太郎}、二番_{上妻彌七}

下村_{羽生才之允}、三番_{日高六郎}、四郎

○同日、本源寺軍陣・温坐祈念、如例、

○十四日、官以有頃日諸有司奉役來往于郷里之日謾増丁夫一、或留滞之間貪飲食、村吏亦托之私収下民之錢財之説上、出法書以警之、如左、

○四〇一 藩達書

一諸奉公人宿送并夫仕沙汰ニ付而者、每度申渡置候趣茂有之候得共、兎角緩ニ成立、近来別而夫高ニ相及、農業方妨ニ相成候儀者勿論、間ニ者百姓共出錢ニも相及甚難波候段相聞得、就而者不勤弁之面、助夫・助馬等差立候様及相談候得共、已來者屹与被定置候御法を以相断、一切差出間敷候、尤通行之節者、右案内并水夫等に至り、定置候外者は又差出間敷候、就中谷山・伊集院・郡山・蒲生・重富・加治木・福山・新城・花岡等之諸所、通行要路ニ候得者、右驛におひて不法之人馬不差出候得者、おのつから通行不相調事候處、是迄大形

之趣、不埒之事候得共、此節迄者不及沙汰候、向後不行届儀於有之者急度可申付候、

一諸奉公人差入之節、酒食差出間敷与之趣茂已前より申渡候事候得共、今以其儀不相止趣相聞得、甚不可然事ニ候、已來者何御役場たりとも一切可致無用候、是迄向柄により酒飯等不差出候得者已來受不宜趣を以馳走、内実者御奉公人に名付、其席江相加諸入用付増、百姓共江出錢申付、尤入用之次第者委細不相分様、油錢等之名目ニ而、郡見舞・庄屋・在役共不束之取計致候向茂有之哉に相聞得、別而不埒之至りに候得共、是以已前之儀者令用捨候間、已來屹与取違有之間敷候、

○同日、令普請奉行傳新造居第一者、復舊法、請命而後始経營之旨上、是依近来舊法廢弛也、

○十五日、荒木休五郎以有膳夫之功為一世郷士、

○十六日、本源寺祈念、名代家老上妻小左衛門定直、

○廿一日、増田村小塩屋塩戸之三次郎宅火、焼宗門手札、事聞于官、

○廿九日、岩川鐵千代元服、名代家老上妻才次郎宗敏加冠、家老上妻小左衛門定直理髮、改名彌七郎時可、其餘獻賜如例、

○同日、三浦平藏・吉良六郎・武田矢太郎初謁見、名代家老上妻才次郎宗敏、

○點檢丁夫・病夫及有職者聞于官、如例、

○二月三日、八郎次時中卒、法諱梅園院林香日源居士、士・士・足輕禁三月代十日、殺生・遊興十日、

普請作事・漁獵三日、

○七日、徳永直吉・牧瀬四郎・榎本新吉・木原半蔵・笹河太吉・牧瀬甚助、各滯納去歲卯之本出米、故應米數収其高一有差、

○八日、唐物方横目野添善之助、附役池田彦兵衛、締方横目坂元吉左衛門・羽田孫助來、

○十二日、與篠卷二端于坂井村之上浦幸次郎、以多年勤勞于作見廻也、

○廿二日、名越奎之進寺入于日輪寺三七日、川口十寺入于淨光寺三七日、

○廿三日、納官村山役日高平之進・笹河仁平太寺入于本成寺七日、住吉村山役長野宇角・内田太郎次・遠藤喜平次・遠藤覺太郎寺入于妙昌寺七日、坐于山役・緩監・察材木・使樵夫盜良材也、

○廿六日、家老・物奉行・用人・組頭察視諸士武藝、

○廿九日、安納村沖ヶ濱田塩戸甚作・次郎助・利平次・甚之進・伊三次・甚助・金作・長之允・善五郎・嘉次郎・市左衛門・彦左衛門・甚兵衛・善太郎・吉次郎坐未納貢稅而催之戲場使修道路七日、延叱三村吏鎌田助兵衛・鎌田新五右衛門・鎌田十兵衛・鎌田仲左衛門、

○増田村中間久木原仙五郎以數年役于覺邸與

點六鱗・木綿布一端、

○按_レ察一向宗_二聞_一于官_一、如_レ例、

○以_二廣瀨平大夫_一爲_二山奉行格_一、

○晦日、納官村松下太郎次宅火、延及_二隱棲_一老母

焚死、締方横目坂元吉左衛門・羽田孫助、吾横目

河内六郎・西村十左衛門檢_二見_一之、事聞_二于

官_一、

○三月三日、使_二西村甚五右衛門時哉_一讀_二法章于廣
間_一、

○同日、與_二艾餅于_三箇寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○同日、以_二種子島次郎左衛門時習_一・上妻七兵衛宗

徳_一異國方掛物奉行、

○同日、西之表庄官賀_二瀨引_一、獻_二酒肴_一、如_レ例、

○五日、住吉村内田半次自殺、不_レ知_レ故、締方横

目坂元吉左衛門・羽田孫助、吾横目河内六郎・渡

邊早右衛門檢_二見_一之、事聞_二于官_一、

○同日、大村湯丸門名子與_二三太_一・同所覺右衛門以_レ

爲_二一向宗_一見_レ放來、

○十五日、放_二于納官村_一大坂流人徳松下_レ獄一年、

坐_二以_三流人之身_一犯_レ法賈_中牛皮于現和村近政之嘉

次郎_上也、延叱_二庄屋鎌田惣市、横目遠藤半左衛

門・鮫島惣四郎・春田十太_一、坐_下常使_二令流人_一

不_レ敵_上也、

○同日、現和村之鹿三次納_二科錢七百文_一、野間村

之柳田伊平次三貫文、現和村近政之喜次郎六貫

文、各坐_二犯_レ法賈_二我荒于現和村近政之孫吉・嘉

次郎_一也、

○同日、現和村近政之嘉次郎納_二科錢十四貫文_一、

坐_下爲_二町長之身_一却犯_レ法私商_中我荒且牛馬皮_上也、

○同日、野間村之渡邊源太・現和村之竹次郎各納_二

科錢四百文_一、坐_下犯_レ法密持_二牛馬皮于蟹泊浦之

喜三太・西市之仁三郎宅_一來欲買_レ之_上也、延叱_二

野間村村吏日高織右衛門・石堂市之助・日高儀左

衛門_一、

○十五日、蟹泊浦之嘉次郎下_レ獄百日、坐_二犯_レ法

商_二我荒且牛馬皮_一也、

○同日、叱_レ現和村故庄屋羽生市郎、村吏鮫島休次・榎本貞七・小山田嘉藤次、以_レ傳_レ法令_レ不_レ敵、使_レ村民商_レ牛馬皮・菘荒、

○同日、蟹泊浦之長吉下_レ獄百日、應_レ西市之仁三郎請_レ載_レ彼之犯_レ法所_レ買之菘荒于己小舟、與_レ同所之平太郎_レ共赴_レ于馬毛島、待_レ仁三郎開_レ港、於_レ洋中_レ移_レ載之、且私買_レ牛馬皮_レ載_レ于永徳丸、遣_レ于大坂_レ商_レ之、故及_レ茲、

○同日、安城村之武田六郎次寺_レ入于隆興寺_レ二七日、有_レ同所之休太郎者為_レ仁三郎_レ私買_レ菘荒_レ之說_レ、為_レ詢問_レ召_レ之、六郎次代_レ村吏_レ護_レ送_レ之_レ而到_レ赤尾木_レ、不_レ速出_レ廳、使_レ休太郎_レ往_レ于仁三郎宅_レ密談、故坐_レ之也、

○十六日、叱_レ野間村庄屋日高織右衛門、横目石堂市之助・日高儀左衛門・鎌田周左衛門・石堂半左衛門、坐_レ不_レ察_レ知_レ諸人私賣_レ買_レ牛馬皮_レ也、

○同日、叱_レ國上村庄屋落合次五左衛門、横目榎本十助・黒木仲太夫・笹川善之進・落合浦次、

坐_レ所_レ放_レ流人福蔵狼徘徊賣_レ買_レ所_レ禁_レ品物、使_レ令_レ流人_レ不_レ敵_レ也、

○同日、叱_レ現和村近政之曾平次、坐_レ私賣_レ牛馬皮_レ也、

○十七日、濱津脇之平次納_レ科錢四百文、坐_レ貯_レ所_レ禁_レ之菘荒於己家_レ也、

○同日、安城村横目小川甚九郎、鮫島新吉寺_レ入于本蓮寺_レ七日、鮫島喜兵衛・田上良吉寺_レ入于蓮勝寺_レ七日、傳_レ禁_レ謾商_レ菘荒_レ之令_レ于村中_レ不_レ敵、而使_レ諸人_レ私商_レ菘荒、且背_レ使_レ村吏_レ護_レ送_レ休太郎_レ之命_レ、使_レ其親戚六郎次_レ護_レ送_レ之、故及_レ茲、

○同日、安城村之瀧之允納_レ科錢五貫文、亡六郎妻納_レ同_レ三百文、嘉平太納_レ同_レ三貫文、幾治納_レ同_レ六貫三百文、勇四郎納_レ同_レ五貫三百文、太郎次納_レ同_レ八貫三百文、藤太夫納_レ同_レ六貫五百文、勘之進納_レ同_レ二貫三百文、八百次郎納_レ同_レ二貫八百文、嘉次郎・諸右衛門・仙九郎・才七・勘次

郎・市十郎六人共納同五貫文、源之進・平左衛門・六右衛門・万七・万之允五人共納同二貫五百文、休太郎納同十貫文、各坐犯法賣我荒也。

○同日、仁三郎船水手濱津脇之仁作、住吉村之喜平次・仲太郎、船水手島間浦之永吉、各納科錢四百文、坐載我荒及牛馬皮于其船也。

○同日、蟹泊浦之平太郎納科錢八貫文、應仁三郎需載彼所犯法之我荒・牛馬皮于小舟、與長吉共赴于馬毛島、待仁三郎發港而轉載于彼船、故及茲。

○同日、現和村之孫吉納科錢五貫五貫文、坐應仁三郎需買現和村諸人之我荒也。

○同日、現和村之覺十郎納科錢一貫八百文、嘉三右衛門一貫六百文、善吉一貫三百文、惣之進一貫四百文、亡源九郎妻一貫文、坐竊賣我荒也。

○同日、蟹泊浦之嘉三太納科錢十貫文、且禁旅

行一年、坐商牛馬皮于大坂也。

○同日、安城村立山之休太郎・其子諸吉各納科錢五貫文、坐應仁三郎需私買我荒也。

○同日、西市之濱田芳太郎納科錢六貫文、坐乘島間浦之榮太郎舟赴于大坂之日、竊載仁三郎之我荒・牛馬皮而達之池田屋太右衛門也。

○同日、牧瀬仁三郎禁旅行一年、坐犯法買我荒・牛馬皮、竊載之小舟使蟹泊浦之長吉・平太郎夜送于馬毛島、后稱往于肥前促舟于洋中、載我荒等而往肥前、會芳太郎于黑島、托其我荒・牛馬皮、達池田屋太右衛門商之也。

○同日、與木綿布一端于遠藤壯兵衛、以監察米倉出納之事。

○十八日、植原六郎次請命移家于納曾、故復組之士林。

○同日、與木綿染布一端于山崎筑右衛門、賞

請_レ造_レ備異國方鯉船_二下_二賜官府之金子_一大有_レ利_中
于府庫_上也、

○同日、與_二金子百疋于吉良太郎_一、賞_下就_二梅田家_一
學_二鎗術_一而其精苦_上也、

○十九日、唐物方横目今村金次、附役宅間金之允、
締方横目種子島翁之助・志岐正八郎歸、

○廿七日、以_二岩川作左衛門_一爲_二普請奉行_一、而兼_二
文書方_一、

○同日、賜_二米各三斛於前田十九郎・美座十郎右衛
門、米各二斛於西村源左衛門・平山新兵衛_一、
以_二各威更番役_一于本府邸_一也、

○四月朔日、本源寺弓場射禮、武田只助束矢、與_二
鷲羽_一、

○同日、河内六郎嫡子河内六助初謁見、獻_二太刀・
馬代_一、以_二父六郎爲_二用人_一也、

○同日、羽生孫市・河内次郎初謁見、進上如_レ例、
○同日、與_二米五石于岩川十右衛門_一、以_二數役_一于
本府邸_一而助_二其費用_一、

○二日、與_二銀三枚于美座矢太右衛門_一、役_二于本府
邸_一歷_二數年_一、故助_二其費用_一、

○六日、西市之次平納_二科錢五貫文_一、覺府之村山
氏船會_二風浪_一漂_二来于長濱_一、雇_二役人馬_一運_二送載
貨_一之日、以_レ有_二不正之事_一也、

○十一日、以_二遠藤壯兵衛_一爲_二留守居見習且納殿役
人_一高奉行
如故

○十五日、以_二異國船来之候_一、國老調所笑左衛門
・猪飼央・島津登・菱刈安房・島津主計傳_下長崎
奉行之令_上、如_レ例、

○十八日、以_二美座織太郎・日高勇太郎_一爲_二馬役兼
番頭_一、

○廿一日、肥後休兵衛請別樹_レ家、故爲_二代々小
頭_一、

○廿二日、官賜_二青錢百疋于島間浦之水手孝助_一、
賞_下大島之飛船於_二種子島_一會_二風浪之難_一、孝助独
游泳乘_二彼舟_一能保護_上也、

○上書請_レ改_二易宗門手札之書方_一見_レ許_レ之、事開_二

于左、

○四〇二 種子島久珍願書

私事、先般種子嶋伊勢名跡相續被仰付、以別段之
以思召、一世御一門方次嶋津若狭一列之頭被仰
付、重疊難有次第奉存候、然處此度手札御改二
付、此已前者家來之者共手札面片書内与相記來候
得共、此節御改二付而者手札之面家名同様被 仰
付被下度奉願候、此旨御申可被下候、以上、

四月

種子嶋彈正(久珍)

○五月五日、與三粽各二束于三箇寺一、慈遠寺獻二同
品、

○九日、異國方用人島津市十郎示三系荷船漂來之日
處置之法一、且禁商三異國之貨一、如例、

○十三日・十四日、修三放光院殿日悟大居士十七回
忌于本源寺一、初日八講真讀、結日頓寫說道廣直院、
日誠

出家三十五人、名代家老美座十郎右衛門時敏、孺

人名代西村田代時和、松壽院殿名代西村休八時
乘、久美・婦美・佐登名代西村直之進時義、法事
奉行種子島友之助政賢・西村十左衛門時弘、靈膳
奉行種子島權之允・美座善兵衛、

○十七日、木原半藏下三于獄一、締方横目坂元吉左
衛門旅宿有下投三亡名書一者上、坂元氏召三吾横目一
授之曰、竊當三達三家老一、若發露則事可三及三大
事一、而閱三其書一盡誹三謗一島之政事一、諸人皆
謂、木原所爲、於三是令三横目三詢問雖三不三及三白
狀一、文言字跡無三所逃罪、故及三茲、

○廿日、一向宗流人大村郷土指宿五郎右衛門死、
令三吾横目種子島友右衛門時大・日高源藏爲親一
檢三察之一、事聞三于 官一、

○廿五日、請三命磔三故妙泰寺番僧自眼院于能野濱一
放火、檢使横目西村十左衛門時弘・西村直之進時
罪也、物頭羽生半左衛門・日高藤次郎、

○廿七日、孺人産三女子一、産弓北条織部、物奉行
平山新兵衛候席以家老前田十九
郎奉茶服中也

○與系圖各一卷于河内十助・國上平次・下村惣十郎・子島猪右衛門、以其請也、

○監察一向宗告于官、如例、

○六月十日、古田村郷士犀川仁平太寺入于滿徳寺七日、以四月廿一日祭日典之日、其妻女服彩色衣裳詣之也、

○廿四日、宮浦半之允寺入于清淨寺三七日、坐爲覺邸普請方下吏簿書重復出財也、

○廿五日、西村田代代家老・物奉行、緒方吉兵衛代諸奉行・諸士赴覺邸、賀孺人平産候安否、

○廿九日、西之表庄屋賀夏越、獻西瓜・酎酒、如例、

○七月二日、與系圖于岩川作左衛門時典、

○四日、行女子髮立之賀名英、

○七日、飾日深公之鑑于廣間、當番家老拜之、

○八日、名代家老西村甚五太夫時員詣于大會寺、

祭先考及宗祖・戰死靈、

○十一日、異國方掛以今日四日異國船来于長崎港傳長崎奉行之令、如左、

○四〇三 異國方掛達書

今月四日長崎江吳國船老艘渡来付相糺候處、イキリス國之役船ニ而、諸國乘廻り候内薪水之敷、右品乞受度旨申立、外ニ疑敷儀も無之、近々出帆之筈候付、御領内浦々被入御念、萬一御領海江碇を入、風待等いたし候儀茂候ハ、永々不繫留置、早々其所致出帆候様可取計旨、長崎御奉行被仰渡候、右ニ付而者漂来も難計時節候間、所役を初一統心掛罷在、自然漂来も候ハ、兼而申渡置候通堅固取計、早速飛船を以届可申越候、左候而地方江近寄、野菜薪水類拂底ニ而致所望候ハ、時宜相應ニ相與、無難早々致歸帆之儀肝要之事候間、可得其意、尤上陸者屹与不相成候条、聊致油断間敷候、此旨御掛合申越候、以上、

種子嶋

吳國方掛

役人中

○十三日、名代家老岩川十右衛門時行詣于慈遠寺、祭_二先考・宗祖及戰死靈_一、

○十四日、名代家老前田十九郎宗恭詣于本源寺_一

祭_二宗祖_一、

○十六日、名代家老上妻才次郎宗敏詣于本源寺、

祭_二先祖及戰死靈_一、

○廿日、公儀流人仙吉死于牢中、締方横目坂元

吉左衛門・羽田孫助、吾横目日高源藏・河内六郎

檢_二見之、事聞于官_一、

○廿三日、請_四住于市中_一之士別_三分簿與_二宗門手

札_一、事聞于左、

○四〇四 前田宗恭願書

(四〇四の1)

御張紙

種子嶋彈正殿家來之内野町居住來候者有之、是

本文願之通令免許候、以上、

迄ハ外家來同様手札申受候得共、内々差支申儀

巳七月廿八日

御座候間、此節宗門手札御改より右之者共帳面

差分、別冊_{札改奉行所印}取仕立、手札之面在郷居住之家來

者何村と先々相記來申候故、左右準町居住も

相記申度奉存候間、願之通御免被仰付被下度奉

願候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、以上、

種子嶋彈正殿役人
前田十九郎
(宗恭)

巳 七月廿三日

(四〇四の2)

右之通、申出趣種子嶋彈正殿被承届、此段私よ

り申上候様被申聞候、以上、
用頼代

染川伊兵衛

巳 七月廿三日

○八月朔日、與_二中紙各二束于慈遠寺・大會寺_一、

二箇寺亦獻_二同品_一、

○同日、平山寬藏初謁見、獻_二征矢_一、名代家老西

村甚五太夫時員、

○二日、馬追、名代家老上妻才次郎宗敏、物奉行前田新五兵衛宗誠、用人渡邊早右衛門兼重、馬役美座織太郎・日高勇太郎・西村員右衛門・市米勝之進、

○六日、公儀流人僧角文死、締方横目坂元吉左衛門・羽田孫助、吾横目西村休八・西村十左衛門、檢見之、聞之于官、

○同日、母孺人之僕杉崎藤太郎出奔、使下遠藤壯兵衛遣之于數根・大崎等、長野兩助遣之于市來・串木野等上、搜索之不得、

○七日、奉幣于諸寺諸社、賽孺人平産、

○十五日、古田村蓮勝寺獻神酒・黍盛、

○同日、石寺塩戸伊平次・正太郎・休左衛門・次郎吉納・炭各十苞、坐誤放牧馬・食製糖甘蔗也、

○廿四日、物奉行上妻七兵衛宗徳以三世禄厚辭物奉行俸禄、許之、

○同日、梶原岩右衛門・落合四郎兵衛・羽生清賀、

遠藤喜右衛門・下村十藏・川口多十・名越船右衛門・牧助十郎・上妻源兵衛・牧彌平左衛門・上妻良哉・宮浦半之允・酒勾太郎・阿世知理兵衛・橋原直右衛門・榎本喜哲・子島猪右衛門・櫻井元可・古市李彌・長野要碩・上妻太代、各借府庫之財不能償之、故隨多少収其禄地、

○公儀流人小重太・竹藏・富三郎・幸吉盜西之村之岩次郎者之舟乘之出奔、初自二十日夜不知其在處、遍搜索不得、於是告于廷、即締方横目坂元吉左衛門・羽田孫助、吾横目西村休八・西村十左衛門到于西之村、召三村吏問于細、曰、自二十日夜不知其處、偏索之不得、察彼輩之謫居無一器之存者、且岩次郎者失舟所藏之楫櫓亦無之、想必彼輩盜之出奔者也、於是聞之于官、且以隣島使横目森周右衛門・物頭羽生岡右衛門到于屋久島索之不得、

○官使三村松休次郎納科錢二貫文、爲太壽丸船

長_レ之_二于琉球_一、其水手兒ケ水之七郎左衛門・山川正龍寺門前者喜藏、於_二大島及喜界島_一買_二海人草_一載_レ之、休次郎為_二船長_一不_レ識_二察_一之、故及_レ茲、

○廿九日、種子島千代熊元服、名代家老岩川十右衛門時行、加冠家老上妻才次郎宗敏、理髮知覽才兵衛行修、賜_二字鐵五郎_一、其餘獻賜、如_レ例、

○九月九日、使_二西村直之進時義讀_一法章于廣間、

○十日、締方横目長井十助・種子島八郎來、

○同日、杉崎藤太郎下_二于獄_一、一旦出奔流_二浪于處々_一、少_下與_二飲食_一者上將_レ及_二飢餓_一、故自謝_レ罪來歸、即加_二桎梏_一令_二歸島_一下_レ獄、

○十一日、鯉船一艘漂_二來于油久村長濱_一、頗破壞、締方横目長井十助・種子島八郎、吾横目西村十左衛門・種子島友之助檢_二見_一之、事聞_二于官_一、

○十四日、現和村庄司浦之嘉次郎禁_二旅行_一三年、坐_レ為_二水手_一出_二他邦_一久不_レ歸_レ家也、

○廿一日、叱_二住吉村庄屋羽島傳藏、横目平山今次・上妻勇吉・田上仲之進_一、坐_レ點_二檢民戶_一謾增_中加無_二子孫_一者三戶_上也、

○廿三日、河野休庵寺_二入于妙泉寺_一七日、坐_レ為_二莖永村下吏_一簿書不_レ正也、

○同日、叱_二野町人貞七_一、為_二八幡丸船長_一赴_二覺府_一、記_二船中所食米數所奏重復_一、故及_レ茲、

○同日、八板矢一兵衛・池村五右衛門寺_二入于國上村本法寺_一二七日、不_レ精_二察貞七所奏之書_一而重復出_レ米、故罰_レ之也、

○同日、名越至之進寺_二入于妙泉寺_一七日、以下為_二國上村下吏_一簿書不_レ正也、

○廿八日、上妻甚五郎・上妻助之允・肥後仲藏初謁見、獻_二征矢_一、榎本新太夫・楯原渡平太獻_二火繩_一初謁見、

○十月朔日、以_二西村城助_一為_二船奉行_一、上妻太代兵具奉行、日高喜賀右衛門・羽生紋九郎高奉行、平山仁左衛門・西村員右衛門山奉行、

○九日、名代家老上妻才次郎宗敏詣于本源寺、盛供于宗祖日蓮菓子上、

○十一日、母孺人移居于濱崎邸、

○同日、名代家老前田十九郎宗恭詣于本源寺、

祭宗祖日蓮、

○同日、與金子二百疋于日高杉右衛門、役于覺

邸之日過期在任、故及茲、

○同日、與金子二百疋于牧藤五郎、賞就梅田

家學鎗術多年受之試合之傳也、

○同日、與青銅百疋于大工柳田今之允、賞覺邸

修補之功也、

○十三日、名代家老前田十九郎宗恭詣于本源寺、

祭宗祖日蓮、

○同日、收鮫島甚之允高二石四斗六升三合三勺八

撮、以借府庫之財不能償也、

○同日、唐物方横目東郷元次・附役前原正次郎來、

○同日、叱河内六郎時然、妙泉寺僧就時然奏下

受三名越之寺入一事、時然忘失不達政府數日、

故及茲、

○十四日、締方横目羽田孫助・坂元吉左衛門歸、

○十五日、西村善太郎・梶原貞次初謁見、獻征

矢、緒方覺藏獻火繩初謁見、

○十一月四日、油久村足輕羽生喜三太・羽生喜次郎

宅火、宗門手札等無恙、

○同日、洲之崎浦之休太郎釣于馬毛嶋不歸、

所乘舟漂来于納官村牧川、

○廿八日、叱船奉行野間仲左衛門、以下監察西

市之次平船載材事處置不敵也、

○同日、以羽生紋九郎為留守居高奉行、如故、

○按察一向宗間于官、如例、

○十二月四日、平山村之徳永貞一寺入于本因寺、

坐留中滯從覺邸達前田十九郎封章也、

○六日、本源寺正行院日章寂、

○同日、西之村之飛脚到來告白、昨五日清船漂來、

於是異國方掛家老上妻小左衛門定直、物奉行上

妻七兵衛宗徳、横目森周右衛門友諒・河内六郎時

然、船奉行時任平八・宮浦藤九郎、譯者山崎筑右衛門・長野兩助・笹川彦助・下村貞之助、政府書吏羽生平右衛門、船功者八板盛右衛門・樋口六兵衛、且唐物方横目東郷元次、締方横目永井十助、到西之村、監視焉、通州張順與船、舵工彭金堂、水梢周鳳高・刁存昭・顧耀春・東於田・周長慶・周南臯・耀心飛・李昭南・江雲高、共計十人、即取質兩人、乘于小舟、使士一人、足輕一人護之、又別促警固船、使士・足輕守清船、随例請論單人名冊、船中無識字者、而無奈之何、催小船數十牽之、取路于東海、八日、達赤尾木港、飛快船、令下村貞之助告本府及山川、且訟清人無識字者、不能得論單人名冊等、官議有往年清國人兩人駕小舟漂來、無識字者、故使此地人代書之例、見許譯者代書之、

○十三日、上妻源左衛門獻斗搗之餅、名代家老平山傳一郎武世受之、

○十五日、清人顧耀春・東於田詣于慈遠寺、賽香三把・蠟燭六顆、是為洋中脫難也、

○廿一日、杉崎藤太郎出牢而放之于西之村、

○廿二日、遠藤清五郎寺入于妙昌寺、二七日、坐

小牧坂之上有樹為風倒、然鋸斷之、且殘害圍中之楡樹也、

○同日、高崎九八・上妻覺右衛門寺入于隆興寺、各七日、坐殘害圍中之楡樹也、

○廿七日、三箇寺且二十人家・鍛冶賀歲暮進上、如例、

○歲暮、規式、如例、

弘化三年	種子島家譜	廿四代	六十二
		久珍	

- 弘化三年丙午正月元日、諸式、依舊、
- 同日、國上村獻_二野老_一、
- 二日、國上村獻_二瀨物_一、現和村庄司浦獻_レ鯉、
- 同日、覽_レ馬、名代家老平山傳一郎武世、
- 同日、八箇寺進上、如_レ例、
- 四日、上之郡庄屋・小觸進上如_レ例、名代家老前田十九郎宗恭、

- 六日、初狩、名代家老平山傳一郎武世、物奉行種子島五郎衛門時義、用人西村休八時乘、一番組頭西村十左衛門時弘、二番組頭日高源藏爲親、三番組頭西村九郎時起、山奉行下村源之允・西村員右衛門・中田字平太、西之表庄屋獻上、如_レ例、
- 七日、中之郡・下之郡庄屋進上、如_レ例、
- 九日、與_二米一斛吉徳丸船頭八板平藏及水楢等_一、賞_レ來_二往覽府_一之疾_上也、
- 十日、以_二現和村近政之百姓嘉次郎_一爲_二西之村立石塩戸樵夫_一、以_二同村百姓竹次郎_一爲_二上中之村塩戸樵夫_一、共坐_レ賣_二牛肉_一之事_上也、
- 十一日、古田村蓮勝寺獻上、如_レ例、
- 同日、甲冑之賀筵、如_レ例、
- 同日、本源寺軍陳・温坐祈念、如_レ例、
- 同日、在郷諸寺獻上、如_レ例、
- 同日、的始、名代家老前田十九郎宗恭、用人西村休八時乘、射手一番_{前西村善太郎}後河内十助、二番_{前駿島宗次郎}後下村源助、三番_{前武田只助}後八板仙次郎、

○十二日、莖永村百姓善九郎宅火、餘煙及三母隱亭、事不聞、レ官、

○十三日、現和村村吏羽生市郎寺入于本蓮寺七日、以下對三縮方二有不遜之言上、也、

○同日、上妻太代寺入于妙泉寺七日、坐爲三會所番人二日簿書不_レ正也、

○十五日、以三二十五之厄年一令下用人西村休八時乘

・西村田代時和・種子島友之助政賢詣三島中諸社三折平安上、

○同日、種子田傳次郎初謁見、獻三征矢一、

○十六日、孺人登 城謁二

太守公、

○十七日、國上只次寺入于滿德寺七日、坐_レ覺府邸招_レ客之日其所_レ用蠟燭油二重復之事上、也、

○同日、上妻三之進・榎元新太夫・山下寬齋・井元弘惠・河口六郎・田上次右衛門・鮫島市郎次・有

留仁右衛門・日高長太郎・緒方曾筑・羽生定次・牧傳四郎・名越安之允・猶原六郎次寺入于滿德

寺一各三日、下村木工之進・羽生彦左衛門・岡留

六七・武田權助・羽生津右衛門・上妻源兵衛・池

野順頌・田上源左衛門・遠藤喜右衛門・田上覺次

・日高十郎・木原休七・牧瀬玄雄・八板藤八寺

入于妙泉寺一各三日、島間村鄉士鮫島休太郎・河

北五郎太・日高平次寺入于本妙寺一各三日、下

中之村鄉士鮫島太郎・日高七之允、上中之村之日

高直次郎寺入于本善寺一各三日、古田村鄉士渡

邊新介・阿世知貞四郎寺入于蓮勝寺一各三日、

莖永村鄉士日高安太郎・有留嘉吉・池龜直太郎・

羽生武吉・柳田和吉・柳田市十郎寺入于遠妙

寺一各三日、増田村鄉士牧瀬太四郎寺入于清淨

寺一各三日、平山村鄉士上妻直介・小河嘉介寺入

于善福寺一各三日、野間村鄉士鮫島五平次寺入

于日輪寺一各三日、上里村鄉士有留平次郎・有留勘

介寺入于善林寺一各三日、小頭高崎九八・知覽

才之允・有馬直之進・一湊六郎兵衛・芝嘉左衛門

寺入于本蓮寺一各七日、現和村榎本源五・鮫島

吉次郎・小山田善吉・小山田甚太夫・小川虎次郎

・羽生孫右衛門・才川勇之允寺入于隆興寺各

三日、國上村之榎本善四郎・落合若吉・池龜金石

衛門・川口六郎左衛門・長野善五郎寺入于本法

寺各三日、安納村之日高市郎・小山田次平・鎌

田仲右衛門・鎌田孫七寺入于本蓮寺各三日、

住吉村之熊野七郎次・田上良市・長野金太郎・羽

島助市・日高新次郎寺入于本成寺各三日、坐下

初狩之日不レ與レ暇之内竊還上也、

○同日、西村次郎右衛門寺入于本法寺七日、嚮

初狩之日称レ疾不二出狩一、坐レ欺上也、

○同日、現和村中宿榎本善左衛門寺入本蓮寺七

日、初狩之日坐下不二登山一且不レ告下于其事廷甲也、

○同日、捕下西之表百姓増次郎下獄二百五十

日、以下於二處々一竊盜上也、

○二十八日、官赦二一向宗流人長島郷土田中名字

庄之進一、

○二十九日、上妻太代寺入于滿德寺七日、因二會

所差出不正之咎一也、

○二月五日、使三時任平八一・知覽弥兵衛、譯者笹河

彦介、醫師柳田喜碩以有疾者也、船功者樋口六兵衛、

足輕三人護三送清國船于山川港一、乘二夥長一人一、

舵工二人・飯夫一人于本船一、

○按二察一向宗一聞二官一、如レ例、

○同日、太守公使二島津豊後傳一命、須改改二舊

所レ學之大坪流馬術一、學下鎌倉流上且練乙習下犬追

物甲、事開二于左一、

○四〇五 島津久宝達書写

寫

種子嶋久珍彈正殿

右、馬術鎌倉流江改流被仰付候、左候而御家傳犬

追物稽古被仰付候川上十郎江受傳授候様被仰付

候、

二月五日

(島津久宝)
豊後

○七日、官命^上正^三風俗一事^下節儉上可^レ學^二文武之道^一、開^レ左、

○四〇六 島津久備^久滿^久外二名連署達書寫
(四〇六の1)

御領國中風俗等之義ニ付而者、先年以來追々被仰出、殊ニ一昨年茂細々被 仰出趣有之、質素節儉等之儀人々掛心頭御奉公方致精勤、年若之面々者学文武藝分而無油断可心掛段者、先達而申渡置候通ニ候處、 御發駕前より我々共 御前江被召出、 御留主中取締向者勿論、年若之面々学文武藝等一涯致出精、屹与徘徊不致、風俗正敷者者夫々品能可被召仕、就中家之面々者重御役をも可相勤身柄之事候得者、平日之謹慎等猶更可心掛、且無益之參會不致様与之儀、兼々 仰出之趣茂有之、此節猶又分而 御沙汰奉承知候間、人々取違之儀者無之筈候得共、若哉相弛候儀共有之候而者申訳茂無之儀候間、第一質素節儉を心掛、 仰出

之通 御趣意不相戻様奉汲受、聊無忘却屹与可相守候、此旨向々江不洩様可致通達候、

二月
(島津久備)
豊後
(島津久武)
志岐
(島津久備)
登

(四〇六の2)
右之通被得其意、此書付豊後方江返納可有之候、以上、

大身分觸役所

二月七日
種子嶋^久彈^珍正殿

○十日、官命^上薄^二上巳雜飾式^一、事開^レ左、

○四〇七 島津久武・島津久宝連署申渡書
上巳雜飾之儀極々致手輕、存慮次第二者全取止候而茂不苦、勿論蓬餅之外菓子類相調候儀令停止候与之趣者、度々委細申渡候旨も有之候處、間々者

結構之人形、或者手組候鞠類を飾、至而無益之儀共有之哉、相聞得、別而如何之至、候、質素節儉之儀者分而被、仰出趣有之申渡置候間、弥以御趣意深奉汲受、一切無益之儀共有之間敷、右、而者見聞をも掛置候ニ付、乍此上不守之者は屹与可及迷惑候、此旨向、江不洩様致通達、諸郷・私領江も可申渡候、

二月

(島津久宝)
豊後
(島津久武)
吉岐

○十六日、與_二米一石知覽小右衛門_一、宿_二衛濱崎邸二十年、今請_レ暇回_二故郷_一、賞_下數年功勞_上一世與_レ之、

○十七日、以_二種子島友之介政賢_一爲_二組頭_一、上妻新藏・美座三十郎番頭、肥後渡前納戸奉行、

○十八日、札改檢使仁禮孫太郎・有馬矢八、唐物方横目玉利喜左衛門、附役関田伴藏、締方横目坂元吉左衛門・羽田孫介來、

○同日、與_二上下一具及染布一端美座玄助_一、嚮孺人初登_二城見_一、太守公_二之日、能指導令_レ不_レ失_二家格式_一、故賞_レ之也、

○同日、下西之表足輕土田百次郎至_二下中之村_一、入_レ山伐_レ木、誤爲_二伐木_一被_レ壓、締方横目長井十助・種子島八郎、吾横目西村十左衛門・種子島友之助檢_二見骸_一、事聞_二于官_一、

○二十二日、井元新吉於_二濱崎邸_一發_二狂疾_一自殺、檢分伊東五右衛門・有田次郎左衛門、

○以_二國上只次_一爲_二山奉行_一與_二米五石_一、爲_二小姓役_一近侍久、然今回_レ郷請_レ省_レ親、故與_レ之、

○三月三日、使_二西村九郎時起讀_一法章、如_レ例、

○同日、西之表庄屋質_二瀬引_一獻_二酒肴_一、

○十日、

先帝崩御之訃至、止_二作事_一・音樂_二各七日_一、

○同日、與_二銀三枚西村藏多_一、以_二過_レ期令_レ役_二覽邸_一也、

○十五日、井元弘惠寺_二入于滿徳寺_一七日、以_二頃日

瘡瘡流_二行於大泊、欲_下遣_レ未_レ患_レ痘者染_レ之、
弘惠子怨仙初快肯_レ之、後辭_レ之、其言胡亂、故
及_レ茲、

○十九日、官有_レ命、可_三點_二檢一島社家・山伏、

○廿三日、國老島津彦岐傳_下以_二

先帝崩御_一、二月十五日

皇太子即位、有_中追_二號

先帝_一奉_レ稱_二

大行天皇_二之命_上、事開_二于左_一、

○四〇八 島津久武申渡書

先帝崩御_二付、先月十三日

東宮江御踐祚被為在、且

先帝御諡號

大行天皇与奉稱候段、江戸より申来候条、可承向

、江可申渡候、

三月

(島津久武)
彦岐

○廿五日、以下大山五次助至_二締方横目之旅舍_一失
禮_上下_レ獄、

○廿六日、官赦_二公儀流人若藏_一、

○廿七日、札改檢使仁禮孫太郎病還、

○廿九日、赦_二西之村郷士日高佐平次姉_一、

○晦日、與_二青銅各百足西之表足輕河口幾右衛門_一、

國上村足輕落合浦次_一、賞命_レ旅之日速_レ以_レ從_二其
命_一也、

○與_二染布一端于遠藤字兵衛_一、數役_二于本府_一以_レ

有_二商家知音者_一、能辨_二錢財_一而助_二府庫之費_一、

故賞_レ之也、

○以_二下西之表一世足輕岩重甚右衛門_一為_二代々足

輕_一、賞_下役_二于覺府_一不_レ受_二飯米_一且善_中手搏_二之

法_上也、

○四月二日、與_二米四斗于上妻藤次郎下人甚之丞_一、

為_レ人正直、而能事_二父母_一致_二叮嚀_一、與_レ人不_レ

爭、且以_二主人藤次郎貧_一而贈_二米助朝夕_一、至_二

薪水繩履_一亦然、村吏命_レ役之日、每先_レ人不_レ厭_レ

勞如_レ事_二己業_一、故賞_レ之也、

○同日、與_二米四斗于_三浦源八郎下人周市_一、為_レ人正直、早喪_レ父事、母能致_二叮嚀_一、與_レ人交信睦、宅邊有_二府之櫛圃_一、結_レ垣不_レ入_二牛馬_一、垣損則繕_レ之、重_レ上不_レ怠_レ役、故及_レ此、

○十三日、納官村濱津脇浦之漁人銀十郎釣不_レ歸、事聞_二于_一官、

○十四日、現和村百姓休左衛門家崩壓死、締方横目羽田孫助・坂元吉左衛門、吾横目西村休八・西村

田代檢_二見之_一、事聞_二于_一官、

○十五日、以_二異国船來之候_一國老島津登・島津老岐・島津豊後傳_二長崎奉行之命_一、如_レ例、

○十六日、浴_二於櫻島黑髮之温泉_一、

○十八日、異國方用人新納主稅示_四糸荷船漂來之日處置之法且禁_二商_二異國之貨_一、如_レ例、

○廿一日、船奉行竹下仁左衛門傳_下點_二檢_一一島大小船_二之命_上、如_レ左、

○四〇九 竹下仁左衛門申渡書

此節諸浦船改被仰渡、種子島之儀者締方横目より先規之通相改候様、御證文を以被仰渡候間、左之通申渡候、

一 船改方_二付而者_一、前廣内改不致_{忝候}而者、改方取

掛候節可及混雜候条、先規之通行違候船者勿論、

船帳面現船_二引合聊茂無相違様_一、前以内しら_{べ不}

致置候、自然相違之儀共有之候而者屹与不相成事

_二候条_一、右内改之帳面并船帳等引合候様可致候、

尤札改以來浦方_二相掛候諸上納銀并船出銀等之藏

請取迄茂取揃、浦役人持參之節一所_二可召出_一、若

浦役人病氣又者故障等も候ハ、取馴候者名代を

以可致持參候、

一 焼印所摺消見得兼候船者、前以其段可申出候、無

焼印之船者取揚御法候、

右之通申渡候間、先規之通いたし、内改相濟候届

早、可申出候、左候得者改焼印并船改方之儀者、

尚又追、可申渡候条、聊茂大方有之間數候、此段

申渡候、

但

承知之届者、別段早々可申出候、

御船手

竹下仁左衛門

午

四月廿一日

種子島

役人中

浦役

○二十日、本源寺弓場射禮、諸式、如例、

○五月二日、與_二米二斗住吉村庄屋・横目_一、客歲

冬唐船漂_二來于西之村_一、諸有司通行之日役夫・

乘馬等能相做無_二往來之煩_一、且村吏一人遠來_二西

之村_一問_二安否_一、故及_レ茲、

○同日、與_二金子二百疋于譯者下村貞之助_一、嘗賞_下

清國船漂來之日能勤_二己職_一且來_二往于覺府_一勤勞_上

也、

○同日、賜_二金子百疋于西市街之平蔵_一、以_二彼宅_一爲_二札改檢使仁禮孫太郎旅宿_一、時仁禮氏疾起、平蔵能省視、故賞_レ之也、

○同日、賜_二篠卷三把于安納村甘蔗見舞日高市兵

衛_一、植_二甘蔗_一製_レ糖之時能奉_二其職_一、故賞_レ之也、

也、

○同日、褒_二詞野間村・油久村・坂井村・西之村・

莖永村・増田村・安納村各庄官及村吏_一、賞_下唐

船漂_二來于西之村_一之時、能守_二平日之法令_一事不_中

停滯_上也、

○同日、與_二米二斗飛船船頭伊太郎及水梢_一、以下清

國船漂來之日、不_レ過_二七日_一往_中來于覺府_上也、

○同日、褒_二詞濱田清七_一、嘗交代船永徳丸開港之

日、以_二風不順_一留_二碇于兒水_一、風浪甚惡事及_二危

急_一、清七在_二山川港_一察_レ之、夜中卒_下善_レ水練_上者

洲之崎浦之仙次郎・熊野浦之六十郎・蟹泊浦之善

次郎・濱津脇浦之仁吉_上來、令_二是輩游到_一本船_一、

能保護到_二山川港_一、且與_二四人銀各一兩_一、

○同日、安城村郷士田上木工太郎不_レ請_レ命竊造丸木舟_一、故収_二其舟_一納_二科錢一貫文_一、

○同日、現和村庄官鮫島休次、横目榎元貞七・羽生市郎・榎元甚太郎寺_二入于本法寺_一各二七日、去歲牽_二清國船_一到_二于現和村_一、以_レ無_二順風_一留滯、以_レ家老所_レ乘馬府馬_一命_二懇秣_一、然不_レ繫_二于厩_一、又秣_レ之乏、至_レ發_レ舟亦役夫・役馬等不_二甚備_一、故罪_レ之也、

○同日、古田村故庄官阿世知仲太夫、横目田上六左衛門・渡邊權右衛門寺_二入于妙泰寺_一各七日、去冬清國船漂來之日、命_レ納_二薪菜_一而敢不_レ納_レ之、大以_レ欠_レ用也、

○同日、現和村淺川之喜七称_二修理箱船_一私造丸木舟_一、故収_二其舟_一納_二科錢三百文_一、安城村足輕鮫島新助不_レ請_レ命造丸木舟_一、以下_一且爲_二庄官_一知_レ法身上犯_レ法、故収_二其舟_一納_二科錢一貫文_一、同村鮫島周之進称_レ造_二箱舟_一請_二黒松_一、私伐_二五葉松_一造_二丸木舟_一、故収_二其舟_一、納_二科錢五百文_一、

○同日、納官村横目徳永孝七寺_二入于本成寺_一七日、去冬唐船漂_二來于西之村_一之日、諸有司赴_二彼地_一既及_レ夜求_二明松_一甚寡、存者亦結束不_レ密無_二足用者_一、故及_レ茲、

○四日、下中之村百姓權之進下_レ獄百日、去歲濱崎邸作_二第宅_一之日、爲_二覺府巧匠之販夫_一數盜_レ米故也、

○五日、與_二粽各一束于三箇寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○同日、池田浦嘉次郎女子於_二馬毛島_一拾_二小判金十三兩_一・一步金三十四片、林林蔵妹小判金二十三兩・一步金三十九片、且見_二器械毀損者_一、即遣_二吾横目及船奉行_一檢_二察之_一、聞_二于官_一納_二金_一、

○十六日、禁_二固林林蔵_一、坐_二糺_一於_二馬毛島_一取_中拾金子_上之時有_二不遜之言_一也、

○十七日、安城村河脇之吉次郎不_レ得_レ命造丸木舟_一、故収_二其舟_一納_二科錢三百文_一、

○同日、河内六郎寺_二入于遠妙寺_一五七日、坐_下與_二唐物締横目玉利喜左衛門_一、締方横目坂元吉左衛

門論事、有不遜言也、

○十九日、現和村木原門百姓豊次郎發狂縊死、締方横目羽田孫助・坂元吉左衛門、吾横目西村十左衛門・種子島友右衛門檢見其骸、事聞于官、

○廿日、還自櫻島温泉、

○廿三日、西村田代僕六七縊死、不知其故、締方横目坂元吉左衛門・羽田孫助、吾横目西村十左衛門・種子島友右衛門檢見、事聞于官、

○檢察一向宗聞于官、如例、

○閏五月六日、叱増田村庄屋遠藤次右衛門、横目馬場善十郎・牧瀬十郎太・遠藤喜十次、當正月六日初狩、令馬場榮吉代村吏登山、臨期以榮吉病發令牧瀬太四郎代之、而不告其故、太四郎不待暇而還、組頭不知太四郎代榮吉故命榮吉寺入、榮吉告其故不受、於是初識太四郎背法、村吏之處置甚不敬、故及茲、

○七日、官傳以異國船到來于琉球國益不、可怠異國方之備之命、喻三家老如例、

○四一〇 異國方掛申渡書

當四月琉球江吳國船渡來之旨申越候ニ付、万一地方江渡來茂難計時節候間、所中面々心掛罷在、就中遠見番人者昼夜無油断氣を附、若吳様之舟見掛候ハ、兼而申渡置候通不移時刻早速可申出候、左候而渚近乘寄水薪等致所望候ハ、時宜相應ニ相與へ、無難早々為致帰帆候儀肝要之事候間、可得其意候、尤上陸者屹与不相成事候ニ付、浦々取締向嚴重ニ取計候儀共聊大形有之間敷旨、種子島江可申渡者也、

吳國方掛

閏
五月七日

種子嶋

役人江

○八日、與_三書于家老・物奉行_一、命_下若_二府庫出納之事_一無_二大小_一咨_二謀種子島加次右衛門_一、而可_レ行之、

○四一一 申渡書

役人

物奉行江

當家所帶方等之儀、掛御役、并種子嶋加次右衛門萬端致世話候様、先年被 仰付置難有儀_二候_一、就而者自是迄何事_下示談為有之筈候、然處掛御役、之内他行等も有之候間、當時之儀加次右衛門引受致世話、左候而掛御役、及相談候儀者、其通取扱有之候様此節分而頼入候_二付_一、以來蔵方出入等之儀茂微細_二申聞度_一、相談諸事取計候様可致候事、

閏
五月

○十一日、島間村村吏柳田喜左衛門・河北仲左衛門・柳田源之進寺_二入于淨光寺_一各七日、當正月初

狩、告_レ使_レ鮫島休太代_下村吏_上登_レ山、而不_レ告_二休太故_一、不_レ登_レ山、村吏之所為輕_二謾上_一之罪重、故及_レ茲、

○十三日、官令_三西之村庄官濱田万之進、坂井村庄官古市源助、下中之村庄官有留十次郎納_二罪錢各二百五十文_一、以由_下流人輩出奔固示_二法令_一之不_レ嚴也、事開_二于左_一、

○四一二 藩申渡書

一科錢貳百五拾文ツ、

西之村庄屋
濱田萬之進
坂井村庄屋
古市源助
下中之村庄屋
有留十次郎

右者、銘_レ預り 公儀流人共船盜出致欠落候_二付而者_一、兼而取締不行届処より、右次第不調法之至候、依之右之通申付候、右可申渡旨、今日嶋津要人御取次を以被 仰渡候間、此旨申渡候、

○十九日、與_二青銅各百足于八板盛右衛門・樋口六

兵衛、以下客歲唐船漂來之日有勤勞也、

○廿日、叱西村甚五右衛門時哉、妙泰寺僧就時哉、告古田村渡邊權右衛門寺入之事、時哉不達政府數日、故及茲、

○六月十五日、與米四石日高杉右衛門、以家貧親病、請致仕數回、雖不許與米令具養親之用、

○十六日、宮原主計傳、去四月啖咭喇西船到于琉球國、留異國人五人歸帆、又佛朗西船三艘到來、故令御用人倉山作太夫卒、鉄炮頭・物頭二人、目附一人、旗奉行一人、唐船改一人、代官一人、目附二人、騎馬七人、醫者一人、與力一人、足輕十人、赴彼地備不虞、頃日異國船過甌島之洋來于長島、即歸帆、外四艘又到來、且有啖咭喇西船三艘來於相州浦賀、一艘來于遠州橫洲賀之說、國中大騷働、國老島津石見從江戶歸、即到山川警固、若來于種子島、則歸島而躬自當指揮、故先使番頭上妻太

代下島、命家老令無忽異國之事、

○十七日、叱種子島友之助政賢、淨光寺僧就政賢、告受島間村村吏寺入、政賢忘失不達政府數日、故及茲、

○同日、足輕大木宇平次寺入于本因寺、十九日、以常守城内輕卒之身上、夜竊入于遠藤權左衛門家、有不禮之行、故及茲、

○十九日、古田村百姓市太、足輕鮫島善五左衛門女子縊而情死、締方橫目羽田孫助・坂元吉左衛門、吾橫目森周右衛門・日高源藏檢見其骸、事聞于官、

○役于本府邸家老・物奉行期七箇月、從今歲期一年令交代、

○禁固濱田由太郎、以有不正之說也、

○晦日、賀夏越、西之表庄官獻酒・西瓜、

○七月七日、飾日深公鎧於廣間、家老上妻小左衛門定直拜之、

○八日、名代家老西村甚五太夫時員至大會寺祭

先祖・宗祖先及戰死靈、如例、

○十三日、名代家老岩河十右衛門時行至慈遠寺、祭先祖・宗祖及戰死靈、

○十四日、名代家老前田十九郎宗篤至本源寺、祭宗祖、

○十六日、名代家老上妻才次郎宗敏至本源寺、祭祖先及戰死靈、

○十七日、大風、城内及城外破損、島中倒家甚多、

○十九日夜、屋久島鯉舟一艘漂至于莖永村、唐物方縮横目玉利喜左衛門、縮方横目羽田孫助・坂元吉左衛門、吾横目種子島友之助・西村休八赴彼地、問其故、曰、舟中二十四人、十七日釣于洋中、忽遇大風、故放流絕飲食、死者十人、存者十四人、幸而漂于此地、而不能起數人、即與衣服、病者使醫與藥餌、舟破不可乘、別促小舟將送之時、自屋久島尋之小舟到、即乘之歸、事聞于官、

○廿一日、所放于住吉村一向宗流人調所笑左衛門家來故恒吉名字小右衛門、與住吉村之郷土平山貞吉姉没海情死、到二十二日得骸、縮方横目羽田孫助・坂元吉左衛門、吾横目西村休八・種子島友之助檢見之、事聞于官、

○廿二日、死骸漂至于野間村大場浦、又漂至于安城村川脇浦、共縮方横目羽田孫助・坂元吉左衛門、吾横目西村休八・種子島友之助檢見、事聞于官、

○晦日、以女子疾病、令人渡邊早右衛門・西村九郎・種子島友右衛門、詣于本源寺神前及伊勢大神宮・浦田大明神・住吉大明神・熊野大權現・寶滿宮、祈平愈、

○八月一日、與中紙各二束于慈遠寺・大會寺、二箇寺亦獻同品、

○二日、安城村大峯葦野駒取、物奉行知覽才兵衛行修、馬役市來勝之進・上妻新太夫、

○三日、女子夭亡、禁殺生・音樂・遊興各七

日、普請作事三日、法諱清涼院殿妙香日永大童女、安二厝牌于本源寺塔中孝運院、歲附三米三斗、

○四日、賜三眞米四斗于松下榮太郎、洲之崎浦之喜助、池田浦之周吉・太郎吉、去十七日夜、大風起在港内、日典丸甚危、彼輩犯三逆浪、保三護船、故賞之也、

○五日、住吉村因三風損一番入十一賦、除地四十七竿、減賦有差、

○十五日、古田村蓮勝寺獻上、如例、

○廿六日、中山王贈三太平布三疋・燒酎一壺、又使三金武親方贈三芭蕉布各一端、吾横目西村七郎・西村九郎、船奉行田上市郎・時任平八、年行司八板榮右衛門、見謝去歲馬艦船來于種子島、遇三難船三煩中諸司上、

○廿八日、仙師棟梁納官村之松下市十郎坐三盜三所、禁櫻材一納三科錢二十貫文、其徒同村松下喜市十貫文、遠藤新吉・松下仙吉・徳永彦太郎坐三運三

漕所三盜材一納三科錢三十五貫文、

○同日、下西之表仙師棟梁遠藤七次、坐三盜三所三禁材一納三科錢三十五貫文、其徒遠藤七郎・牧瀬善五右衛門・榎本新次郎・榎本新七・岩吉二十貫文、納官村之山見舞阿世知九郎兵衛・松下七太夫寺三入于本成寺各七日、坐三緩三法禁三使三市十郎・七次等盜三材也、延叱三村吏鯨島直右衛門、

○同日、池田浦之新次郎納三科錢拾貫文、受三材于仙師之時、不下何問三非三制樹而受之、其行不正、故及此、連及叱三孫次郎、新次郎使三孫次郎受三材之時、不知三所三禁材而受之、以此也、

○同日、叱三東市街之牧瀬仁三太、坐三使三横目・山奉行糺三明盜三材之事、日、所三告三于横目三相齟齬上也、

○九月一日、上西之表徳藏納三科錢九百文、其子善之允・徳之允四百文、坐三買三莪荒于遠藤八次一也、延叱三村吏榎本新介・安藤桑之允、

○同日、下西之表遠藤八次下獄一年、収所買我荒、嘗以私商我荒命寺入、往來處々不守法、今又重買我荒其罪重、故及茲、

○四日、足輕吉永新吉寺入于淨光寺五十日、甥遠藤八次託新吉買我荒、宣制止之然買之、故罪之也、

○九日、使種子島友之助政賢讀法章于廣間、其餘賀儀以女子夭亡止之、

○十七日、以凶歲免大山野稅四步三、

○十九日、高奉行國上伴九郎寺入于妙昌寺三十日、随例去歲巡廻諸村、監察田地令賦定貢稅、西之村之鮫島五右衛門・羽生五郎右衛門私墾關荒蕪之田耕耘、伴九郎不識察、猶為荒蕪之地脱賦稅、故及此、

○廿日、以凶歲止馬追、使馬役美座善兵衛・

日高勘太郎取二歲駒上、

○廿一日、與米三石下村惣十郎、上書辭其子十郎小姓役不聽、與米賑之、

○廿三日、本府小番士伊知地八右衛門一族伊知地吉次郎從故正建寺廣宣院來爲臣、命組士、

○廿五日、與金子五百疋于家老岩川十右衛門時行、請清國船漂來之費聞于官、時行以家老在覺邸、其處置協宜速下賜之、故賞之也、

○同日、唐物方締横目南郷覺太郎、附役青野新之允、締方横目種子島八郎來、

○廿六日、二十人瀨田芳太郎寺入于善福寺一年、令償中途所失網碇、爲日典丸船頭登坂、歸路於外浦上陸、辨私事、唯使水梢等歸帆、故罪之也、連及叱水梢洲之崎浦之仙次郎、池田浦之矢太郎、海士泊浦之甚太郎、増田村岩屋口浦之甚太・安市、平山村濱田浦之五郎太、

○十月一日、大牟禮良太郎・伊知地吉次郎初謁見、

○二日夜、孺人産女子_津字波、産弓種子島權介、家老美座十郎右衛門時敏侍席、

○六日、以前田平次郎・美座三十郎・上妻新藏

爲三納戸奉行兼兵具奉行一、美座平兵衛納殿役人
普請奉、緒方善藏・高尾野勇介・梶原貞次馬役、
行如故

○九日、締方横目伊東吉兵衛來、

○同日、名代家老岩河十右衛門時行詣于本源寺

盛供三宗祖日蓮三菓子上、

○十日、與三米一石八斗于住吉村郷土内田半四郎一、

爲三古田村庄官一以助三移三居于他村一之費上、

○十三日、以三種子島三七一爲三無役番頭一、上妻新

大夫普請奉行、羽生平左衛門山奉行、

○十八日、御記録奉行命三家老一曰、所三藏南蠻鉄炮

初書三二挺一後書三一挺一、速達三于種子島一可告三

其故一也、

○廿三日、唐物方横目玉利喜左衛門・關田伴藏、締

方横目羽田孫助・坂元吉左衛門歸

○同日、下西之表郷土上妻甚次郎宅火、焼三宗門手

札一、事聞三于官一、

○廿七日、去年所三盜三船出奔一之流人等、於三長崎一

破牢又出奔、故國老傳三長崎奉行之命一捜三索
之、如三左、

○四一三 藩家老座申渡書写

写

長崎御奉行所より別紙周次・忠次・庄吉事、揚屋
江被預置候處、先月九日暮過抜出逃去候付、御領
内入来之儀茂可有之、御尋方之儀申来候間、其以
来入来之旅人入念相改、人相書引合、疑敷者於有
之者召搦、早々申出候様、組中・支配中・諸郷江
不洩様可申渡者也、

但

郷之儀於罷居者、宰領相付鹿兒嶋江列越候様、
月番御用人より可申渡候、

十月廿七日

御家老座印

大身分觸役所

紀州流人

瑞龍改

富三郎事

周次

午年四拾六歳

一中背

一肉肥たる方

一顔丸白き方

一眉毛薄く眼少き方

一鼻耳常跡

一髪うすき方

一齒并揃

一言舌さわやかなる方

一其節之衣類、古黒木綿単物白地浅黄形単物を

着、黒羅紗帯をして、傘巻本所持罷出候、

淡路國

竹松事

忠次

午年四拾式歳

一中背中肉

一顔長色黒き方、疱瘡之跡有之候、

一眉毛鼻耳常跡

一眼大き方

一髪少き方

一言舌早き方

一其節之衣類、白地浅黄形付単物着、真田帯をし
て、傘巻本所持罷出候、

豊後國

別府村

庄吉

午年三拾歳

一背高中肉

一眼鼻耳常跡

一顔色青黒き方

一髪眉毛鬚濃き方

一言舌静なる方

一其節之衣類、藤色絹とん単物淺黃紺豎嶋單物を着、木綿三尺帶をして、傘老本所持罷出候、

右之者共、去月九日暮過揚屋抜出逃去候間、若領内江入込候ハ、召捕、御役所江可被差出候、

○十一月十日・十一日、於「本源寺」修「本光院殿日瑞大居士三十三回忌」、初日八講、結日頓寫說道、名代家老岩河十右衛門時行、孺人名代上妻七兵衛宗徳、母孺人名代渡邊早右衛門兼重、梅香院名代西村直之進時義、久美・婦美・滿佐名代森周右衛門友諒、法事奉行西村十左衛門時弘・日高源藏爲親、饗膳奉行種子島權之允・羽生岡右衛門、出家三十五人、

○十六日、横目木場休右衛門、附役中村五藤太來、有「公義流人恩赦之者」爲「護」送之「也」、

○十二月十一日、赦「牧瀬甚助、現和村田之脇浦周次郎、近政之嘉次郎、同所之竹次郎」、

○十三日、上妻源左衛門獻「斗搗之餅」、名代家老上妻才次郎宗敏、

○十四日、下村佐一郎初謁見、

○十八日、近年府庫甚空耗、借債益多、一年之息子錢及「六千貫文」無「可」償之術、「三役相議、三年収」一統之祿地半、「且令」一家製砂糖二十五斤納之則當「償」之、於是召「三組」之諸士于廣間「諭」之、如「左」、

○四一四 役所申渡書

御所帶方難被爲續儀者前方より之事候得共、此近年別而御借銀致增長、一ヶ年之利拂六千貫文餘に相及、當分之姿「而」者追年尚以大枚「成立」、益御難成相成候向「而」、段々被尽御吟味候得共、御蔵入之所務米并御産物代銀「而」者、中々大坂・鹿兒嶋兩所御借銀利拂引足様無之、却而年々御借銀相重候段者、別冊差引書之通候、鹿兒嶋御借銀之儀者利休「御申込」可被成都合「成」可有之候得共、大坂

表之儀被對 公邊向とふも利休^ミ等難被申掛、往
々者必至与御行迫之儀差見得候、自然御出米御金
納不足にも相及候ハ、御高^ニ相掛候儀不輕事^ニ
候、依之無是非諸士知行并扶持高之内来未之歳よ
り式升重出米者御免^ニ而、惣題廻^{マヤ}りを以半方御合
力、且一竈^ニ付砂糖廿五斤ツ、三ヶ年之間御借
入、後年御繰合を以砂糖代之分者御拂可有之候、
誠^ニ當分一統困窮之折柄候得共、御蔵方御難渋之
趣厚奉汲受、無吳儀御受於有之者、誠以御仕合之
至、左候ハ、追々御役々出府之上可奉伺 尊慮候
間、此段可申渡候、

午

十二月十八日

御役所

○十九日、有留五右衛門嘗爲^ニ現和村下吏^ニ私税^レ米
不^レ償^レ之、故取^ニ其高一石九斗一升八合八撮^ニ、
一世放^ニ于西之村^ニ、

○廿一日、與^ニ米各四斗于安城村足輕村松新五郎、

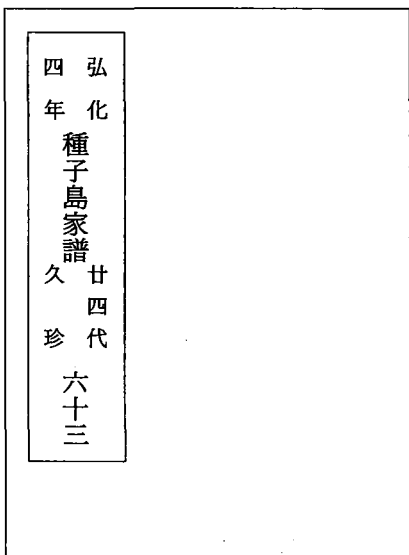
國上村大田門名頭休蔵^ニ、賞^下事^レ親致^申町^上也、

○廿七日、三箇寺及二十人家・鍛冶賀^ニ歳暮^一獻

上、如^レ例、

○歳暮、規式、如^レ例、

(表紙)



- 弘化四年丁未正月元日、國上村獻_ニ野老_一、
- 二日、國上村浦田浦獻_レ鯉、現和村庄司浦獻_レ鰻、
- 同日、覽_レ馬、名代家老上妻小左衛門定直、馬役市來勝之進、
- 同日、八寺獻上如_レ例、名代家老上妻定直、
- 四日、上之郡庄官・小觸獻上如_レ例、名代家老前田十九郎宗恭、

- 同日、從_ニ少將公_一放_レ鷹、公以_ニ其所_一獲賜_ニ於久珍_一、
- 五日夜半、下西之表百姓嘉吉母隱宅火、其母焚死、横目種子嶋翁之助・伊東吉兵衛、我横目西村休八時乘・西村田代時和往檢焉、
- 同日、先_レ是安城村藤太夫私鬻_ニ我茂_一、至_レ是事露、即囚_ニ之會所_一、其夜病死、
- 六日、初狩、名代家老上妻才次郎宗敏、物奉行_{失姓}組頭西村甚五衛門時哉・時任平八時喜・種子島友之助政教、山奉行西村員右衛門・野間龍之助・羽生半左衛門、西之表庄官獻上、如_レ例、
- 七日、中之郡・下之郡庄官進上如_レ例、家老前田十九郎宗恭、
- 九日、赦_ニ國上伴九郎_一令_レ出寺、
- 十日、平山新兵衛武雄祗役之期在今年三月、有_レ故命以_ニ正月_一使_レ行焉、因與以_ニ米一斛_一而助_ニ其旅資_一、
- 十一日、蓮勝寺獻_ニ神酒・棗盛_一、

○同日、甲冑之賀、如例、

○同日、村々諸寺獻上如例、名代家老上妻小左衛門定直、

○同日、的始、射手一番西村伴助、二番上妻助之丞、

三番日高平次、名代家老上妻才次郎宗敏・用人種子島友之助時大、

○同日、軍陣・温坐、如例、

○十四日、先是我島商船船主嘉助、遇颶敗壞于攝州

兵庫浦、舟人僅以身免、會有三船便、以此事告于政府、

○同日、横目木場休右衛門奉官命、問我嶋村

邑多少、我家老前田十九郎宗恭具村名而答曰、村員雖為二十八名、當往日懸官測量於此

地、以九村為本村、其他皆為支村、本村西之表村現和屬焉、本村國上村安納屬焉、本村野

間村、本村油久村上里・平山屬焉、本村中之村西之村屬焉、本村島間村、

○十七日、遠藤宇兵衛・山崎筑右衛門前年為米倉

吏、頃日檢其簿、負債八十斛餘、以故令屏居待罪、

○同日、奉命衛于聖堂・神農堂、

○二十三日、莖永村周八宅火、燒失其宗門手札、

○同日、種子嶋三七為無役番頭、

○晦日、西村藏多請因病解職不許、與米四斛以賞其勞動、

○監察丁夫・病夫及有職者聞于官、如例、

○二月朔日、始字女子、曰波津、

○二日、官令我家老美坐十郎右衛門時敏納罰金五貫文、以狩夫銀有負債也、

○同日、太守公頒賜大峯神符于國中、我嶋亦與焉、蓋鎮壓夷賊也、即奉之慈遠寺、

○同日、坂井村道具番上浦市之進以善捕扶、且今回急役于本府加賜祿田、

○三日、以上西之表足輕安藤與平太為一世郷士、以嘗為吾僕也、

○九日、三浦源八郎・宮浦半之丞・鮫嶋有右衛門・

古市喜兵衛為_二地方檢者_一、年與_二俸米一斛八斗、

○十日、締方横目羽田孫助・滿尾喜三次來、

○十一日、美坐織太郎為_二牛馬口錢方掛_一、

○十二日、日高嘉兵衛吏務多年、尤有_レ功_二於製

蠟_一、因賞之以_二金三步・染布一端_一、

○同日、日高仙太夫為_二馬役_一、職事如_レ故、以下多

年為_二物奉行坐筆吏_一而有_レ勞也、

○十三日、與_二米三斗於下西之催子仙次郎_一、賞_下

以_二私財_一造_中橋于鴨目川上、

○同日、奉_二清涼院木主于本源寺孝運院坊_一、年以_二

米三斗_一為_二祭資_一、

○十五日、上西之表善之進下_二于獄_一、以下先_レ是盜_二

人之牧馬_一而私賣_レ之也、

○十六日、赦_二莖永村之勘左衛門_一令_レ出_レ獄、

○同日、牧半太郎_{妙泉}・河野新太郎_{滿德}寺入各一七

日、以_レ放_二銃中野射場_一也、

○同日、桑山權之丞寺_二入于滿德寺_一一七日、以下嚮

賞_二仙次郎造_レ橋也、命使_二村横目_一拉_二仙次郎_一而

趨_二謝于三役之庭_一、時權之丞為_二横目_一不_レ奉_レ

命、獨使_中仙次郎趨_上謝也、

○十八日、嚮使_下遠藤字兵衛_一贖_中往年負債_上、不_レ

能_二盡辨納_一、因籍_二取其禄田二斗七升九合八勺

所_一以補_二不足_一、

○廿一日、妹_阿更改名_佐登、

○同日、濱津脇浦龜吉・藤三郎・德太郎・新次_{四人}

共、屋久津之清太郎・甚之進・七郎次_{三人}共、甚

太郎・安太郎・嘉太郎等_{三人}共、納_レ罰炭三十表_一、

以下先是漕_二運砂糖于赤尾木浦_一也、區處有_レ所_レ

不正也、

○同日、籍_二没西之村羽生五右衛門禄田之半_一、而

令_レ之寺_中入于本法寺_上一年、以下先_レ是為_二村横

目之目、私墾_二開公田_一而不_レ輸_二租于府庫_一也、

里正濱田萬之進寺_二入于淨光寺_一二百五十日、雖_レ

非_レ與_二五右衛門之謀_一、然亦知_二其情_一而不_レ問、

故逮坐焉、横目名越宗四郎・河東新作・日高曾十郎・鮫島五次郎亦寺_二入于淨光寺_一各七閱月、功

才多吉令、納科炭二表、各罰其不職也、羽生五郎右衛門寺、入于本蓮寺一年、以爲三五右衛門之黨也、

○同日、安城村里正田上良吉、横目榎元仲左衛門・

長野藤九郎・小川兵七寺、入于淨光寺、七日、嚮大野・立山里民之私鬻我荒也、以實村吏施令嚴之所致之故、速坐焉、

○同日、責訶樋口儀八、以借安城村大野里民四郎次所採我茂而不還也、

○同日、責訶安城村武田藤次郎・鮫島三右衛門、以不制其兒子等私鬻我茂也、

○同日、責訶上西之表横目榎元新吉・安藤桑之丞、以我茂之禁不嚴也、

○同日、西之村日高曾十郎寺、入于淨光寺、二七日、以私鬻我茂也、

○同日、繫桑原喜太郎于獄一百五十日、以下誣上西之表村人、自矯君命、買山歸來也、

○同日、岩屋口浦甚八、濱津脇浦次郎、洲之崎浦仙

次郎、濱田浦太郎右衛門、嶋間浦長十郎・常太郎、濱田浦三太郎、池田浦孫次郎、嶋間浦市兵衛・周次郎妻、濱田浦休太郎・甚助、西市桑原六次郎・八板平藏・桑原源助、安城村太郎次・八百次郎・猪右衛門・休太郎・才七・源之進・藤八・瀧之丞・嘉平次・幾次・勇太郎・四郎次・萬之進・休一・萬次郎・喜三太・惣之丞・彦次郎・貞次郎・新之丞・藤次郎女・周之丞・新七・榮四郎・嘉三右衛門・萬之丞・六郎右衛門妻・喜太郎・仲四郎・藤六妻・利十郎・惣七・權五郎・覺之丞・次郎左衛門、安納村彌吉・庄右衛門・新右衛門・新吉・宇平太・次郎・十郎・作次郎・覺次郎・庄吉・清之進・仲吉・周之進・市作・彌三次・十四郎・仁作・伴四郎・新五郎・善作・吉之丞・善兵衛・市助・三太郎・十五郎・千代袈裟、西之村曾平次・榮助・惣之丞・宗吉・助太郎、増田村吉次郎・彦次郎・貞次郎・市太・仁六・七次郎、野間村權平・榮之丞・三次郎、納官村利十郎、野間村源

- 五郎・吉左衛門、増田村權十郎・今四郎・利三次、阿高磯休次郎、平山村太郎吉・友吉・遠藤八次郎等納_二罰錢_一、各有_レ差、以_二私鬻_一我茂也、
- 三月二日、下村三太郎始調、獻_二征矢_一、桑山市之丞・同直市・大山勇八・牧四郎・河野佐太郎始調、獻_二火繩_一、
- 同日、以_二西村兵藏・種子島平藏_一為_二兵具奉行_一、
- 同日、與_二俵田三斗_一所於現和村道具番羽生_二三右衛門・橋口五作_一、以_レ善_二捕手_一也、
- 同日、獲_二江豚於城之濱_一、
- 三日、使_二種子島友右衛門時大讀_一法章、如_レ例、
- 同日、與_二艾餅於三寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、
- 同日、西之表里正賀_二瀬引_一獻物、如_レ例、
- 同日、赦_二安城村里正田上良吉等三人_一令_レ出_レ寺、
- 同日、我嶋水梢矢吉_{札名}仲助與_二大嶋某氏女_一共縊死、官檢_レ之、然不_レ知_二其何故_一、而至_二於此_一云、
- 十四日、牧今助有_二爲_レ盜之說_一、繫_二于獄_一諭_レ

- 之、
- 十八日、嶋津山松死、母夫人及久珍忌十日・服四十五日、夫人忌十五日・服四十五日、
- 二十日、流人横目西田藤兵衛來、
- 四月朔日、射禮如_レ例、日高平次雙箭命_{中金}賞以_二鷲翎_一、
- 四日、貶_二牧今助_一削_二其土籍_一為_二足輕_一、下_二于獄_一百日、
- 同日、令_二安城村新太郎・嘉平次・半右衛門_一各納_二罰錢_一有_レ差、以_二私鬻_一我茂也、
- 同日、使_二樋口儀八_一納_二罰錢_一二十四貫文、以_二私鬻_一我茂也、
- 五日、下西之表武田武次寺_二入于本法寺_一二七日、以_レ伐_二路傍列松_一也、
- 十日、西村惣次為_二近侍_一多年屢役_二於麿邸_一、憫_二其之于家産_一與_二米四斛_一、
- 十五日、知覺才太郎始調、獻_二征矢_一、
- 二十日、赦_二武田武次_一令_レ出_レ寺、

○二十一日、家老平山傳一郎武世死、

○二十二日、横目野添善之進有_レ病、急_レ艤_レ舟而送_二之本府_一、

○二十五日、住吉村深川里民彦次郎・足輕阿世知源之丞竊_レ燒_二炭於牧川山_一事露、因追_二脱其炭七十二表_一、

○同日、國老調所笑左衛門・末川久馬・嶋津壹岐傳_二長崎奉行之令_一、如_レ例、

○我嶋之商船_二船主孫市_一去年十二月遇颶敗_二壞于攝州兵庫浦_一、舟人以_レ身免、昨有_二來船_一、以_二是事_一告_二于我_一云、

○公儀流人五郎兵衛・忠右衛門・徳松・善吉・音吉・安藏・富右衛門・岩吉・熊吉・友吉・関藏・岩吉・巳之助・彌三郎遇_レ赦而歸_二忠右衛門・徳松・岩吉_一、
関藏請留
住許之

○官禁_レ鬻_二唐貨_一、且示_二糸荷船漂着之時處置之
法_一、如_レ例、

○五月二日、緒方權藏寺_二入于妙昌寺_一三七日、以_レ

當_二弘化三年三月為_二覺邸普請方筆吏_一有_二不正事_一也、

○四日、籍_二山下寬齋居宅_一為_二母夫人別荘_一、

○同日、官下_レ令使_二我室老・物奉行・留守居_一、
內事受_二制於官所_一使_レ屬_レ我之近侍_二附衆_一、外事
受_二制於用頼_一、

○五日、與_二糎于三寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○十四日、坂井村之利助窺_二牧瀬仁三太不_レ在、夜
潛_二入其室_一、其跡似_二為_レ盜者_一、家人捕而告_二于
吏署_一、

○十五日、太守公臨_二濱崎亭_一、前刻久珍親觀候_二
安否_一、且問_二公發_レ駕之期於左右_一、歸而遣_レ
人覘_二其警蹕已近_一、而報_二之濱崎亭上_一、公將_レ入_レ
門、久珍迎_二拜於門外_一、先輿而趨_レ內、用頼以
下留守居迎拜焉、母夫人拜_二於坐尾_一、公坐、
設_二禮器_一如_レ儀、母夫人・久珍謁、女兄_二久美_一・女
弟_二登_一・婦人_二能_一・女子_二波津_一取_レ次而謁、而後近侍_二御以
下侍女之長_二寄_一謁、杯盤陳列、公賜_二金_一、
料寄母夫人

・久珍以下、獻物有差、使_レ我臣柳田來鳳_一作_レ画助_ト歡、夜獻_レ膳、母夫人・久珍・於遊羅_一之方・園川・佐衛_{各侍}女名伴食、公出駕_一與於闕外、母夫人送_三於闕内_一而稽首、久珍先_レ與而趨拜_三於庭内_一、用頼以下稽_三首於門外_一、公歸_レ城、久珍將_三朝而謝_レ之、公遣_レ人勞而止_レ之、故遣_三伊木七之助_一候_三安否_一、母夫人亦以_三侍女長_一寄_レ充_三使者_一、明日母夫人・久珍自朝而謝_レ之、獻賜贈遺、記_三于左_一、

鯛一折・樽酒一荷・挂幅_{尚信筆}・西洋焼肴鉢・毛氈母夫人獻_レ之、鯛一折・樽酒一荷・料紙・硯箱・茶碗・龍文純子一卷久珍獻_レ之、母夫人贈_三十錦蓋茶碗於遊羅之方_一、久珍贈_三淡婆姑五箱・紬嶋布四反・肴代千疋於園川・佐衛_一、母夫人贈_三肴代六百疋・越後嶋二反於永瀬・加衛_{各侍}女名、吾贈_三肴代四百疋・數奇屋嶋布二反永瀬_一、加衛_一、女兒_{久美}・婦人及女弟_登・女子_{波津}多慶獻_三肴一折於公_一、江戸獻上、記_三于左_一、

肴代二百疋・花氈子二枚・菓子皿十久珍獻_三少將公_一、肴代二百疋・西洋焼蓋茶碗・唐紙一束母夫人獻_三少將公_一、肴代二百疋・毛氈二枚・茶盆十久珍獻_三少君_一、肴代二百疋・西洋焼茶盆十・船形盆十母夫人獻_三少君_一、肴代二百疋・毛氈二枚母夫人獻_三勝姫君_一、肴代二百疋母夫人及吾贈_三之真如院之方_一、

○五月二十二日、三役觀_三武於廣間之庭_一、師家各造_通、畢而褒_三詞之_一、

○二十三日、禱_三于本源寺_一、以_三頃日牛馬多死_一也、

○二十四日、赦_三緒方權藏_一令_レ出_レ寺、

○同日、下_三坂井村利助於獄_一百日、事詳_三于十四日_一、

○二十八日、朝_レ城、太守公賜_三桐十文字徽號_一、

事記_三于左_一、

○四一五 桐十文字紋免状

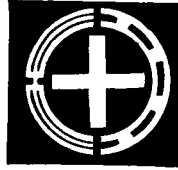
(四一五のし) 桐十文字御紋 種子嶋彈正殿

右者、種子嶋伊勢名跡相續被仰出、家紋被相用

事候得共、格別之御續柄、別段之思召を以、右御紋一世定紋同様被相用候様被成御免候、但桐十文字計被相用候儀者可被致遠慮候、左候而二男二女以下相用候儀可為無用候、

(四一五の₂)
口演 掟

桐十文字御紋、一世被相用候様被成御免候ニ付、松寿院殿奥方被相用候儀者、勝手次第被成御免候事、



○二十九日、先是籍除負債者之禄田ニ至ニ於十五石、使ニ牧藤五郎・柳田喜碩・長野休太右衛門・猶原六郎次納メ金買_レ之、以救ニ府庫空耗_一、

○六月十日、宮原里民善吉児患_レ痘、醫柳田喜碩告_ニ之政府_一、即使_ニ僧徒_ニ三禱_ニ于本源寺_一、蓋因_ニ舊例_一、

○十一日、以_ニ上妻太代_一為_ニ船奉行兼町奉行_一、
○十二日、以_ニ中村八平太_一為_ニ小姓兼祐筆見習_一、
○同日、先_レ是籍没宮浦半之丞禄田、頃日其劍術門人某々等請_ニ納_レ錢償_ニ負債_一復_ニ賜禄田_一、許_ニ之_一、

○同日、與_ニ米三石於宮浦藤九郎_一、以下屢祗_ニ役覺府_一勞勤有_ニ年於茲_上也、

○十三日、復使_ニ牧藤五郎・子島桃園_一納_レ金買_レ田、以救_ニ虞貯之空乏_一、其田負債者之所_レ納也、
○十八日、島間村配所 公儀流人榮三郎、有_ニ乱行_一下_ニ于獄_一、

○二十四日、大風、傷_レ稼倒_レ屋_{米穀千二百四十三斛餘、砂糖三万斤類屋百八軒}、
○二十八日、西村孝千代始謁獻_ニ征矢_一、
○晦日、夏越之賀、如_レ例、
○以_ニ美坐源助・宮浦藤九郎_一為_ニ改革掛_一、

○與_二染布一端于長野平兵衛_一、以_レ獻_二錢五十貫文_一也、

○母夫人賜_二白銀二枚於莖永村足輕馬場友次_一且為_二山役_一、以下嚮為_二母夫人小奴_一而能服_中其勞_上也、

○母夫人賜_二銀於納殿役人河東祐兵衛_一、以_二能稱_二其職_一也、

○官下_レ令_二禁_レ驕、守_レ職、慎_レ禮讓_一、學_二文武_一、

○七月五日、本府青山仙九郎告_レ授_二礮術之訣於我臣西村休八_一、

○七日、家老上妻小左衛門定直拜_二甲冑於廣間_一、如_レ例、

○同日、山崎筑右衛門于本善寺遠藤宇兵衛于遠妙寺寺入各一年、古普請入十年、雖_二其負債既償_一然坐_二嘗不_レ能_レ修_二其職_一也、

○同日、赦_二上西之表善之丞_一令_レ出_レ獄、

○八日、與_二善次郎役_一在于鹿兒島有_二乱行_一、捕送_二于種子嶋_一、

○同日、野間村大山權九郎寺_二入于本成寺_一二七

日、以下_レ先是為_二野間村牧見廻_一而有_中不正之事_上也、

○同日、名代家老西村甚五太夫時員祭_二宗祖及戰死之靈于大會寺_一、

○九日、海土泊浦嘉三太・庄太郎・休太郎科仕各二七日、以下嚮赴_二馬毛嶋_一也、不_レ告_中之船手及締方横目_上也、

○同日、官始使_二本横目一分_一監管國中、種子嶋亦然、

○同日、締方横目谷山惣兵衛・田中十郎右衛門來、

○十二日、與_二俸田十石於物奉行知覽才兵衛行修_一、

○十三日、名代家老岩河十右衛門時行祭_二先祖及戰死之靈於慈遠寺_一、

○十四日、名代家老上妻才次郎宗敏祭_二先祖及戰死之靈於本源寺_一、

○十五日、唐物横目稅所蘇之助・附役宅間金之丞來、

戰死之靈於本源寺、

○十七日、赦_レ牧今助_二令_レ出獄、

○同日、昨十四日、二枚帆一艘、船頭佐多伊坐敷正

次郎・水手三人運_二送炭於帖佐鏡山_一、遇_レ颶敗_二

壞于馬毛島_一、僅以_レ身上_レ岸、所_レ載悉失、明十

五日、幸得_二一漁船繫在_レ岸乘而達_二種子島_一、我

與_レ之以_二衣食_一、後數日送_二之於其郷_一、

○同日、請_レ齋_二柞灰三百二十表於大坂_一、官許_レ

之、

○十九日、八板築右衛門_{西市}寺_人入于本成寺_二二十七

日、以下前年樋口儀八使_二築右衛門_一為_二船長_一商_二

於瀬戸内_一、至_二肥前_一賣_二所載之豆_一私_二其價_一、其

他處置不_レ正也、

○同日、責_二訶中村善五兵衛・美坐六右衛門_一、以下

前年為_二金庫吏_一有_レ不正之事_上也、

○二十日、下_二平山村小川桑太郎于獄_一百日、以_レ

為_レ盜也、

○二十四日、設_二橋於鴨目川_一功竣、使_二一家有三_一

夫婦者_一始過_中其上_上、謂_二之渡初_一、

○二十五日、赦_二桑原喜太郎_一令_レ出獄、

○二十八日、赦_二濱田萬之進_一令_レ出寺、

○按_二察一向宗一如_レ例、

○八月朔、大會寺・慈遠寺獻賜、如_レ例、

○九日、中之郡・下之郡馬追如_レ例、名代家老西村

甚五太夫時員、物奉行知覽才兵衛行修、用人西村

九郎時起、馬役緒方善藏・前田平八・梶原貞次・

日高勇太郎、醫田上弘齋等往督_レ之、

○八日、安城村馬追、物奉行西村源左衛門時弘、馬

役日高勤太郎・市來清之進、

○九日、羽生新四郎發_レ狂、其族人羽生岡右衛門

請_下使_二捕手_一収而姑繫_二之監倉_一、及_二坐牢就_一而

移_中于私室_上、許_レ之、

○十日、女津患_二嘔吐_一、令_二用人_一祈_二神祇_一、本源

寺種子島友之助政教、伊勢宮・浦田宮河内六郎時

然、住吉宮・寶滿宮權現森休兵衛友習、各往詣

焉、

- 十三日、赦樋口儀八令出寺、
○十五日、蓮勝寺獻上、如例、
○同日、赦野間之大山權九郎令出寺、
○十六日、與米三斛於上妻藤八、賞先是數年
為小姓屢役于藩邸也、
○二十四日、赦坂井之利助令出獄、
○同日、先是濱津脇之喜太郎・太三次販鬻他境
遊蕩無賴、頃日縛二人於鹿兒島、乃送之其
家而禁恣出境、
○同日、佐多伊坐敷郷士年寄在島彦右衛門者贈
簡、謝嚮我待正次郎等之厚、
○二十七日、以鮫島孫右衛門為船奉行兼町奉
行、
○二十八日、以阿世知仲五郎為米倉檢者、
○同日、野間村有患痘者、慮其治療不周密、
遣用人西村田代時和臨監、
○二十九日、赦西之村名越宗四郎・鮫島友市・日
高曾十郎・河東新作・鮫島五次郎令出寺、

- 前年公儀流人忠右衛門・徳松・吉松・安藏・岩吉
・友吉・關藏遇赦不還、請留住于我島、
聞之官見許、而禁其出境、
○九月三日、以中田宇平太為米倉監、年與俸
米一斛八斗、
○五日、桑山直太郎為本出米方掛、年與俸米一
斛八斗、
○九日、令河内六郎時然讀法章、如例、
○十二日、捕熊野浦佐太郎于覺府、先是佐太郎
流寓他境、而與波美浦某氏女姦生子、家
有老婆、親族屢勸之歸養、然不肯、是日遂
捕之送于種子島、而以往不許其私出境、
○廿三日、遣用人西村直之進時義・西村十左衛門
時弘・河内六郎時然・種子島友之助政教、巡
視村邑、而使男廿歲以下・女十五歲以下未
患痘者、親灸於方患痘者而染焉、
○廿八日、赦濱田芳太郎令出寺、
○十月九日、供菓子于本源寺、將祭宗祖日

蓮一、家老美坐十郎右衛門時敏、十三日、上妻才次郎宗敏詣于本源寺一祭三日蓮一、

○十四日、與三米二斛於下西之表催子仙次郎・役目及庶人一、賞下嚮造三橋于鴨目川一之日能服中其役上也、

○同日、與三米於野間村・納官村人一、以下先是轉三輸樁材一之日兩村人服中其勞上也、

○十八日、府下患痘者漸痊、將下使三近村兒輩二染中於痘氣上、乃祈三冥護于本源寺一、用人・内横目侍レ席、使下三近村有兒者一詣上焉、與以三神佛之符一、而使下レ醫拉三兒輩二至三患痘者之家一而染上レ之、

○廿四日、雨雹、

○以三美坐源助一為三組頭一、

○官令三池田浦藤太郎納三罰錢一貫文一、以下先レ是赴三琉球一商中唐貨上也、而休次郎為三之船長一、坐三令不レ嚴一亦納三二貫文一、

○官檢下六十歲以下十五歲以上、可三充軍伍一者及器

械多少上、而如三馬標旗章一則繪圖而呈レ之、記于左一、

人員八百七・鎗炮四百二十八・槍九十三・薙刀二・熊手二・弓六十三・征矢七百七・箆十三・矢籠二十三・鎧六十二、以上諸士自家所レ蔵也、我武庫則別有レ簿、

○與三朝服一領於美坐源助時貞一、賞下學三軍法於園田氏一、而得中其蘊上、

○以三增田村西田太市一為三二世郷士一、賞下先レ是多年為三夫人小奴一、而能服中其勞上也、

○十一月七日、異國方鯉船船主濱津津 脇基四郎運三米於府元一、洋中遇レ風覆没、

○九日夜、坂井村中田之百姓孫吉・喜藤太宅災、燒三失其宗門手札各四枚一、締方横目田中十郎右衛門・谷山恕兵衛、我横目森休兵衛友習・渡邊早右衛門兼重往檢レ之、

○十日、與三樺田十五石所於本藩留主居鮫島孫右衛門一、

- 十八日、官命令_下納_二舊鑄金銀_一換_中新鑄金銀_上、
- 十九日、吾有_レ病使_二用人_一祈_二于神祇_一、本源寺神殿種子島友之助政教、伊勢大神宮・浦田大明神宮西村甚五右衛門時哉、住吉大明神西村九郎時起、熊野權現西村休八時乘、寶滿宮西村直之進時義、
- 同日、赦_二小川桑太郎_一令_レ出_レ獄、
- 二十七日、平山之百姓太市・太吉・喜平太各科仕一七日、以_レ為_二博奕_一也、責_二訶桑太郎父桑右衛門_一、以_レ不_レ能_レ教_レ子也、
- 同日、平山村庄官羽生十兵衛、横目山口勝次・上妻勇太郎・同伊三太・同勇右衛門寺入各一七日、先是桑太郎為_レ盜、村人歸_二冤於孫太郎者_一、強令_レ納_二贖錢十八貫文_一、十兵衛以下不_レ能_レ察_二其枉直_一、反黨_二村人_一以_レ誣_二孫太郎_一、故被_レ坐、
- 同日、榎元周七・鮫島矢七寺入于淨光寺三十五日、先_レ是共漁_二于海_一會_二帆檣一條漂至_一、乃斷_二其鍊環_一而攘_レ之、事露被_レ坐、周七兒松次郎亦

- 與_レ焉、故寺入于本成寺一七日、
- 二十九日、令_二納官村次助・勇太郎、住吉村權次_一、納_二罰錢各五貫文_一、以下私採_中材于某山上也、
- 同日、令_二新原次平・牧川杣師矢左衛門・住吉村杣師多七_一、納_中罰錢_上各十五貫文、以_レ嚮次平請_下伐_二枯松十株于納官山_一為_中屋材_上許_レ之、次平使_二矢左衛門・多七_一採_レ之、矢左衛門・多七伐_二生松及椎材三十丁_一、而賣_二於次平_一、次平亦受而買_甲之也、連逮責_二訶牧川山役松下善助・阿世知九郎兵衛_一、坐_二不職_一也、
- 官下_レ令_二正_二祿田之制_一謂_レ之、改正、
- 十二月十三日、上妻源左衛門獻_二斗搗餅_一、名代家老西村時貞、
- 十四日、嚮牧川松下甚太郎年長未_レ患_二痘_一、其親難_レ之將_レ使_二甚太郎_一避而不_レ染、甚太郎諾而去、既而以為、不_レ患_二痘則不_レ可_レ以就_レ仕_一、遂途還、晨昏在_二患痘者傍_一、事聞、嘉_二其志操_一以往

免課役三年、

○二十一日、赦平山村横目上妻勇右衛門・同伊三
次令出寺、

○二十五日、獲鯨于花里濱、

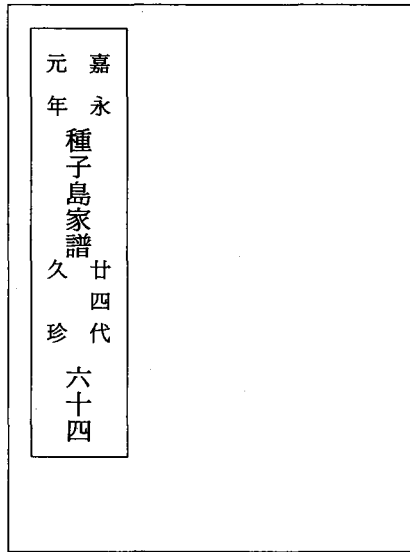
○二十六日、平山村横目羽生十兵衛・山口勝次寺
入于遠妙寺、事詳于前月二十七日、

○二十七日、遠藤清五郎寺入于浄光寺、五七日、
以下先是養少女子一以為義女一、既而待之苛
刻、失中親之道上也、

○同日、三寺及廿人家・鍛治進上、如例、

○歳暮、規式、如例、

表紙



- 嘉永元年戊申正月元日、國上村獻_ニ野老_一、
- 二日、覽_レ馬、名代家老上妻才次郎宗敏、馬役前田平八、
- 同日、國上村獻_ニ瀨物_一、現和村庄司浦獻_ニ鏡_一、
- 同日、八寺獻上、如_レ例、
- 同日、上郡庄官・小觸獻上、如_レ例、
- 六日、初狩、組頭河内六郎時然・渡邊早右衛門兼

重・西村田代時和、名代家老上妻小左衛門定直、物奉行上妻七兵衛宗徳、用人西村九郎時起、山奉行野間龍之助・平山仁左衛門・羽生平左衛門・岩河助七、

○七日、下郡中郡庄官・小觸進上、如_レ例、

○同日、舟一_{長六尋}漂_ニ來於西之村立石_一、中有_ニ死屍_一、

即縮方横目谷山惣兵衛・田中十郎右衛門、吾横目

西村直之進・河内六郎檢_レ之、聞_ニ于官_一、

○八日、與_ニ米二斗於八幡丸船長仁三郎_一、米五斗浦

星各一於水梢八人、米一斗於蟹泊舟之船長次助、

浦星各一於水梢五人、賞_西去夏 太守公臨_ニ濱崎

別業之時、以_ニ事多忙_一留_ニ役之_一、而能服_レ其勞_甲

也、

○十一日、甲冑之賀、如_レ例、

○同日、蓮勝寺獻_ニ神酒・棗盛_一、

○同日、本源寺軍陣・温座祈念、如_レ例、

○同日、在郷諸寺献上、如_レ例、

○同日、的始、名代家老上妻才次郎宗敏、射手一

番西村善太郎、二番上妻彌七左衛門、三番羽生惣太郎、
番河内百介、大牟礼良太郎、八坂多平太

○同日、官命造士館・演武館・神農堂火消、

○十四日、與三米壹斛於洲之崎浦人、賞三去冬解二
鯨於華里濱也、

○十五日、上妻雲角初謁見、獻征矢、

○十六日、與三米二斗於飛船船長大木嘉太郎及水
梢、以西不過二七日二而來之往本府甲也、

○十七日、桮間仲左衛門直之・上妻太代(トヤ)・平山佐

一郎友直・羽生仙藏能通為二組頭、笹河九兵衛
納殿役人、

○二十日、與二俸田于榎本新太郎・中西之表嘉右衛
門、以地新太郎學二木工・嘉右衛門學二鋸工、

各有テ所レ能也、

○官命レ革二家政、事開于左、

○四一六 申渡書

此度所帶方難渋之趣被聞召上、當分之振合ニ而
者、御軍役等相勸候儀調兼、別而領地海邊之事候

付、平日防禦之手當者勿論、御領内海岸其外江不
時出張被仰付候而茂相勸候様無之而難叶段、御
内沙汰被為在、就而者笑左衛門殿御役、被掛置、
所帶方等致改革旨被仰渡、重畳難有次第候、然者
永代連綿之家筋、殊更格別之領地を茂被下置、公
務届兼候様ニ而者、甚以面目ニも相掛り、心痛不
少次第候、依之手元入費省略を初藏方失費被取縮
向等、掛御役、江相頼、屹与趣法相立候様、此上
役、尽吟味、島元產物増方之儀共得差圖、近年中
御趣意相貫候様取計申付候、

正月

役人中江

○四一七 改革方掛種子島加次右衛門外三

名連署達書

彈正様御所帶向御難渋之段被 聞召上、此度御内
沙汰御承知之趣者、御別帛を以被仰渡通ニ候、然
者御先代より過分御藏方借財差屯、近来大坂御借

入銀も大分之事候付、今通ニ而者年々利拂等ニ被
追、御立行之期不相見得候處、此節御改革 被仰
渡候付、差當御當地御借入之向ニ都而一往御返弁
御斷之儀、并ニ御家中給地半高三ヶ年差上之趣法
相立申上趣有之候處、其通取計候様被 仰渡、依
之彈正様御手元御仕新御取縮之儀を初、御蔵方拂
銀等格別之御取縮ニ相成候訳者、別冊帳面相見得
候通ニ候、右躰向々之御借財御斷、且者給地半高
御引上之儀共、誠ニ不容易之儀ながら御勤事ニ者
難被相替訳合ニ付、無餘儀御趣法被相立候御事ニ
候、於此上而者各屹与致精勤、産物増方之吟味者
勿論、勸農等無懈怠教導、近年中御趣法相立候様
可被取計儀候、委細者前田十九郎江被仰付越候
間、承知可有之候、以上、

御改革方掛

新納熊五郎

申
正月

松岡十太夫

丸田泰蔵

種子嶋加次右衛門

種子嶋

役人中

○知覽才兵衛行修為「改革方掛」、

○以「美座源助時貞」列「于物奉行格」、而兼「改革方

掛、

○官改「正祿田之制」、因有「訟」于 官、開「于

左、

○四一八 種子島久珍口上覺

口上覺

私持高尨萬千八百六拾石八斗九升七合尨勺四才之
内、種子嶋高尨萬六拾五石八升式合六勺六才、諸
郷高千七百九拾五石八斗尨升四合四勺八才御座候
處、此節石前之一旦餘人江賣渡置候株銀高式千石
已上候得者、受返候儀遠慮可仕旨被仰渡承知仕
候、然處諸郷高之内借銀返弁之方ニ遣置候株有

之、受返候儀遠慮仕苦候得共、右諸郷高之儀ハ先祖之歟功ニ依被下置、又者享保年中御檢地之節、種子嶋高位劣引入高返地として被下置候高三而、旁由緒茂有之候間、此節都而受返候様仕度、殊更種子嶋之儀者遠海懸隔、数日通船難計時節も有之、何れ諸郷高不致所持候而者、年貢米差登せ候儀相滞候節、救米差下し候儀も不相叶、非常之備届兼候間、右之訳を以、是迄之通名前高受返致所持候様、御免被仰付度奉願候御内意を以申上候間、此段御申上可被下候、以上、

種子嶋彈正久珍

正月

- 二月四日、赦_二遠藤清五郎_一櫛寺入、淨光寺
- 六日、山崎筑右衛門病死、其族人告_レ之櫛寺入、本善寺
- 十二日、日高仙太夫為_二馬役_一職如、原、以_レ久為_二物奉行所筆吏_一而有_レ勞也、

○十五日、知覽龜十郎元服、家老前田十九郎宗恭

代_レ吾加冠、上妻七兵衛宗徳理_レ髮、命_二俗子覺之丞_一、獻_レ物如_レ例、

○同日、知覽友次郎始謁見、獻_レ征矢_一、

○廿九日、嚮聞人所_二漂来_一西之村立石之舟有_地死人_天、官、則命揭_二示其年紀於埋骸之處_一、去_二三十日_一而不_レ知_二其本實_一、則亦聞_レ之、

○按_二察一向宗_一聞_二于官_一、

○官定_二賣買祿田價直_一、如_レ左、

○四一九 調所広郷・島津久宝連署達書写

寫

給地高之儀者、全躰御高之内を給地江被差分置、御國役御軍賦之根本ニ候得者、別而重き所ニ候處、一統士風相衰、自己之物之様差心得候儀ニ成立、甚取違之事候段者追々被仰渡置候通ニ候、然處豪富之面々、是迄兼併之高一時ニ賣拂、直段致下落候を仕合存、法外下料之直成を以買入、又者連々高直ニ賣渡置候高主より茂同様之應對いた

し、或者重代之武器迄茂沽却いたし、高相求候振
合ニ成立、大切成御高之訳無之筋ニ相當候趣共被
聞召上、土風ニも相拘、甚如何之事情得共、此節
者別段不被遊、御沙汰候付、致吟味相當之直成を
以御高之訳相立候様可被取計旨御内沙汰被為

在、誠ニ以恐入次第ニ候、屹与旧冬十一月十五日
御改正被、仰出以後、高賣買いたし候分者、壹石
ニ付式拾貫文ニ而可致引結候、若右直段ニ而増代
錢相渡候儀不相成者者、入付置候代錢丈者石数相
受取儀者其通ニ而、来月十日限屹与致引結、其日
限残高等帳面ニ相認、本高主買主双方より届可申
出候、左候而追而何分可申渡候間、其内右高賣拂
候儀差留候、此旨向、江不洩様早々可致通達候、

二月

(島津久宝)
豊後

(調所広郷)
笑左衛門

(本文書ハ「旧記雜錄追録ハ」一三七号文書ト同一文書ナルベシ)

○三月三日、使西村九郎時起讀法章於廣間、

○同日、與文餅於三箇寺、慈遠寺献同品、

○同日、賀瀬引、西之表庄官献酒肴、

○同日、宮浦小太郎始謁見、献征矢、

○七日、與俸田於鮫島金次郎、以丙學土水工二而
稱其職也、

○十四日夜、上中村足輕河野惣太郎父之隱宅火、父
焼死、締方横目・吾横目失姓・監三察之、聞于
官、

○十五日、與米一石犬場浦人、以四嚮有勞于
解江豚也、

○同日、與米二斗増田村喜十太及市藏、以告
獲江豚也、

○同日、嚮高崎孫兵衛負債於府庫、至是家屬
請納其祿田以償之、許之、

○十七日、與篠卷一段於莖永村之百姓平吉者母、
賞人嚮當痘大行人皆避之、平吉母獨不恐之
使感其子患之也、

○十九日夜、坂井村上妻善平宅火、焼宗門手札、

締方横目及吾横目名失姓監之、聞于官、

○廿二日、以改革家政命、使用人一人更番役

本府邸而監出納、曰之見聞役、

○廿八日、浴櫻島温湯、女波津亦隨焉、

○納三狩所獲鹿皮一枚於官、

○點檢病夫・丁夫・有職者等告于官、

○官以改正給地命曲暢我祿田御國、以聞之乃

條陳而上焉、事開于左、

○四二〇 給地高改正二付種子島屋敷前田

宗恭届書

種子屋敷

高三百五石五斗八升三合五勺五才

内

大崎横瀬村

一三拾九石八升壹合貳勺五才 上之門

一三拾九石五斗六升八合九勺六才 飯水門

一貳拾九石四斗九升貳合九勺貳才 堀之内門

合高百八石壹斗四升三合壹勺三才

代錢貳千八百拾壹貫七百貳拾壹文

壹石二付 貳拾六貫文替

右、藤井綴喜様御方江寛政六年寅九月借銀

返弁方ニ差遣置申候得共、未受返不申株ニ

御座候、

一貳拾九石六斗五升四合三勺八才 新原之門

一壹石四斗八升貳合壹勺七才 寺園門

合高三拾壹石壹斗三升六合五勺五才

代錢八百九貫五百四拾八文

壹石

貳拾六貫文替

右、武五郎右衛門様江寛政六年寅九月前条

同断ニ付遣置申候得共、未取返不申株ニ御

座候、

一貳拾九石六斗六升四勺貳才 久森門

一貳拾八石八斗八升四合三勺八才上諸木根門

一拾九石四斗六升六合三勺四才 新穂園門

合高七拾八石壹升壹合壹勺四才

代錢貳千貳拾八貫貳百八拾六文

壱石

式拾六貫文替

右、谷村九郎右衛門様方江寛政六年寅九月

借銀返弁之方ニ遣置申候得共、此節御改正

ニ付壱石式拾貫文ニ而取返申候株御座候、

一 壱石九斗九升四合七勺九才

萬浮面之内
浮面

一 式拾七石九斗七升式合六勺壱才 千歲門

一 式拾九石六斗七合八才 下之門

合高五拾九石五斗七升四合四勺八才

代銀千五百四拾八貫九百三拾五文

壱石

式拾六貫文替

右、土師孫右衛門様方江寛政六年寅九月前

条同断ニ付遣置申候得共、此節御改正ニ付

壱石式拾貫文替ニ而取返申候株ニ御座候、

一 式拾八石七斗壱升八合式勺九才 東平之門

代錢八百四貫百拾式文

壱石

式拾八貫文替

右、北条織部様方江天保酉八月前条同断付

遣置申候得共、此節御改正ニ付壱石式拾貫

文ニ而取返申候株ニ御座候、

右、主家先祖對馬守頼時受 氏久公命、貞

治五年四月十六日肥後國日之岡ニ而菊池と

合戦之節、頼時并家臣上妻九郎左衛門家信

・下野小藤太秀遠等戦死仕候付、右為勲功

之賞、頼時子左近將監清時江薩州川内日破

田八十町拜領被仰付置、其後所々御繰替ニ

而、右横瀬村到當代領知被致來申候、

一 高八拾四石五斗壱升八合七勺六才

串良岡崎村

下飯屋、鋪

内

式拾石八斗六升六合三勺五才

同村同所

温水屋敷

式拾石八斗九升八才

合高四拾壹石七斗五升八合四勺三才

代錢千四貫貳百貳文

壹石

貳拾四貫文替

右、川南仁左衛門様方江天保九年戌七月前
条同断ニ付遣置申候得共、未取返不申株ニ
御座候、

一 九石五斗六升三合貳勺五才

坂元村

萬浮面之内

代錢三百五拾貫文

壹石

三拾六貫八百貳拾六文替

右、情松與八郎様方江天保十四年卯十二月
賣渡置申候得共、未取返不申株ニ御座候、

押紐本文先祖藏人久時代、元禄九年子四

月居宅及類焼候節、屋敷一ヶ所ニ而逃場

無之候付、御見合を以下屋敷被仰度奉

願趣有之、同十一年寅十二月、中神内藏

之丞様御取次を以願之通御免被仰渡、軍

功ニ而被下置候持高之内を以繰替之上、

下屋敷ニ被成下候場所ニ而御座候、

申良下小原村

白水門

一 三拾三石五斗九升七合八才

代錢八百五貫八百四拾文

壹石ニ付貳拾四貫文替

右、平田伊兵衛様方江寛政六年寅九月借銀
返弁之方ニ遣置申候得共、此節御改正ニ付

壹石貳拾貫文替ニ而取返申候株ニ御座候、

右主家、先祖武藏守忠時、伊東御合戰之節

為戰功之賞、永正八年十二月 忠治公より

新地百町指宿之郡・谷山之郡・曾於郡之内

拝領被仰付置、其後所、御繰替ニ而、右岡

崎村・下小原村其外所、到當代領知被致來

申候、

一 高五拾七石八斗貳升五合九勺三才

申良川東村

内 貳拾貳石五升

森田門

代錢五百貳拾九貫貳百文

壹石貳拾四貫文替

右、川南仁左衛門様方江天保戌七月借銀返
弁方遣置申候得共、未取返不申株ニ御座
候、

一貳拾貳石五斗

下村門

一拾三石貳斗七升五合九勺三才

西蔵門

合高三拾五石七斗七升五合九勺三才

代錢千九百六拾七貫六百七拾六文

右、文化三年寅十月島名勘左衛門様方江借
銀返弁之方ニ差遣置申候而、諸證文等之
儀、彼方親類市來喜平太様當を以差遣呉候
様承り候付、其通取計候筋相見得申候、其
儀島名勘左衛門様より寺尾庄兵衛様江被差
遣置、未取返不申株ニ御座候、

一高六石九斗貳合九才

末吉諏訪方村

仕明抱地

右者、北條織部様方江天保四年巳二月為合

力遣置候處、彼方より借銀返弁之方ニ本田
出羽守様方江被遣置、取返シニ不及株ニ御
座候、

右者、新納縫殿様領分ニ而御坐候處、松壽
院殿江御銀拾五貫目拝領被 仰付、右を以
高七拾石程相求度奉願、御免被仰付置候
付、縫殿様御方より永代買入、天保四年巳
二月より領知被致來候高ニ而御坐候、

右、種子嶋彈正殿持高之内借銀返弁之方ニ
遣置候年月、且右高先祖ノ代何様之勲功之
訳ニ而拝領被仰付候哉、委細申出候様被仰
渡趣奉承知候、仍而此段申上候、以上、

種子屋敷(宗憲)
前田十九郎

申
三月

○四二二 鹿兒島役所覚

覚

差出張巻冊

右者、旧冬十一月十五日より給地高御改正被仰渡、双方脇方江差遣居候株、又者取返候株、委細申出候様被仰渡趣有之、猶又御勲功之高等細事申出候様被仰渡、去ル十七日迄茂右帳差上候、右付而者何篇宜敷筋とも二而も有之間敷哉与存居折柄、正月八日迄三請返不相成株、受返候儀御免不相成候段被仰渡、誠ニ以残念至極此事御坐候、左候而未取返不相成株、先方御勝手次第御取計可被成旨、双方江引結仕申候、折角者御勲功之御高、是非共御直御願通御免被仰付かしと精々奉訴願、其上掛御役々様并御用頼御世話被成下候得共、其詮無之、御互ニ絶言語為申事御坐候、右ニ付而者同様相働申候而も相叶申儀無御坐候故、為御心得此段御掛合申達候、以上、

三月廿八日

種子島

御役所

鹿見島

御役所

○國老調所笑左衛門使三種子嶋加次右衛門激三勸我諸有司一、以修三飾庶政一、原書記于左一、

○四二二 申渡書

種子嶋役々之儀、是迄勤方不心掛ニ而、何篇互ニ押譲り、始終緩怠而已相構候習俗故、長々御家跡中辻も全所帯方不立直、却而追々過分之借財相屯、近年別而御藏方御差迫り相成候付、今般御内沙汰被為、在、改革御手を被付候ニ付而者、田畠手入等第一之事候處、未右等之儀瑣細ニ手相付兼候向相見得、如何之到候条、屹与當仕付より田地手入拵行届様、專百姓共江致教諭、只管耕作差はまり、凶年之心得を以飢渴相凌候様無之而者、當分之御藏方ニ而者御取救難被調候付、銘々其心得有之候様可致持方旨、夫々掛役より申付候様、勿論役々儀者追々被仰渡御趣意厚汲受、此後緩怠之習俗相改、一統勵合致精勤、近年中御所帯方御立直相成候様可被取計旨、猶又拙者より各江相達

置候様、笑左衛門殿より分而致承知候、

○四月四日、觀諸士武技於廣間之庭、演畢與鹿皮各一于師家、以為器用且賞其厲精、

○六日、與米二石于宮浦藤九郎、以數役於覺邸也、

○同日、以羽生助市為二世郷土、與銀一枚于河野喜太郎、以助市自其父二世為我小奴、喜太郎為婦人小奴、奉仕多年、有勞而今各解職也、

○八日、與米二斗于飛船八幡丸船長及水梢、以下不出三七日而往環于山川也、

○同日、修大觀院殿日喜大居士四十九回忌于本源寺、我名代西村甚五太夫時員、婦人名代西村源左衛門時民、孺人名代西村甚五右衛門時哉、久美名代西村休八時乘、波津名代河内六郎時然等時、梅香院名代西村直之進時義、法事奉行西村十左衛門時弘・渡邊早右衛門兼重、靈膳奉行肥後渡

前・羽生仙藏、諸式如例、

○十日、女子計生

○十五日、以異船入津之候、國老傳長崎奉行之令、

○十八日、國老傳幕府之令曰、前月十五日改元嘉永、

○十九日、宰相公遊磯之館路責臨濱崎邸、種子島加治右衛門・種子嶋休藏・室老一人奉迎於門外、孺人拜迎於書院御輿臺側障内、公就坐、重富公子周防殿侍坐、蓮豆陳列、入夜而

公帰、明日使年寄謝責臨之辱、

○二十七日、嚮室老前田十九郎宗恭・美座十郎右衛門時敏・岩河十右衛門時行・平山新兵衛友益、物奉行知覽才兵衛行修、各請納其俸田以救府庫之空乏、許之、然當役于本藩之日、則與之如故、

○同日、使古田村新助・矢之助・正太郎・加次

郎、住吉村長野善太郎納_二科錢各一貫文_一、以下新助等托_二善太郎_一伐_中禁木_上也、

○同日、古田村榎本八次郎・同新四郎寺_三入于本成寺_二一七日、坐_下其山役而不知_三新助等伐_二禁木_一也、

○二十九日、與_二硝藥及鉛于住吉村松下五作_一、賞_レ獻_下其所_二銃射_一之驚_上也、

○同日、大山五次助寺_三入于本因寺_一一年、坐_レ姦_二松下仲兵衛妻_一、

○同日、妹里_{孺人有所思改邑為里}嫁_二伊勢雅樂_一、

○大村郷土市來直之助以_レ奉_二一向宗_一見_レ放來、

○五月二日、現和村之市藏通_三于同村周次郎女袈婆_一、相共縊死、締方横目税所平右衛門・仁禮源之進、吾横目西村直之進時義・種子島友之助政教檢之聞_三于官_一、

○五日、與_二粽各二束于三箇寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○同日、以_二鮫嶋孫右衛門_一為_二留主居_一、於_レ是孫右衛門請_下留_三役于本府邸_一之日、則賣_二其祿地於府

庫_一以充_中旅資_上、不_レ許、而特與_二米三斛_一以資_レ之、

○十日、加_二與俸田于現和村圍人今鞍權次郎_一、賞_下向令_レ急_二役本藩_一即奉_レ命、

○同日、平山村横目上妻勇右衛門寺_三入于本妙寺_一二七日、罪_レ命_下頃日坂井村有_二患_レ痘者_一、使_二勇右衛門_一拉_二其村小兒輩_一、至_レ彼可_レ使_レ染_レ之、而猶豫拒_レ之也、

○十一日、嚮鮫島矢七寺_三入于淨光寺_一五七日、今過_レ期赦_レ之、以_二其病_一也、

○十四日、赦_二榎本八次_一_{孺寺入于本成寺}、

○同日、以_二家老前田十九郎宗恭_一為_二定府_一、而止_二春秋更番者_一、

○十九日、莖永村寶滿宮拜殿火、燒_二失緣記_一、

○二十日、深川傳之進・上中之村金之進各獻_二砂糖_一、莖永村羽生文次郎獻_二錢八貫文_一、以資_二三府庫空乏_一、故嘉_二其志_一以與_二棉布各一端_一、

○同日、寬之助公子捐_二館舍_一_{追号靈光院天寶、惠明大禪童子}、禁_二

殺生・音楽一曰、

○廿四日、使遠藤莊兵衛為勸農方掛、命曰、夫於改革家政、以農為先務、不可緩之也、嚮日高杉右衛門・西村藏多亦受命督之、宜與俱巡行島中、勿使庶民懈怠也、

○二十六日、以府庫空耗、有司請俸田稔田及寺領神領並位牌所附除之各納其半、以濟之、許之、自本年以往三年為限、

○同日、樋口十之助寺入於隆興寺二二七日、以下嚮於本藩舟中對役婦之土、而言辭不遜也、

○同日、使大木嘉太郎納科錢一貫文、以下嚮航於覺府之日、載無券物且漫填寫送狀上也、

○四二三 調所広郷・末川久平連署達書寫

寫

家柄之面々、一所之地并持切在之先祖代依勲功御恩賞者、御續柄格別之訳合を以為被下置事候得共、到子孫右様難有 御趣意奉汲受、如何程困窮

之形行候共、右高之儀者容易餘人江賣拂、又者借銀引當等被差遣候儀者有之間敷事候處、近來段々猥りニ被致沽却候向數多有之、此節給地高御改正ニ付而者、一所持高餘人江賣渡候株、其外持高を以繰替被仰付、持切在之儀茂右進御取訳被仰付置候得共、格別之由緒不顧餘人江賣渡、又者引當等被差出候上者、其節限り由緒之次第茂無論相成候訳合ニ而、跡により由緒等申立候而者、別而自由ケ間敷儀候間、向後者借銀利分等之方、内々持高所務米差出候儀者無之筈候得共、萬一拝借引當等差上置、以後何様由緒被申立、御法之増高相加、外高を以繰替之願申出候共、一切御取揚不被仰付候、此旨向江不洩様可致通達候、

末川久平

近江

五月

(調所広郷) 笑左衛門

○官廢 異國船掛及御軍師、別置御軍役方掛、

○六月三日、赦平山村横目上妻勇右衛門講寺入子、本妙寺

○同日、山下寬齋寺入于妙泰寺二二七日、坐地本源寺僧失足墮於岸一殆死、乞治寬齋、寬齋以有レ事不_レ施_二治療_一也、

○七日、與_二棉布一端於油久村村長羽生金助_一、賞_二新以_レ瓦改_二葺麻舎_一之經費許多、而不_レ賦之于民_也、

○同日、與_二青銅百疋於下西之太兵衛_一、賞_二其能力_也、

○九日、赦_二樋口十之助_一權寺入于隆興寺、

○同日、蟻泊浦漁者喜_二太・庄太郎・休五郎科仕_一二七日、以_地馬毛島往還之日、不_レ使_二締方横目_一檢_二其舟_上也、

○同日、責_二訶吉良六兵衛_一、以_地權為_二普請方下吏_一而役_二于本藩_一、頃日檢_二其簿_一所_レ記涉_二不正_一也、

○十日、將軍家夫人薨去、

○十三日、先_レ是日高勳太郎借_二府庫金_三圓_一、既而有_レ故命役_二於麿邸_一、乃以_二其所_レ借金_一與_レ之、以

資_二旅費_一、

○同日、與_二米二斗于飛船船長直次、五斗于水主七人_一、以_レ先_レ是有_レ故使_レ留_二滯于本藩_一也、

○十八日、赦_二山下寬齋_一權寺入于妙泰寺、

○十九日、八板榮右衛門寺入于本成寺二二七日、前年航_二於瀬戸内_一也、帰路過_二肥後_一載_二本藩商夫森永某之菽_一、而到_二于本藩_一、不_レ告_レ某而竊_二之_一、至_レ此事覺_レ故及_レ此、

○同日、責_二訶代官所下吏中村善五兵衛・美坐六右衛門_一、以_二其簿所_レ記涉_二不正_一也、

○二十七日、日高杉右衛門為_二船奉行_一、下村十郎近習見習、中田宇平太納殿役人、

○二十八日、使_二用人西村甚五右衛門_一、普請奉行上妻源左衛門、山奉行羽生半左衛門、西村員右衛門、馬役日高勇太郎、各與_二聞勝手方之事_一、

○二十九日、夏越之式、如_レ例、

○官定_二軍賦_一、如_レ左、

〇四二四 藩軍賦定写

寫

高千石并五百石御軍賦

高千石之御軍賦

一乘馬

一中間

一馬印

一同持

一旗

一旗持

一甲持

一用具箱

一同持夫

一同具足箱

一同持夫

一家来

一手鎗

一同持夫

式疋

四人

壹本

式人

壹本

壹人

壹人

式荷

壹人

壹荷

壹人

七人

壹本

壹人

一弓臺

一同持夫

合上下式拾壹人

陳中三拾日自飯米

高五百石之御軍賦

一乘馬

一中間

一馬印

一同持

一旗

一旗持

一用具箱

一同持

一家来

一手鎗

一同持

合上下拾壹人

陳中三拾日自飯米

壹肩

壹人

壹疋

式人

壹本

壹人

壹本

壹人

壹荷

壹人

四人

壹本

壹人

○四二五 調所広郷・末川久平連署申渡書

寄合以上之儀者大身分と相唱、別而重き家格之事候付、寄合者高千石、寄合并者高五百石之御軍賦被定置、分地別立等其通被仰付事ニ候、殊ニ地頭職被仰付置候面々者、地頭所人数召列、一方之大將も可被仰付身柄ニ候得者、兼而其心得を以萬端心掛、律儀相嗜、隊下之諸士致信服候様無之候而者不相叶勿論、軍務之儀者一日之費用茂莫大ニ相及、従古来御作法通、右面々者自飯之兵糧用金等用意いたし置、第一家来等急変之節不事欠様致扶持、武具一切用具可相備置事候處、先年より毎度被仰渡置候通、大身中之風俗一躰相変、左様之心掛無之、適弓馬炮等取扱候而も実場之心付無之、平常出入之者共も過半其身之存慮ニ随ひ候者勝相集、専勝負事取企、及大酒、或ハ遊藝等翫ひ、質素節儉之取締無之候故、連々所帯方及衰微、家格之以功劳被下置候持高、又者一所同前之地迄追々

致沽却、領内家来・百姓・浦人等江臨時之出銀等申付候時宜ニも相及、古来致撫育候恩顧之家来迄も無據相離、いつれも別而恥辱之事候間、是以心付茂無之哉ニ相聞得、段々無高小高之面々有之、到而不埒之事ニ候、乍然御軍役ニ付而者、家格相當不被仰付候而不叶事ニ而、寄合之儀者千石、寄合并者五百石御軍賦、別冊之通ニ候条、弥御賦通相動候可相整哉、何分可申出旨被 仰出候条、来廿五日限何分申出候様可申渡候、

六月

末川久平
近江
調所広郷
笑左衛門

○四二六 調所広郷・末川久平連署申渡書

御城下・諸郷・私領共、此節御先代様御備組を以惣鉄炮ニ被仰付候間、御軍役相動候面々其通奉承知、鉄炮可致用意候、左候而當分之通玉目好次第不同有之候而者、玉薬御渡方別而致混雜事候間、以来軍役筒者四匁・六匁・八

勿・拾刃限ニ被仰付候ニ付、新筒張方者勿論持合之筒も右玉目ニ合置、御軍役可相動候、左候而私領之儀者玉目等領主より可被相渡事候条、不及混雜様可致手當置候、此旨表方江致通達、奥掛御勝手方江も相達、諸郷・私領江も可申渡候、

但

弓・鎗・長刀等之間得道具持越度面々者、其段願出候ハ、吟味之上何分可申渡候、乍然鉄炮之儀者可致用意儀勿論候、

(未川久平)

近江

六月

(調所公範)
笑左衛門

○七月七日、奉ニ勇猛公戎服於廣間、家老上妻才

次郎宗敏拜レ之、

○八日、名代家老上妻才次郎宗敏詣ニ大會寺、祭ニ

先祖・宗祖及戰死之靈、

○九日、赦ニ八板栄右衛門、

○十一日、赦ニ遠藤宇兵衛、

○十三日、創ニ建戦死招魂塔於本源寺、

○同日、名代家老上妻小左衛門定直詣ニ慈遠寺、祭ニ先祖及戰死之靈、

○同日、先月十日 御臺所薨、祭ニ作事ニ五日、祭ニ音樂ニ十日、

○同日、先月八日田安一位薨、祭ニ作事及音樂ニ七日、

○十四日、名代家老前田十九郎宗恭詣ニ本源寺、祭ニ宗祖、

○十六日、名代家老美坐十郎右衛門時敏詣ニ本源寺、祭ニ先祖及戰死之靈、

○同日、以ニ知覽才兵衛ニ為ニ役人格、與ニ俸田十五石所、

○二十五日、唐物横目南郷覺太郎病歸、

○同日、與ニ米ニ斗于飛船船長長吉及水梢、賞ニ六日而往ニ返於本藩也、

○二十九日、與ニ俸田五斗所于匠工阿世知新五郎、同日加ニ與俸田二斗所于兵員方足輕柳田清之進、

各一斗所于牧瀬善五右衛門・日高甚七、以ニ善ニ

捕手也、

○官使濱田芳太郎納罰錢三貫文、以可嚮為日典丸船長一運糖於大坂之時、竊鬻之茯苓及莪荒於玉屋某也、

○八月朔日、慈遠寺・大會寺獻中紙各二束、又與同品于二寺、

○同日、赦八板柴右衛門令出寺、禁其旅行如故、

○二日、安城村馬追、物奉行羽生太左衛門能俊、馬役前田平八・美坐善兵衛、

○八日、唐物横目今村金次、締方横目東郷勇助・福田助七來、

○九日、與金三百疋・染布一反于下村平太、金二百疋染布一反于川内十助、金百疋于大山小太郎、青銅各百疋于有馬喜兵衛・田上助十郎・河口周藏、俸田一斛所于伊地知吉次郎、以可先是使下村要二製副甲冑、此曹各助之其工事也、

○十二日、以下村要二世列于小頭為馬役、

且與金千五百疋、賞製我副甲冑而獻之也、

○同日、家老西村基五太夫致仕、

○同日、覺邸代官所人足此太郎與本藩豎馬場之長助、竊偷府庫之金百二十拾七兩、即聞之于官、

○十三日、下三洲之崎之辨次郎于獄三十六月、而後禁旅行三十六月、濱津脇之藤太郎・熊野之市五郎・島間之休次郎・濱田之萬吉又囚于獄三十三月、増田之諸吉・島間之傳吉納罰錢各一貫文、責訶松下休五郎及八板平藏、以辨次郎・藤太郎・市五郎・休次郎先年為永徳丸水梢、以下所載於彼之米上至本藩、竊鬻之各分其價也、諸吉・傳吉雖不與焉而受其價、以故速坐、休五郎為交代船永徳丸船長、平藏為吉徳丸船長、而各不覺其事、故連坐焉、

○同日、中郡・下郡捕二歲駒、物奉行種子島五

郎左衛門時義、馬役日高勇太郎・東嘉助、

○十五日、古田村蓮勝寺獻_二神酒・粟盛_一、

○十六日、與_二棒田各三斗六升五合一勺七才所於匠

工牧瀬善之助・笹河矢吉・牧瀬新助・武田市助、

又五斗所於新原平次、七斗八升九合余所於西村喜

十郎、八升二合余所於中西之鋸工六次郎_一、以_三

各能稱_二其職_一也、

○十八日、官使_三長崎助左衛門侍_三于吾_一、

○二十二日、唐物方横目今村金次傳_三命于吾家老及

横目_一、使_レ嚴_二莪荒奸闌之禁_一、

○同日、下中之村百姓彦六・平山村百姓安市下_レ獄

百日、以下_レ嚮於_二覺邸_一竊為_レ盜也、

○二十六日、以_三各輪_二役覺府_一、與_二棒田拾斛所於

西村蔵多、七斛五斗於日高杉右衛門・下村十郎・

上妻藤八・中田宇平多・美坐平兵衛_一、而其租

準_二作人分地_一、以_三方今改_二革故政_一也、

○二十八日、岩川十蔵祿田九石七斗八升五合余所、

宮浦半之丞三石五斗三升三合余所、下村直之丞二

石九升八合余所、羽生岡右衛門九斗七升八合余

所、下村源之丞三升二合余所、西村瑞節七斗四升

八合余所、古市甚次郎一斗一升八合余所、一湊六

郎兵衛五斗五升四合余所、八板矢右衛門四石六斗

三升三合余所、日高伊右衛門九斗八升二合余所、

河口多十六斗七升一合余所、緒方助右衛門一斗二

升二合余所、牧彌平左衛門六斗八升六合余所、各

納之以價_二舊價_一、每石價三十貫、西村城助五斗一升九合余

所、上妻市助二石八斗八升余所_{每石價五十貫文}、

○二十九日、下中之村・納官村・上里村以_二年不_レ

登減_レ租、有_レ差、

○吉徳丸船長池村惣太郎寺_三入于本蓮寺_二二七日、

同船水手蟹泊之喜三次納_二科錢一貫文_一、以_三密

蔵_二人所_レ托之木耳於船底_一也、

○責_二訶昇全院_一先是住清淨寺者也、又令_二伊關村之茂次・仲太

郎、中西之表之喜三太、安城村之周右衛門・新吉

妹、國上村之助七・九郎太、上西之表之庄次郎、

増田村之善助_一、各納_二科炭三窶_一、以下_レ托_二木耳於

惣太郎・喜三太^一而請鬻^レ之也、

○以^二家老美坐十郎右衛門時敏・物奉行上妻七兵衛宗徳^一為^二軍役方掛^一、

○九月二日、縮方横目仁礼源之進・税所平右衛門歸、

○七日、以^二河内茂助^一為^二小姓^一、

○同日、與^二俸田一斗四合余所於鍛治鮫島市十郎、四斗所於木工柳田休^二、以^三各善^一其業^一也、

○同日、以^二羽生太左衛門能俊^一為^二家老^一、種子島友右衛門時大物奉行、

○九日、使^二渡邊早右衛門兼重讀^一法令章、

○十五日、徳永小矢太禄田七石五斗九升余所^{每石價三十貫}、上妻新太夫四石八斗二升二合余所、仕明高八斗三升三合余所、下村十藏・羽生勇齋各一合所、

吉良市次郎三斗六升九合余所、下村貞之介五斗所、上妻源兵衛一合所、河野休庵二石九斗五升八

合余所、上妻良齋七斗六升四合余所、各納^レ之以

償^レ債^一每石價五
十貫文

○復與^二俸銀於役^一麿邸^一者^一、事記于左、

○四二七 前田宗恭外二名連署伺書

一錢七拾貳貫文

右、役人壹ヶ年給銀分、一日壹人貳百文、

一同六拾三貫文

右、物奉行壹人壹ヶ年給銀分、一日壹人百七

拾文、

一同三百貳拾四貫文

右、御側御用人壹人・用人壹人・留主居壹人

・近習役壹人・納殿役人兩人、合六人壹ヶ年

給銀分、壹人二五拾四貫文、一日壹人百四拾

八文、

一同百八拾貫文

右、番頭壹人・作事奉行壹人・馬役壹人・祐

筆壹人、合四人給銀分、壹人壹ヶ年四拾五貫

文、一日壹人百貳拾四文、

一同三百六拾貫文

右、納殿四人・番所詰四人・作事奉行方書役
老人・御祈念僧老人、合拾人、老人老ケ年三
拾六貫文、一日老人二百文、

一同百八貫文

右、定府小者三人・代官所手代老人、合四人
老ケ年給銀、老人老ケ年式拾七貫文、一日老
人二七拾弍文、

一同百五拾六貫文

右、外城納殿兩人・番所詰兩人・足輕九人、
合拾三人老ケ年給銀分、老人老ケ年拾弍式貫
文、一日老人三拾弍文、

一同九拾六貫文

右、役所書役老人・物奉行方書役老人、合兩
人老ケ年給銀分、老人老ケ年四拾八貫文、一
日老人百三拾弍文、

一同弍百拾貫文

右、小姓兩人・茶道老人・代官所書役兩人、
合五人老ケ年給銀分、老人老ケ年四拾三貫

文、一日老人百拾六文、
合千六百四拾弍貫文

右、此節御改革ニ付三ケ年中給地半高差上申
候得者、給銀不被仰付而者振立之勤方調兼候
賦御坐候間、本行之通被仰付候而も有御座間
敷哉と吟味仕、此段奉伺候、以上、

(知寛行修)
才兵衛

(岩河時行)
十右衛門

(前田宗泰)
十九郎

○四二八 藩達書

本府詰役之儀、古来より被下方等夫、御規定有
之事情得共、近年御所帯方極御難渋ニ付、御公務
御軍役等茂難被為整段被 聞召上、格別之御取訳
を以御改革被仰出、是迄御借財迄も一往御断ニ相
成候儀者、第一外方江相拘候儀ニ付、尚又

上様方兼而御身邊の御事迄も御省略被召加、是非
御年限中ニ者、屹与御立直不被為在候而者不被為

叶 思召_二候、右様之御時節候得者、御難波之儀一統奉汲受、先般役料高皆同給地高半地差出候儀ニ付而者、猶又鹿府諸役、窮難差見得候儀、至極御氣之毒被 思召上、別紙之通格別之御仁恵を以夫、應役格別段被成下候段被 仰出、御仁政之程誠ニ不容易之御事、一統難有可被奉存候、此上者自身持前之勤方者勿論、何篇心掛等閑之儀共無之様一涯忠勤を可相勵候、乍此上心得違者無之筈候得共、若取違於有之者吃与可及沙汰候条、可申渡旨於 御前御直ニ奉承知、難有奉恐入候、依之一統申渡方之儀者、是迄御規格之通可取計候、

○九月廿二日、與_二染布一反於牧川之有留早太_一、賞_三連歲獻_二餅米一斗於母夫人_一也、

○晦日、以_二西村甚五右衛門一再為_二横目_一櫛有病

○檢_三病夫_一・丁夫及在職者_二聞_三于_二官_一、

○以_二美坐源助_一為_二物奉行寄役_一、命定_三府于覺邸_一、

○十月五日、令_二現和村之甚吉_一納_三科炭拾筈_一以下嚮

剪伐_中下西之某者_{名失姓}所_レ植之甘蔗_上也、

○十日、與_二俵田三斗一升五合餘所于鐵匠宇多津直助_一、以_レ練_二習其業_一也、

○廿六日、赦_二平山村之安市_一・下中之村之彦六_一令_レ出_レ獄、

○官命嚴_二軍制_一、於_レ是使_レ知覽才兵衛行修・美坐源助時貞・美坐三十郎時資從_二軍賦役于重富_一・帖佐・加治木_一、習_レ陣法_甲、既而使_三才兵衛_一・三十郎歸_レ鄉訓_二練我士_一、

○官使_三藩士肥後五左衛門管_二我士卒_一、

○國老末川近江傳_レ命、使_三目附肥後五左衛門_一・檢見崎四郎、與_二聞我軍政_一、

○十一月八日、官命練_二習銃陣_一、因大閱_二於石寺濱_一、縮方横目_{名失姓}及家老上妻小左衛門定直・美坐十郎右衛門時敏・上妻才次郎宗敏、物奉行西村源左衛門時民・前田新五兵衛宗誠、用人河内六郎時然位焉、指揮人西村休八時乘、物主西村甚五右衛門時哉・西村直之進時義・西村十左衛門時弘、

組頭野間仲左衛門直之・羽生仙藏能通・西村城介
時知・平山佐一郎友直・上妻太代宗(天)・時任平八
時喜、寄役前田平次郎宗成・平山寛藏武肅、目附
西村田代時和・上妻新藏定理、

○十六日、以「尾形吉兵衛」為「母夫人之定府納殿」、
○以「府庫空耗」下「手書」、記于左、

○四二九 申渡書

藏方難波ニ付、御軍役等相勤候儀調兼候程之事有
之、殊ニ領地海島之事候間、平日防禦之手當、其
外不時出張等被仰付候而も相勤候様無之候而難叶
段、御内沙汰被為在、就而者役々中吃与申談、
近年中其詮相見得候様可取計との趣者、先般申渡
候通ニ候、然處今般御軍賦被仰渡候付而者、猶又
出糶可相勵儀者勿論之事ニ而、御軍役之儀者兼而
被下置候高を基本被相立御賦ニ相成事ニ而、給地
高御改正被仰渡、名実無相違様相糶、領内給地相
渡置候儀も先代より軍役等相勤候ための宛行候

處、時世之變態自然風俗押移り、豪富之者共買圓
め、或高所持不相成身柄之者も内々買取居候哉ニ
相聞得、先代より之規格を相背不可然事ニ候、乍
然是迄之儀者用捨申付候条、吃与此節相改、先代
より之規格基き名実無相違様改正申付候、早竟高
之多少ニ應し軍役申付賦ニ付、第一根本相紊候而
者其儀難叶、將又勸農之儀百姓共及困窮候而者田
地手入も届兼、高之根本者勸農ニ候處、百姓共困
窮ニ相及候而者、取扱不宜處より成立候儀不少候
条、百姓共迷惑相成候廉者吃与尽吟味、根本堅固
相勤候様可取計旨肝要之事情、猶掛御役々中申
談、諸郷勸農仰渡之通御趣意ニ基遂吟味可致精勤
候、

十一月

役人中

○改革方掛新納熊五郎・松岡十大夫・長崎助左衛門
贈「書于我家老」、開「于左」、

○四三〇 改革方掛長崎助左衛門外二名連

署達書

彈正様御藏方御改革向就而者、追々被仰渡候趣各承知之通ニ候、然處御改革之儀者、藏方金錢取扱之道筋御立替迄ニ而者其詮無之事ニ候處、此節御軍役被仰渡候付、猶又思召之訳被為在、御役人中江被仰出候御書付、我々共篤与奉拜見、尚 御沙汰之趣茂奉承知候処、遂一御尤之御事難有奉存候、然者被仰出候条々、皆共當然之御事ニ而、委細岩河十右衛門・知覽才兵衛江被仰合候訳も有之、何も其通被相行候様無之候而者不相叶事候得ども、実ニ不容易之 思召立、涯々嶋許之習俗相変、屹与御趣意相貫候様、不行届候而者各方越度可有之、究竟之御時節柄、此期を取失候而者御先代様之御改革ニ引戻、御藏方茂御立直、上下各得其處候様之場ニ者到り兼可申存候間、各方御趣意深被汲受、右兩人應示談聊無怠慢屹与致精勤、役

中申談御取扱可有之候、以上、

申

十一月

御改革掛

新納熊五郎

松岡十大夫

長崎助左衛門

種子島

役人中

○按二察一向宗二聞于 官、如例、

○嚮 官命改二禄田之制一、至是使二家老岩河十右衛門時行・知覽才兵衛行修、用人渡邊早右衛門兼重・西村休八時乘・西村直之進時義、郡役西村蔵多・遠藤壯兵衛・河内熊右衛門一掌其事、

○同日、公義流人船自二屋久島一至、横目加治木善之進、締方横目東郷勇助・福田助七、我横目西村直之進時義・西村十左衛門時弘為二接待一、

○五日、配二公義流人駒吉于國上村、宜妙于現和村、金兵衛于増田村、宗兵衛于野間村、松之助于

平山村、兼吉于莖永村、芳松于島間村、善吉于下中之村、由松于西之村、各使下村吏監之聞_レ狀于官、

○八日、命祭安長戰死之靈於本源寺、使家老上妻小左衛門定直代_レ吾炷_レ香、三寺之僧誦_レ經、且與戰死之子孫飯、以今年當二百五十回忌也、

○十日、與俸田二斗八升所于席匠中西之表善吉、以稱其職也、

○十二日、命記錄方錄_下古來死國難者及其子孫之姓名上、以使_レ上、

岩河平七子孫不詳、鮫島休覺裔鮫島村右衛門、

榎本伴助裔上西之表榎本新助、岩元島之助裔增

田村之岩元宗四郎、鮫島源藏裔納官村之鮫島宗

四郎、

○十三日、上妻源左衛門獻_レ斗搗之餅、如_レ例、

○同日、與真米二斗于日典丸船長池村松千代、浦星各一于水梢、以_レ覽邸營作之日使_レ留_レ滯于彼

地也、

○同日、與金百疋于住吉村松下五作、以下射_レ鷲獻_レ之也、

○船奉行宮浦藤九郎・野間仲左衛門・西村城助・時任平八寺入于妙昌寺、以_レ嚮水梢某有_レ負債、藤九郎等即不_レ告_レ之政府也、

○二十七日、三箇寺・二十人家・鐵匠進上、如_レ例、

○歲暮、規式、如_レ例、

嘉永二年	種子島家譜	廿四代	六十五
		久珍	

- 嘉永二年己酉正月元日、規式、如例、
- 二日、國上村獻瀨物、現和村庄司浦獻、取次西村九郎時起、
- 同日、覽馬、名代家老美坐十郎右衛門時敏・馬役東嘉助、
- 同日、八箇寺進上如例、名代家老美坐十郎右衛門時敏、

- 四日、上之郡庄官・小觸進上、如例、
- 六日、初狩、名代家老美坐十郎右衛門時敏、物奉行種子嶋友右衛門時大、用人西村十左衛門時弘、組頭平山佐一郎友直・野間仲左衛門直之・西村田代時和、山奉行野間龍之助・羽生半左衛門・河東祐兵衛・西村員右衛門・岩河助七、西之表庄官獻上如例、此狩也、西之表郷土楢原直助私入、中銃殺一鹿、以犯法不與鹿首焉、
- 七日、中之郡下之郡庄官・小觸獻上如例、家老美坐十郎右衛門時敏、
- 十一日、甲冑之賀、軍陳・温坐祈念、的始、如例、
美坐杉之進、二番上妻孫助、三番武田西村善太郎、下村三太郎、羽生才之丞、
 名代家老上妻小左衛門定直、用人失姓、
- 同日、賣、河楢原直助・上妻庄助・古市三次郎・羽生才之丞・上妻雲角・長野善之進・河野傳藏・河野菊次郎・牧助十郎・牧半次・下村三太郎・古市源藏・美坐杉之進・木原小助上、以當修初狩之典、犯其法也、

○十七日、與_二朝服_一領於西村休八、賞_二鑄_三大銃_一也、

○同日、増田村土民清助縊_二死于現和村_一、締方横目東郷勇助、我横目西村甚五右衛門時哉・西村田代時和往檢焉、

○廿日、敗船_(破力)一艘漂_二至于阿高磯_一、船具悉損、締方横目東郷勇助・福田助七、我横目西村甚五右衛門時哉・西村田代時和、船奉行上妻太代・宮浦藤九郎往檢焉、聞_二之官_一、

○同日 官以_二大信院殿十七回忌_一見_レ赦_二莖永村百姓此太郎_一
先是有罪
下于獄

○二十九日、弘化三年普請方筆吏吉良市次郎寺_三入于日輪寺_二三七日、以下簿中所_レ記有_中不正之事_上也、

○與_二米五斛于近習西村蔵多、金子千疋于小姓下村十郎_一、以_二數役_三於藩邸_一也、

○以_二鮫島吉袈裟_一為_二奧小姓_一、小田彦太郎小姓、

○奉_二官命_一警_二衛于柵形柵門_一、

○點_二檢丁夫・病夫・有職者_一告于官、

○責_二訶現和村稅吏牧傳之助・平山村稅吏緒方權蔵_一、以_二簿中所_レ記有_二不正之事_一也、

○二月二日、使_二郷土調_三練於城之濱_一、

○五日、以_二西村九郎時起_一為_二慈遠寺之社奉行_一、

平山佐一郎・羽生仙蔵船奉行、種子島平蔵納戸奉行、日高勇太郎・美坐織太郎兵具奉行、遠藤健太郎・八板伴助馬役、河東仲助再為_二兵具奉行_一、

○七日、以_二河東雄兵衛_一為_二納殿役人_一、其子龜太郎小姓、

○同日、女兒_(佐伊勢雅)登卒_(樂妻)、法諡淨春院桃顔妙紅大姉、

○九日、責_二訶住吉村郷土上妻太郎、野間村郷土日高權太郎・日高仲次郎_一、以_二放_三銃于府下_一也、

○同日、赦_二西村城助・時任平八_一
向寺入
滿徳寺

○十一日、令_二海士泊浦兵右衛門納_一罰錢六百文、以下_レ請_二信牌於山奉行署_一而買_レ材也、連速住

吉村湯田新作・内田助市罰錢各三貫文、以下應_二兵右衛門需_一竊探_レ材也、責_二訶山役長野字角_一、

金助・平山友吉、坐不職焉、

○十二日、以西村城助・時任平八為用人、

○同日、流人横目加治木善之進帰、

○十三日、以河内十助・鶴田新次一船手及米倉目附、

○十八日、赦宮浦藤九郎・野間仲左衛門向寺入、滿徳寺、

○廿二日、赦吉良市次郎向寺、

○廿六日、與金子一兩三步於組頭、以下先是訓練戰法之日助中焔丸之費上也、

○唐物横目税所蘇之助、締方田中十郎右衛門・阿多源左衛門来、

○三月三日、上巳之賀止、以淨春院殿桃顔妙紅大姉之喪未除也、

○六日、使田之脇浦周次郎一納罰錢五百文、以下嚮自覺府一歸之日、無藥品奉書及山川番所背書上也、

○同日、安城村孫吉有罪下于獄一百五十日、足輕日高半九郎・上妻甚七・岩重七太郎・上妻新作・

榎本專太郎・上妻與吉各百日、以嚮放田上庄太左衛門于國上村之日、相議毀屋焚器財、其所為暴戻、背人道也、

○同日、中西之表トウ杉師市藏納科炭十苞、以嚮牧瀬仁三太就山奉行署請採材於某山、許之、與以信牌、仁三太使市藏一採之、其樹蠹矣、不勝用、既而不請信牌于山奉行署、而別伐三株也、連坐西之表甚七、安城村諸吉・勇四郎各納罰錢五百文、

○六日、使濱津脇浦仲七納罰錢十貫文、先是陽稱採商家材于納官山、請信牌於山奉行署、許之、既而私入增田山、多竊良木、以故坐之、連逮杉師萬次郎拾貫文、孝七・牧新五郎・鋸匠仙九郎各二百文、罰之有差、叱增田村山役久木原源一・牧瀬七太郎・遠藤勘之丞、坐不職也、

○七日、安城村足輕榎本半之進、郷士遠藤貞四郎・德永仁三次・日高紋右衛門・榎本宗之進、足輕上

妻六左衛門・日高才助・日高磯次郎・上妻才四郎
 ・德永源藏・榎本貞四郎・上妻三四郎・同與四郎
 ・上妻嘉七・上妻休之丞、郷士田上源次・長野四郎太・長野三次郎、足輕小川休八・上妻喜作・德永市十郎・上妻直次郎、百姓喜市・佐平・權左衛門・源六、町頭足輕榎本磯之進・榎本半次郎・上妻仲六、郷士田上源九郎科仕三七日、里正小川兵七褌其職二寺三入于淨光寺二五七日、村横目榎本仲左衛門寺三入于本隆寺二五七日、長野藤九郎寺二入于本蓮寺二一七日、鮫島良四郎寺三入于本隆寺一
 一七日、中宿士長野儀助・牧彌平次・鮫島甚四郎・田上良吉、郷士長野半太・同才太郎・同半助・同儀右衛門・小川兵次郎・鮫島仙袈裟・田上奎太郎・鮫島八十次・德永渡平次・榎本新助、足輕村松新五郎・田上宗助・鮫島宗吉・小川寛之丞・德永與平太・德永吉左衛門・同源九郎・同善助・牧瀬半次郎・德永八太郎・小川七次郎・榎本定次・小川新四郎・同辰次郎・同喜平次・同仙五郎・同

半次郎・同新太郎・田上直之進・德永甚五郎・岩坪岩次・日高仁助・上妻新吉・德永浦次・同仁四郎、郷士榎本寛次、百姓五右衛門・岩吉・喜七・五次郎・源四郎各科仕三七日坐庄太左衛門事也

○八日、與三金子二千足於美坐源助、五百足於岩河作左衛門、賞レ有レ勞二于產物方掛一也、

○同日、以三美坐源助一為二船奉行一物奉行格組頭留守居如故

○九日、内横目下村權六寺二入于日輪寺二三七日、

以レ嚮不レ制西安城村人火之田上庄太左衛門宅及器財甲也、

○十五日、以三桑原次助一・山口喜助・大木七助一為二

船匠一、各與三俸田五斗所一、加三與三斗二升一勺

三撮于宇多津嘉助、

○十七日、與三木綿六把於莖永村百姓平吉者母一、

先レ是痘將レ行舉村皆難レ之、平吉母獨曰、不レ患レ痘者不レ能レ役二于覺邸一、終使三三兒患レ之、其心操異レ衆實可二以賞一、故及レ之、

○十八日、與三金子千足於日高嘉兵衛一、賞レ勤二勞

于勝手方^二也、

○同日、赦^二安城村鮫島良四郎・長野藤九郎、

○以^二廣瀨平大夫^一為^二船奉行格兼側用人^一、使^レ與^二

聞納殿役人之事^一、

○太守公見^レ命^下禁^二奢侈^一正^二風俗^一學^上文武、吾

亦奉^レ旨以^レ書示^二家老^一、事記^二于左^一、

○四三一 申渡書

大中様 貫明様 松齡様

御代^レ者於當家茂 日勝様 日恕様御忠勤を被

勵^レ度^レ之御出陳御戦功も不少、家来共^二も同

断、尽粉骨遂忠死候者数多之事^二候、其後至治世

候而茂 日尊様 日等様引續御家老職御勤、一島

之御政道被行届、文武之道御引勸、土風正敷御教

導有之候^二付、其徳沢数代相流、此以前迄者風俗

質素^二為有之由候處、時勢之變態与者乍申、至此

比次第^二驕奢之風^一、押移候向も有之哉^二相聞得、

甚以不可然事^二候、向後屹与風俗相改、質素之方

ニ立帰^レり候様無之候而者不叶事^二候、分而年若之

面、学文武藝互致出精、治乱共^二御用立候様可心

掛候、殊更島許吳國口^二而四方海岸之場所候得

者、武備嚴重^二手當いたし置、外夷之侮を不受様

堅可相守候ハ勿論、兵器之儀者應分限兼而致用意

置、萬一非常之儀も有之候得者、不事欠様相心掛

候儀も第一之事候条、御趣意之程厚奉汲受、心

得違之儀無之様家来末^レ迄可申渡候、

西

三月

役人中江

○四三二 役所達書

御側向之儀者、一統之目當^二相成事候間、平日礼

讓を嗜、律儀相守、不作法之儀無之、屹与相慎可

精勤、當時御改革^二付而者、御身邊より御省略被

遊御用候御事^二而、誠^二ニ奉恐入事候間、御側

向より一統江御趣意相傳候様可心掛候、尚又勤向

手透之節者相互ニ申合、学問武藝之儀無油断様可
心掛候、

西

三月

御役所

○晦日、軍役方國老下ニ命于吾家老一、事記ニ于左、

○四三三 藩軍役方家老座申渡書

今月廿六日、長崎江吳國船一艘渡来ニ付相糺候
處、北亞墨利加之軍船ニ而、漂流亞墨利加人為迎
致渡来、且類船無之段申出、外ニ疑敷儀相聞得不
申候付、長崎奉行被仰渡候、右ニ付而漂来も難計
候間、所役々を始一統心掛罷在、自然漂来も候得
者、兼而申渡置候通堅固ニ相守、何篇無手拔取
計、早速飛船を以可申越候、左候而地方江近寄薪
水等致所望候得者、相應相與へ為致帰帆候儀肝要
之時候間、可得其意候条、尤上陸者不相成候故、
聊油断致間敷候、種子島江可申渡候、

三月晦日

御軍役方

御家老座

種子嶋役人中

○四月三日、官以ニ國家多事費用不_レ給、封國中

納ニ重租一、事記ニ于左、

○四三四 末川久平外三名連署達書

重出米之儀、去申之年迄ニ年限等合候得共、近年
打續臨時、

殊ニ来秋琉人參府旁御產物料迄者難被行届候付、
當時諸人一統困窮之折柄、御氣之毒被 思召候得
共、又々御當地諸鄉共、當年より来ル亥年迄引續
三ヶ年、是迄之通重出米被仰付候条、上納方ニ付
而者當分之通可相心得候、

但

諸鄉重出米之内五石丈後居、當西之年迄上納申

置候、付而者右之分是迄之通追送ニ而、来子年
迄上納申付候、

閏（川上久封）東馬（島津久武）壹岐

四月（島津久徳）將曹（末川久平）近江

○八日、官禁_レ商_二唐貨_一示_二糸荷船漂来之時處置之法_一、如_レ例、

○十五日、以_二異國船入津之候_一、國老末川近江久平・嶋津將曹久徳・島津石見久浮・嶋津壹岐久武・川上東馬久封傳_二長崎奉行之令_一、如_レ例、

○同日、赦_二安城村横目榎本仲左衛門_一令_レ出_レ寺、

○同日、有_レ記_二伏見城・關原及庄内之役、吾先臣死_レ事者之姓名・日月且子孫之姓名_一、可_レ聞_二之官_一之命_上、國老島津將曹久徳傳_レ之、

○十六日、赦_二安城村庄官小川兵七_一令_レ出_レ寺、

○二十一日、與_二祿地二升七合於函工伊地知吉次郎_一、先_レ是使_二下村要_一製_二甲冑_一、吉次郎亦與焉、而辞_二其傭錢_一、故有_二此賞_一焉、

○同日、加_二與俸田各一斗所於西之村圍人秋山直助

・長野次平次・長野覺次・同仲藏、上中之村圍人河野友吉、一斗三升六合所於莖永村圍人柳田雄助、

○二十六日、締方横目東郷勇助・福田助七焔、

○閏四月朔日、先_レ是夷船過_二久志・秋目洋_一也、軍役方國老以_レ書示_二吾家老_一、以_レ不_レ可_レ弛防禦、

○九日、安納村冲箇濱田塩戸失_レ火、連燒四家、不_レ燒_二人馬・手札_一、以_レ故不_レ聞_二于官_一、

○十日、上里村足輕羽生次郎寺_二入于遠妙寺_一七

日、濱田芳太郎・牧瀬次郎助寺_二入于妙泉寺_一七

日、桑原矢太郎・濱田金之助寺_二入于滿徳寺_一七

日、以_レ嚮論_二角力勝負_一、歐_中擊於米倉之庭_上也、

連坐責_二訶斗級喜兵衛_一、以_レ使_二次郎止_二宿于米倉_一也、

○太守公、以_レ吾家多_二貸借_一府庫空耗_上、使_二國老嶋津將曹久徳及宮之原源之丞・種子嶋嘉次右衛門與_一聞_二吾家事_一、而勸_二農桑_一計_二貨殖_一、

○七日、檜原直右衛門為_二覺邸物奉行定府書記役、

因與_二金子二千疋_一、以資_二旅費_一、

○十五日、以_二種子島三七_一為_二納戶奉行、日高藤次

郎普請奉行、西村員右衛門・笹河九兵衛高奉

行、

○十七日、種子島友右衛門時大・知覽才兵衛行修・

渡邊早右衛門兼重・西村十左衛門時弘為_二牛馬皮

方掛、

○同日、赦_二市人濱田芳太郎・牧瀬次郎助・桑原矢

太郎・濱田金之助_一令_二出寺_一、

○廿日、與_二俵田各一斗一升五合_一所于圍人坂井村池

山利平次・納官村松下貞市、

○廿一日、與_二米一斛於武田平藏_一、以為_二覺邸物奉

行筆吏、

○上西之表河口_三之進為_二代々足輕_一、以_二踰年仕_一

役於藩邸_一也、

○官令_二吾臣八板彌平次男誓者定徳学_一中平家琵琶于

京上、而在京中年賜_二俵米三斛六斗_一、

○五月五日、與_二粽各二束於_三寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○同日、赦_二流人栄三郎_一令_二出獄_一、使_二野間村庄官

石堂市右衛門監_三司_一之、

○十八日、赦_二安城村足輕日高半九郎_一・上妻甚七・

岩重七太郎_一・上妻新作_一・榎本專太郎_一・上妻與吉_一

出牢、

○國老島津老岐久武傳_一長崎鎮台令_二曰_一、弘化丁巳

八月十日、自_二西之村_一所_二出奔_一流人瑞龍・竹藏

・小重太_一・喜兵衛漂_一流清國_一、清國送致_二崎陽_一

因_二于監倉_一、鞠問未_レ畢四人復脱亡、搜索捕_二小

重太_一・喜兵衛二人_一、瑞龍_一・竹藏未_レ知_二所_一在、

小重太死_二於獄中_一、喜兵衛刑死、故可_レ建_二明栢_一

於配所西之村、

○官以_レ書示_二吾家老_一曰、近年夷舶屢往_二来于琉球

諸島_一測_二海深淺_一、似_二包_三藏禍心_一者上、渠若抵_二

種子島_一乞_二薪水飲食_一、則與_レ之而勿_レ許_二留滯_一

焉、夫種子島孤_二懸海外_一、當_レ有_レ事則無_レ由_二施_一

指揮_一、宜_二平日嚴_三守備_一以戒_二不虞_一矣、

○我先臣殉國難者姓名・子孫録、以呈于官、

○四三五 種子島家臣殉難者子孫調書

慶長五年八月

松齡様伏見城御攻、同年九月関ヶ原御合戦、且又
前年六月より右同年二月迄 琴月様庄内表御征伐
之砌遂戦死候者、既當年式百五十年ニ相當り候ニ
付、當九月十五日迄之間、右戦靈於福昌寺ニ御祭
可被下候段被 仰出、右戦死之者共子孫江拜禮等
被 仰付筈候処、右三ヶ所御合戦ニ致戦死候子孫
より、先祖何某於何方何年何月何日致戦死之訳、
倍臣之儀者主人より取束申出候様被仰渡趣奉承
知、重畳難有次第奉存候、依而左条申上候、

種子嶋十郎時宗

子孫

中田宇平太

右、慶長四年庄内表御征伐之節、彈正殿八代之祖
左近大夫久時出陣ニ付供仕、同年六月朔日於恒吉
戦死仕候、

種子嶋次郎右衛門時滿

同氏十郎次郎時冬

子孫

國上伴九郎

同氏勘七時吉

子孫

國上助之丞

西村讀三郎時邑

子孫

西村菊千代

西村七左衛門時全

子孫

西村城助

肥後清兵衛時定

子孫斷絶

未家 肥後惣左衛門

上妻弥九郎家直

子孫

上妻七兵衛

平山狩野介友知

子孫

平山次郎太夫

日高嘉兵衛實連

子孫

日高嘉兵衛

日高勘當實俊

子孫

日高甚太郎

岩河平七盛次

子孫相知不申

家嫡

岩河十右衛門

鮫嶋源藏家則

子孫

鮫嶋村右衛門

鮫嶋休覚

子孫

鮫嶋惣四郎

榎本伴助

子孫

榎本新助

岩元鳥之助

子孫

岩元惣四郎

陣僧

圓仙坊

道具者 九人

又者 三人

外三 七人

姓名相知不申候

鮫嶋覺右衛門貞家

右子孫、御城下土鮫

嶋吉左衛門様ニ而御

座候、尤右覺右衛門

貞家迄者種子嶋從臣

ニ而、其後御城下江

被召出申候、此段吉

左衛門様より茂被申

上候旨承り申候、

都合三拾七人

右、同年十二月八日前條同断ニ付、於庄内安永戰

死仕申候、

種子嶋次弟兵衛時宗

子孫

河内熊右衛門

石堂市右衛門氏三

子孫

石堂平二

榎原弥次郎

子孫

榎原彦太郎

右、慶長五年九月関ヶ原御合戦、次弟兵衛時宗主
取ニ而種子嶋人数召列、摂州尼ヶ崎迄着仕候處、
最早御合戦落着之由承り候得共、次弟兵衛儀者主
取之事御座候故、外人教者尼ヶ崎江残置、石堂市
右衛門・榎原弥二郎召列、

両御前様御館江馳參候處、吉田美作守様より御屋
敷番被申付、

両御前様御首尾能御退去ニ而、御跡堅固ニ相守居
候處、敵軍寄来候付、於同所各戦死仕申候、

右之通、家譜并右戦死之者子孫共江相糺、此段
申上候、以上、

嘉永二年酉五月

種子嶋役人
上妻小左衛門
(定直)

○官使下藩士池田三十郎為中吾小姓上、

○按三察一向宗聞于官、

○六月五日、與三米二斗於飛船船長濱田金之助、
以下不踰二七日而往中來覺府上也、

○同日、與三金一步於生蠟船船長池村惣太郎、嚮
航趣二大坂也、遇颶幾覆水工請投其所載於
海、惣太郎曰、先投三私物勿投三公物、遂得
達岸、以故賞之、

○六日、赦三大山五次助令出寺、

○十一日、以西村甚五右衛門時哉為三物奉行、
年與三俸田十石所、

○同日、官令下藩士村田次左衛門與三聞吾家事、

○十四日、與三俸田各一斗四升所于上西之表圍人長

野金四郎・納官村春田直太郎、

○十六日、一向宗流人金兵衛病死、締方横目失姓

我横目西村十左衛門時弘・西村田代時和往檢
之、事聞于官、

○同日、以西村直之進時義為三海草方掛、

○十七日、以西國上只次為三近習、

○十九日、先是井上休右衛門私買三海草、及三事
將三發覺而返之於其所賣者、雖三然原三其情
有三可三罰者、以故使三納三罰錢十五貫文、增田

村百姓善吉納罰錢二百文、以賣海草於井上休右衛門也、同村仙七者有女子名美、女有母在病、家貧不能供糜粥、或告女曰、善吉以米買海草、女往而賣之、善吉不與價米、既而事覺、乃命善吉返海草於女、而使村吏責詞女、女其情雖可恕然以不免於犯法也、

○廿日、與倅田各一斗于道具番西之表鮫島休次郎・安城村武田平右衛門、

○廿一日、請于官赦平山次郎太夫・羽生直一郎使婦先是有罪流于七島

○廿七日、請于官赦長野良左衛門・高崎孫兵衛・羽生十太郎使婦先是有罪流于七島

○同日、使平山次郎太夫退去于島間村、羽生直一郎于莖永村上、

○同日、與金各三百足于家老岩河十右衛門時行、物奉行知覽才兵衛行修、各二百足于横目渡邊早右衛門兼重・西村休八時乘・西村直之進時義、郡奉

行西村藏多・河内熊右衛門・遠藤壯兵衛、以下令改正祿田之日有勞也、

○同日、與銀十枚于鮫島孫右衛門、以下自納殿役人累遷留守居、久留役廳邸、且男源藏亦為小姓也、

○二十八日、以牧藤五郎為船手及米倉之監、

○二十九日、夏越、西之表庄官獻上、如例、

○按察一向宗・鬼利支丹宗告于官、如例、

○以西村惣次為船奉行兼町奉行、亦班列于高所、而與聞其事、

○七月六日、官廢異國方而置軍役方、事記于左、

○四三六 藩軍賦役違書

御領内海岸江不見馴品流寄候節者、是迄唐船役江届申出、手輕品者添差出、手重品者差函之上於處燒捨申付候先例、就而者此節吳國船掛御役場御引取、御軍役方被召立候二付而者、以來吳國船

品与見受候ハ、御軍賦役江形行可申越候、此段近

江殿御差函ニ付申越候、以上、

西

七月六日

御軍賦役

種子島

役人

○十一日、自_二昨九日_一至今日_二大風、國上村・西之表村里正至_レ邸候_二安否_一、且奏_二禾稼損失_一、十二日、西之村・平山村・納官村里正亦至奏_二禾稼損失_一、

○十三日、名代家老岩河十右衛門時行詣_二于本源寺_一、祭_二宗祖及戰死之靈_一、

○十四日、名代家老羽生太左衛門能俊詣_二于本源寺_一、祭_二宗祖及戰死之靈_一、

○十六日、名代家老美坐十郎右衛門時敏詣_二于本源寺_一、祭_二宗祖及戰死之靈_一、

○十七日、與_二金三兩于八板矢一兵衛_一以下_二禰祇_一役魔邸_一、留滯閱_二三十五日_一而能服_上其勞_一也、

○十九日、命_二高奉行及地方檢者_一檢_下禾稼傷_二于大

風_一者_上、

○同日、尾張黃門公計到、停_レ樂七日、禁_二工事_一三日、

○同日、官命_二我家老_一曰、先是長嶋浦名頭甚助弟源兵衛者信_二一向宗_一因繫_二之監倉_一、一日脱而亡匿、如有_レ獲_レ之者_一速可_レ白_二于官_一、

○二十二日、以_二野間仲左衛門_一為_下用人兼組頭横目_一、日高勘太郎・市来清之進・緒方善藏山奉行、上妻早太扈從_上、

○同日、一向宗流人與市病_二死于配所野間村_一、締方横目_{失姓}名_一、吾横目西村七郎時義・河内六郎時然往檢_レ之、

○儲君篤之助君_{少將齋彬}公之男_一計到、停_レ樂一日、

○島間村水夫熊次郎有_レ罪禁_二旅行_一百日、

○官禁_レ鬻_二唐貨及琉球諸島鳥獸・草木・砂石・珍怪之物_一、事記_二于左_一、

○四三七 島津久徳申渡書写

寫

唐物拔荷者勿論、右之代り物松前産等買下候儀御
禁止之段追々申渡置候付、心得違之者は有之間敷
候得共、御取締向分而敷敷從 公邊御沙汰之趣茂
有之候付、聊取違有之間敷候、乍此上利慾ニ迷違
背於有之者、屹与可及沙汰候、向々江不洩様可申
渡候、

七月

(島津久徳)
將曹

○四三八 島津久徳申渡書

- 一 赤髭 一 ヒス鴨 一 画眉鳥
 - 一 梅花鳥 一 鷹松鳥 一 四喜鳥
 - 一 八歌鳥 一 相思鳥 一 立家鴨
 - 一 黒口家鴨 一 黃鳥
- 右之外珍敷鳥獸類
- 一 蘇鉄 一 報蔵蘭 一 大葉蘭
 - 一 黄紅鳥 一 栴榔 一 大明花

- 一 旱菰(稷) 一 千年萑 一 袂百合

- 一 金合歡 一 椰子 一 龍眼木

- 一 荔枝 一 名護蘭 一 アダン

- 一 木綿樹 一 芦會 一 素仙蘭

右之外珍敷草木類

- 一 珊瑚砂 一 鍾乳石 一 海草

- 一 讀谷山斑石 一 方解石

右之外珍敷砂石類

右者、是迄琉球并島より諸人勝手次第為持登事
候得共、右品此節より御手元御用相成候間、御庭
方江相付願出、免許之上持登候様、向々江可申渡
候、

七月

(島津久徳)
將曹

○責三 訶兵具奉行日高勇太郎、坐下嚮赦ニ安城村足

輕日高半九郎・上妻甚七・岩重七太郎・上妻新作

・榎本専太郎・上妻與吉等ニ之日、使上ニ之先レ期

出レ獄也、

檀原彦太郎

種子島十郎時宗子孫右同

中田宇平太

種子嶋次郎右衛門時瀧同十郎

次郎時冬子孫右同

國上伴九郎

種子嶋勘七時吉子孫右同

國上助之丞

西村讀三郎時邑子孫右同

西村菊千代

西村七左衛門時金子孫右同

西村城助

上妻弥九郎家直子孫右同

上妻七兵衛

平山狩野助友知子孫右同

平山次郎太夫

日高嘉兵衛夷連子孫右同

日高嘉兵衛

日高勘當美俊子孫右同

日高甚太郎

鯨島源藏家則子孫右同

鯨島村右衛門

鯨島休覺子孫右同

鯨島惣四郎

榎本伴助子孫右同

榎本新助

岩元鳥之助子孫右同

岩元惣四郎

右先祖共、於関ヶ原并庄内戦死仕候處、當年二百五十年相當候付、於福昌寺九月十五日亡靈御吊被下候段承知仕候間、右之通相中より為香奠進納仕申度願申出候間、願之通御免被仰付被下度奉存候、以上、

種子島彈正殿役人

上妻小左衛門
(定直)

○十五日、官祭戰死之靈於福昌寺、是修二百五十回忌也、我先臣戰死之裔、在藩邸者身親詣福昌寺而拜之、在種子島者祭之於我祖廟本源寺、禮畢就官謝恩、

○十七日、羽生惣太郎始謁獻征矢、

○十八日、上妻金千代加首服、命俗字九郎左衛門一名代家老岩河十右衛門時行・家老美坐十郎右衛門時敏、理髮上妻七兵衛宗徳、奏者用人西村田代時和、物奉行種子島五郎右衛門政義、用人野間仲左衛門直之斑列、

○十九日、演武廣間之庭、師範家皆造焉、

○二十三日、與米二斗浦星各一於天神丸船頭樋口六兵衛、水抄庄司浦太郎吉・豊袈婆、浦田浦基助、住吉浦仙太郎、池田浦嘉吉・太郎次・市右衛門、以下先是在鹿兒島助高屋根之工事留役有日也、

○二十九日、住吉村横目内田助之丞・山役長野金助、妙昌寺横目上妻善藏・山役長野彌吉、蓮勝寺

横目長野小右衛門・山役平山友吉、妙泉寺寺入各一七日、嚮當補高屋根將伐松材於住吉片之山、横目・山役等告曰、田圃防颯要衝之地、其松不可伐焉、其言有理可之、既而洲之崎仲次郎謀伐船材於片之山、横目・山役許之與以券書、其言反覆大戾前言、以故被坐寺入有前後、

○二十六日、加增俸田二斗所墾工河口壽右衛門、

○二十八日、大風、

○同日、使平山二郎太夫・長野良左衛門・高崎孫兵衛・羽生直一郎・羽生十太郎各退居村野、令嗣子繼家蹟上、且使其族人密論二郎太夫等持身謹肅、

○十月六日、嚮島間浦清之丞・市兵衛・太市、濱田浦太郎右衛門有不正之事、禁旅行各一年、

○九日、加與俸田一斗所於西之表鮫島貞吉、一斗五升所笹河善吉、五斗所柳田清之進、二斗五升所安納村日高仙左衛門、二斗五升所鎌田甚太郎、

以善捕快也、

○同日、名代家老羽生太左衛門能俊詣本源寺、供菓子、如例、

○十九日、赦住吉村上妻善藏・長野彌吉向寺入于蓮勝寺

○二十四日、官赦林玄泰先是流喜界島

○二十六日、濱田芳太郎有罪禁其旅行二十年、坐先是航海商瀨戸内、當其歸不受中檢察於内之浦津吏也、

○二十七日、赦住吉村長野小右衛門・平山友吉向寺入

○二十八日、河野喜兵衛二男同喜市近日為僧名政須狂縊死于大野崎、締方横目名失姓及我横目森休兵衛友習・西村田代時和往檢之、

○十一月朔、遣役人格知寛才兵衛行修兼物奉行、横目

時任平八時喜、山奉行野間龍之助・平山仁左衛門、醫鮫島貞哉、射手下村要志狩于馬毛島上、徇監二人屬焉、以鹿皮有用於製甲冑也、

○六日、以平山力之助為納戸奉行、河内寛右

衛門為兵具奉行、河内茂助・羽生彦八郎・下村佐一郎并為馬役、

○十二日、以高嘉兵衛為用人職如故、美坐善兵衛普請奉行、遠藤直四郎馬役職如故、美坐矢太右衛門・河野佐太郎為小姓、

○十三日、加增俸田於船匠樋口勇吉・牧瀬仲助・桑原佐太郎・榎本清太郎各五斗一升所餘、以善其業也、西之表鋸工嘉右衛門亦勤習其業、故與七斗六升五合五勺所、

○十四日、與俸田五斗所於鑊匠平瀬新四郎、五斗所於阿世知友市、以善其業也、

○二十日、滿德寺僧名失姓狂喧啾歐擊、衆僧請使捕縛之、許之、

○二十四日、遠藤庄太郎發狂、族某請下造牢于室繫之、許之、

○二十九日、與金百足於鮫島利右衛門、以勤仕有勞也、

○同日、官以藩士河野笑安為茶道格、酒匂

有勞也、

孫八郎為「小姓格」使「侍」吾、

○同日、與「金」千疋于鮫島孫右衛門、八百疋于河内十助、百五十疋于上妻新太夫、百疋于羽生清賀、百疋于大匠柳田今之丞、分「與」錢九貫六百文于小匠及鋸工、以「有」勞「於」補「高屋根」也、

○同日、與「俸」田十五石所于留守居鮫島孫右衛門・定府納殿役人廣瀬平太夫・河東祐兵衛、八石所于定府納殿緒方吉兵衛、各俸錢如「故」、嚮府庫空乏省「費節」用、故各職俸田準「作」人分地之制「而」納「其」租于府庫、然而如「是」職「則」常留「役」藩邸「旅資」許多、以「故」復「于」舊制、

○側用人・近習各令「納」其俸田七石五斗所、以「米」二斛七升「換」之、且與「六」斛三斗于側用人、五斛七斗于近習、四斛一斗・錢六貫五百文于小姓「為」俸、以「費用」陪「他職」也、

○將「償」大坂之債「請」借「錢」于「官庫」、事記「于」左、

○四四〇 二階堂源太夫御内意之覺

御内意之覺

種子嶋彈正殿藏方之儀、先年来吉凶相統連、難波成立、其上領地遠海上之事故、風難災殃有之、年々定題上納茂不相調、藏米引入「相」成候儀而已御座候、尤出米上納之儀者生蠟・砂糖差登、右代銀を以大坂納被仰付置、於大坂茂銀主相頼無滯上納方者仕来候得共、近年砂糖・生蠟共出来高相減、過分「引」入相成、銀主方之借銀既「三」百貫目「相」及、於御當地茂連々大分之借銀差屯、極難波罷成候處、其段被「聞」召上、御内沙汰之趣被為在、御役々被召掛所帶方可致改革旨被仰渡、重疊難有次第二而、當分改革向之儀精々手を附罷在候儀御座候、然る處御當地借銀之儀者、都而一往相断候得共、大坂表他所向「相」掛左様之相談も相調不申、年々過分之利足「被」追申儀御座候付、段々吟味候得共、近年中元濟之趣法毛頭無御座、殊更當年者嶋許無類之凶歳二而、穀物者勿論、唐芋類

も取実無之、砂糖・生蠟も風損等ニ而断高引入相成、出米金納之儀も甚差繰難波之賦ニ而、彈正殿ニも被承届甚被及心痛、役ニ至候而茂前後行迫、當惑罷居申次第御座候、就而者當時柄自由之御願筋御座候得共、此涯於大坂表御銀三百貫目拝借被仰付置、返上納方之儀者御免被仰付、砂糖三拾万斤を以三ヶ年符上納被仰付被下度奉願上候、尤當年之儀前文之通年柄故、決而三拾万斤丈者出来仕間敷候得共、二百貫目ニ相成可申、左候得者来年者三拾万斤出来仕候ハ、同様八分位見賦候而も二百貫目ニ相及可申候間、三ヶ年符ニ被仰付被下候得者、其内皆上納可罷成哉与奉存候、於其涯者大坂表借銀致皆済、當難相凌候而已ならず、一躰之差繰も連立、近年改革之詮も相見得可申儀精々念願被存候間、右旁之御取訳を以願通御免被仰付被下度、右之趣願上候様彈正殿より承り、此段私より申上候間、此等之趣被仰上可被下儀奉願上候、以上、

十一月

二階堂源太夫

○官流ニ東郷郷土園田市次于吾種子島、以レ奉ニ一
向宗ニ也、

○十二月八日、西村九十郎始謁、獻ニ火繩、

○十三日、與ニ金三百疋于油久村庄屋役者、以下
不レ乞ニ傭銀于府庫ニ而補ニ溝沓也、

○同日、上妻源左衛門獻ニ斗搗餅、名代家老羽生
太左衛門能俊、

○二十七日、二十家・三寺・鍛冶進上、如レ例、

○二十九日、歳暮、規式、如レ例、

嘉永三年	種子島家譜	廿四代	六十六
		久珍	

- 嘉永三年庚戌正月元日、國上村獻ニ野老、
- 二日、國上村獻ニ介族、庄司浦獻ニ鯨、
- 同日、觀馬、名代家老上妻小左衛門定直、馬役高尾野勇介、
- 同日、八寺獻上、如レ例、
- 四日、上之郡庄官・小觸獻上、如レ例、
- 六日、初狩、組頭西村城助時知・羽生仙藏能通・

- 美座源助時貞、山奉行平山仁左衛門・日高勘太郎
- ・野間竜之介・緒方善藏・市来清之進、夕狩場、
- 名代家老羽生太左衛門能俊、物奉行平山新兵衛友
- 益、用人西村直之進時義、西之表庄官獻上、如レ
- 例、
- 七日、中之郡庄官獻上如レ例、家老上妻小左衛門定直、
- 同日、一向宗流人郡之城前川内村市左衛門男直介
- 病死、西村十左衛門時弘・西村田代時和檢ニ察
- 之、事聞ニ于官、
- 八日、夫人趨ニ其父喪子加治木、
- 十一日、甲冑之賀、如レ例、
- 同日、本源寺軍陣・温坐祈念、如レ例、
- 同日、蓮勝寺獻ニ神酒・糗盛、
- 同日、在郷諸寺獻上、如レ例、
- 同日、的始、家老上妻小左衛門定直、用人種子島
- 友之助政教、射者一番美坐杉之進西村善太郎、二番上妻孫助大牟礼良太郎、
- 三番武田只助八坂多平太、

○同日、被_レ命警_二衛柵門_一、且掌_二火消_一、

○同日、令_下吉良元民學_中種痘之術於前田杏齋_上、

○同日、與_二宅地一區於塋工河口三太郎_一、

○十五日、以_二島津内匠死去_一、吾島禁_レ樂三日、

○同日、羽生次郎助・日高惣七郎始調、獻_二征矢_一、

河内助次・遠藤壯次郎・上妻助藏・吉良六太郎・

宮浦七郎始調、獻_二火繩_一、

○同日、責_二訶瀆田藤右衛門_一、坐_下館_中締方於私宅_一

而接待甚疎_上也、

○二十二日、上書請_レ買_二他國米_一、事開_二于左_一、

○四四一 上妻宗敏口上覚

口上覚

米三百石

右者、種子嶋之儀當夏長雨、其上引續大風_二而

田畑痛強、藏米之内凡千石餘及引入、且唐芋逆

茂兼而之半方位茂無之、殊_二粟・蕎麥等之產物

茂都而絶_レ、相成候得者、年内中之食物者鬼哉

角可有之候得共、来春より夏迄之間頓与取續可

相成產物勿論、芋類迎も無之賦御座候故、一統

飢を凌可申之手段毛頭無御座候段追_レ申越、猶

又此節役_レ罷登救米之吟味仕候儀茂御座候処、

大分之人躰都而藏米を以取救難調、當惑仕申儀

御座候、然者右形行_二付而者難捨置儀御座候

間、右之斛高他國米買入御免被仰付被_下度奉願

候、左様御座候得者、手船取仕立瀬戸内邊江差

遣、直_二種子嶋江買下救米_一ニ差向申度奉存候

間、何卒御免被仰付被_下度奉願上候、此等之趣

被仰上被_下儀奉願上候、以上、

上妻_(宗敏)才次郎

月日

○四四二 伊集院喜左衛門申渡書

右表當七月迄願之通申付候、左候而買_下米唐物締

方横目并締方横目より右数相改、時_レ御趣法方江

届申出候様申付候条、如例可被申渡候、

戌

正月廿二日

御勝手方

伊集院喜左衛門

御船奉行

○同日、夫人從_二加治木_一帰、

○二十七日、以_二笹川五兵衛_一為_二馬役兼納殿役人見習_一、

○同日、以_二上妻早太_一為_二小姓_一、
官賜_二阿蘭陀船繪圖一幅・同人物繪圖一軸・書簡一封_一、

○二月初日、以_二田上助市_一為_二馬役_一、

○二日、坂井村足輕徳永傳次郎下_レ獄五十日、坐_レ在_二寢邸_一竊偷_中同僚之金_上也、

○九日、油久村足輕徳永宅次郎妻_レ狂縊死、縮方

横目東郷勇助・田邊彦八及吾横目時任丈左衛門時喜・野間仲左衛門直之往檢_二察_一之、聞_二于_一官、

○十一日、與_二棒田八斗四升所於鋸匠甚次郎_一、

○十五日、以_二西村九郎時起_一為_二記錄方掛_一、牧藤十郎祐筆、

○十六日、東洋四五里許見_二異國船_一、因遣_二家老羽生太左衛門能俊及諸士三十人_一備_レ之、既而不_レ知_レ其所_レ之矣、

○二十七日、締方東郷勇助・田邊彦八帰、

按_二察_一一向宗、事聞_二于_一官、
點_二檢_一丁夫・病夫及在職者、聞_二于_一官、

○三月初日、三役觀_二武技於廣間庭_一、師家如例、

○同日、令_レ時任丈左衛門時喜_一讀_二法章於廣間_上、

○同日、與_二艾餅於三寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○同日、西之表庄官賀_二瀬引_一、獻_上如_レ例、

○十五日、令_レ前田杏齋_一種_二痘_一於_二二女_上、波津多慶

○十六日、與_二棒田一斗一升五合所於住吉村中間深田勘吉_一、

○二十一日、赦_二徳永傳次郎_一出_レ獄、

○二十七日、三役・組頭觀_二射於本源寺弓場_一、

○同日、山崎太郎・長野惣太郎・山下仁齋・同復生

始謁、獻_二火繩_一、

○官貸_二府庫之金三百貫目於我_一、以令_レ償_二大坂之舊債_一、事開_二于左_一、

○四四三 島津久徳申渡書

種子嶋彈正殿藏方之儀、連々難決成立、改革之儀被仰渡候処、大坂表借銀及過分居相断候儀茂出来兼、年々利息_二被追_一、殊更私領違作勝_二而元濟之趣法茂不相見得候付、御銀三百貫目於大坂_二御取替之内意被申出_一、當時御金繰茂御難決之折柄、殊_二琉球人參府_二付而者過分之御入價茂差見得_一、何分難被及御沙汰候得共、大坂表借銀返濟之期も不相見得、年々利息_二被追候而者_一、適改革被仰付候詮茂無之、旁別段之御吟味を以御銀三百貫目、月々三朱之利息_二而御内用計を以於大坂御取替被仰付候条、返上方者私領出来之砂糖代銀を以、當暮より元銀之内江七拾五貫目ツ、返上、外二年々利銀上納四ヶ年符返上被仰付候条、此旨内用頼江申

渡、大坂御留主居江茂可申渡候、

但金筋之儀大坂_二而繰合相渡_一、追而形行可申越段可被申越候、

(島津久徳將曹)

三月

○四月六日、以_二俵田一斗四升所_一、為_二加増_一而與_二壘工小川新吉_一、

○九日、祖母梅香院卒去法名妙林日樹大姉、受_レ忌二十日、

○同日、異國方御用人新納主稅禁_二密商_一唐貨_一、且示_レ糸荷船漂来之日處置之之法_(筋力)、

○十四日、流人栗野郷士盛右衛門妻天津加免遇赦而帰、

○十五日、官傳_二長崎奉行之令_一、如_レ例、

○十六日、令_二三箇寺僧徒誦_レ經以禳_二甘藷之虫_一、

○二十七日、大坂之負債加_二子利_一既至_二三百貫目_一、而我島之産物不能_レ以償_レ之、因頃者増_二官員_一置_二改革所_一、而下_二節儉之令_一、事記_二于左_一、

○四四四 申渡書

所帶方連、難洪ニ付、去未年より別段改革被仰付、掛御役、深御吟味之上依而御差圖趣法相定候処、各茂厚相心得、役、一統致精勤候付、島元より御當地迄之取扱向追、治定相成候得共、大坂表借財段、致增長高利ニ被追、産物料ニ而者年々之出来代并買下料利足之引拂不相調、猶又借財相嵩、掛役、初別而心配之事候得共、大借之末候得者今更外ニ手段無之、無餘儀以形行奉歎願趣有之候處、當時大坂御銀線御難洪、殊ニ琉人参府旁御入價之事ニハ候得共、御由縁格別之以御評議、今般御銀輕利於大坂三百貫目拜借被仰付、銀主方江致返弁、左候而返上方之儀者産物砂糖登候ハ、右拜借元利之方江返上被仰付候旨被仰渡、別而難有次第二候、就而者砂糖斤高多少ニ者依候得共、四年之間ニ者皆納之賦候間、其上者所帶方之繰合も容易相成候得共、是迄處砂糖代を以大坂表差線もいたし来候得者、只管返上江振向候付而者、以

来者全外産物代を以、出来代其外彼地之引拂不相弁候而不叶事候間、第一拙者手元衣服初格外之省略相用、是非生蠟代を以相弁候様厚儉約相用候付、此涯之處実以肝要時節柄ニ候間、御當地者勿論、第一産物仕登向其外至島元手厚取計、役、一涯差はまり致精勤、弥趣法成就候様可取計事、

役人中江

○四四五 申渡書

去ル未年別段改革被仰付候節、難洪之趣深汲受、各初給地高又者扶持米等半地差出、面々心入者申ニ不及、蔵方之助相成、然共右之内ニ者困窮之者共餘多有之、其上去秋作毛不熟ニ而、猶又差迫居候段相聞得、其通ニ而者存分之勤事茂調兼、尤當時海岸防禦之御手當嚴重被仰渡、種子島之儀外、よりも手堅相備不置候而不叶事候得共、別段申聞通大坂表趣法被相替、此涯至極難洪之砌柄ニ者候得共、別段以存慮給地高并扶持米等本之通相返候

旨、一統右之意趣厚心得、勤向屹与致精勤、軍役手當之儀程、ニ應致用意候様可心掛事、

役人中江

○二十八日、下中之村道具番柳田喜三左衛門溺死于馬毛嶋、横目羽田宗之進及吾横目種子島友之助政教・西村田代時和檢察之、事聞于官、同日、令海草方屬吏西町之彌吉一屏居于家、坐有不正之行也、

○二十九日、長崎助左衛門來、乃以柳田善兵衛宅為旅館、

○以羽生半左衛門為留守居兼高奉行、

○以笹河五兵衛為留守居助役、

○以上妻才次郎宗敏為改革方掛及勸農方掛、

○郁姫君卒矣、實吾姉也、故事嗣他家者為姉忌十日、服四十五日、而今所下以殺之姫君卒在前而訃到之日忌服期已充也、因心喪一日、母夫人亦同焉、

○五月朔日、長崎助左衛門始班于政府、從此以為例、

○二日、與染布一端於安納村鎌田五平太、賞獻杉木場也、

○同日、以兵具奉行羽生岡右衛門・美坐織太郎為軍役方掛、

○同日、以組頭西村直之進時義・西村九郎時起、船奉行官浦藤九郎・平山佐一郎・羽生仙藏為軍役方掛、

○四日、令長崎助左衛門於廣間示太守公之命及吾手書於三役・諸士、

○四四六 申渡書

覺

種子嶋之儀、吳國口引受、海岸防禦肝要之場所柄候故、警衛手當之次第兼而大形者無之筈候得共、猶又精微行届、万一急變之刻越度無之様、此節長崎助左衛門渡海之序、家中役共江篤与申論、諸

事趣法相立、且浦、江茂行廻、備與訓練方迄、茂致見分、何篇不行届儀無之様可取計旨、御内沙汰被為在候事、

別紙之通、將曹殿より得能彦左衛門御取次を以被仰渡趣難有次第二而、就而者御趣意之程助左衛門江細、申合候条、先代より之組定も有之、兼而大形者無之事候得共、此節猶又同人江得差圖、末、迄も御趣意相流、警衛手當之次第精微行届候様可取計候、

戊
四月

役人中江

○四日、上里村羽生次郎有罪寺入于遠妙寺一七日、

○五日、與_二粽_一束於_三寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○七日、嚮大泊種子問屋利兵衛欲造_レ船請_二金數十兩於我_一、不_レ許、乃與_二兩_一以資_二費用_一、

○八日、安城村山役牧弥平次有_レ科寺入于隆興寺一七日、

○十日、與_二米一斛五斗於_三檜原直右衛門_一、一斛於_下村貞之助_一、以_レ命_二定府_一也、

○十一日、藩士長崎助左衛門及_三役・組頭觀_二諸家之武技_一、師範同_レ前、

○十二日、西町之喜太郎_レ獄、坐_下犯_二法度_一竊竊_中海草_上也、連及責_二訶其父六次郎_一、以下平日不_レ教_二誨其子_一也、

○同日、赦_二羽生次郎_一出_レ寺、

○同日、令_二池田浦喜助納_二科錢一貫文_一、以下因_二西町喜太郎請_二竊買_中海草_上也、

○十五日、赦_二牧弥平次_一出_レ寺、

○十七日、官傳_下可_レ送_二致我足輕長野源助・鯨嶋市次、西之表甚吉同所休五郎、現和村之利三_一之命_上、

○二十日、與_二米一斛八斗於_三故藩士山田市郎左衛門妻_一、先_レ是市郎左衛門獲_レ罪自殺、官送_二致其妻于吾嶋_一以_レ嫁為_レ名、且告_二吾有司_一曰、未_レ嫁之間宜_下年給以_中米一斛八斗_上、

- 同日、下_二詢書_一禁_下盆祭及月忌立_中卒都婆於墓前_上、自_三寺_一以至_三末寺_一示_レ之、
- 二十二日、與_三俸田_三表所於濱津脇浦之水手熊太郎_一、
- 二十三日、以_三米一斛八斗二分_一與西村七左衛門・田上盛助・三好藤吉・宮浦源七・柳田直次郎_一、以_レ令_レ撞_三矢倉臺之鐘_一也、
- 二十四日、莖永村百姓甚助有_レ罪_下獄_二二百日_一、
- 二十五日、置_三鐘樓於矢倉臺_一、為_二官衙出入之規_一自_三今日_一已牌_一始撞_レ之、
- 二十九日、羽生半左衛門習_三禮容於本源寺客殿_一、長崎助左衛門及_三役觀_レ之、
- 同日、以_三西村直之進時義_一為_二側用人_一、
- 檢_三察一向宗_一事聞_三于_二官_一、
- 令_三安城村之嘉藏納_二科錢二百文_一、以下_二因_三覺人又木喜兵衛請_一鋸_レ解其所_レ伐之禁木_上也、
- 令_三牧川之辨吉納_二科錢十貫文_一、嚮借_三名於長太郎_一伐_三禁木_一以_レ造_レ舟、故及_レ茲、

- 令_三牧川之休市納_二科錢一貫四百文_一、以下_二因_三辨吉請_一竊伐_中禁木_上也、
- 令_三安城村之直右衛門納_二科錢一貫六百文_一、以下_二因_三辨吉請_一竊伐_中禁木_上也、
- 實_三訶安城村之山役周之丞_一、以下_二山役而不_レ知_西辨吉伐_レ禁木_甲也、
- 令_三下西之表孫市納_二科錢三百文_一、岩次百文、仙太郎・惣七共一貫五百文、岡右衛門妻八百文、故次後右衛門妻七百元、故太吉妻一貫文、以_三私鬻_二海草_一也、
- 令_三下西之表牧瀬休之助納_二科錢九百元_一、吉留權藏八百文、遠藤七郎百文、牧瀬矢太郎四百文、百姓仙太郎八百文、以_レ伐_三禁木_一也、
- 官_下詢書_一命_レ繕_三兵器_一、以下_二近來蠻船往_三來江戶及長崎_一、而有_中如_レ觀_三觀本邦_一者_上也、
- 六月二日、先_レ是上妻小左衛門定直・西村甚五右衛門時哉赴_三油久村_一、修_三治水損場_一、今日時哉來告曰、油久村水損甚多矣、雖_下近日舉_二役夫_一

- 修治之上以三歲凶食乏一人皆飢餓而不勝用、恐
 遂母成_レ功乎、請_レ發_二倉粟_一出_二米五石餘_一、以賑_二
 貧之於村民_一、而後令_レ之得_レ竭力矣、乃許焉、
 ○五日、長崎助左衛門巡_レ境、家老前田十九郎宗恭
 ・物奉行平山新兵衛友益・用人渡邊早右衛門兼重
 ・郡奉行西村藏多・山奉行緒方善藏從焉、
 ○十二日、以_二川内熊右衛門_一為_二船奉行兼町奉行_一、
 ○同日、以_二普請奉行上妻源左衛門_一為_二軍役方掛_一、
 ○十五日、與_二俸田七斗六升五勺八寸所_一及宅地七升
 所於鋸匠平瀨與平多、
 ○同日、與_二俸田三斗所於旗下道具番鮫島善次郎_一、
 同_二三斗所於坂井村道具番黒坂三藏_一、
 ○同日、與_二俸田二石所於納官村道具番春田源之
 進_一、以_レ繼_二其父伊右衛門_一也、
 ○十七日、長崎助左衛門及三役與_二錢五百文於野間
 村鎌田彦左衛門_一、褒_レ善射也、
 ○二十五日、與_二金四兩於西之表之村人_一、褒_レ當_レ
 架_二橋於鷗川_一村人請而就_レ役也、

- 同日、長崎助市・馬場助之進來、省_二助左衛門
 疾_一、
 ○二十七日、按_二察一向宗_一、事聞_二于官_一、
 ○同日、以_二遠藤增右衛門_一為_二近習見習_一如_レ舊、
 ○二十八日、與_二米二斗於飛船船長仙太郎及其水
 梢_一、褒_レ向奉_レ命赴_二覺邸_一未_レ踰_二七日_一而_レ帰_上也、
 ○二十九日、令_二羽生岡右衛門屏_一居私第_一、以_二其
 行有_二不正之說_一也、
 ○晦日、西之表庄官獻_二西瓜一臺・錫一雙_一、賀_二夏
 越_一、
 ○同日、以_二僧智遠院_一為_二本源寺監司_一・大會寺住
 職_一矣、
 ○七月朔日、與_二金二兩於渡邊早右衛門兼重_一、以_レ
 命_二急旅_一也、
 ○四日、長崎助市・馬場助之進帰、以_二助左衛門疾
 癒_一也、
 ○五日、大船之臺木一本漂_二来于洲崎浦_一、締方横
 目_一失_レ姓_一及吾横目_一失_レ姓_一往_二檢_一察_二之_一、

○七日、奉_二日深公戎服於廣間_一、家老_{失姓}名_{失姓}拜_レ之、

○八日、名代家老上妻才次郎宗敏詣_二大會寺_一、祭_二先祖・宗祖及戰死之靈_一、

○十三日、平山村庄官羽生十兵衛_同

村横目上妻勇角寺_二入于本隆寺_一日數_二日_一、坐同村百姓彦右衛門・庄藏未_レ納_二去歲之租稅_一而死、十兵衛・勇角不_レ白_二之吏_一也、

○同日、名代家老上妻小左衛門定直詣_二慈遠寺_一、祭_二先祖及戰死之靈_一、

○十四日、名代家老岩川右衛門時行詣_二本源寺_一、祭_二宗祖_一、

○十六日、名代家老前田十九郎宗恭詣_二本源寺_一、祭_二先祖及戰死之靈_一、

○同日、東西兩市始於_二城下_一奏_二祭禮樂_一、後以為_レ例_{先是奏之、於廣間庭}、

按_二察切支丹宗門_一、事聞_二于官_一、

○十八日、助左衛門疾愈而復巡_レ境、家老前田十九郎宗恭・物奉行平山新兵衛友益・用人森休兵衛友

習・郡奉行遠藤壯兵衛・山奉行緒方善藏從焉、

○同日、赦_二河内覺右衛門僕_一名_{失姓}出_レ獄、

○二十一日、與_二棒田一斗所于上西之表中間長野金四郎_一、

○二十六日、兵具奉行羽生岡右衛門寺_二入于本因寺_一三年、坐_レ令_レ住吉村道具番長野休助詭稱_レ疾而辭_レ職、且平日有_レ不正之行_一也、

○同日、琉球國奧武親方贈_二書於羽生仙藏_一、開_二于左_一、

○四四七 奧武親方朝昇書狀

一筆致啓達候、去歲年頭使者織名親方乘船并春楫船種子嶋汐掛之節、挽船差出方其外段_レ預御厄害候由、國主被承之忝被存候、右御禮私より可申入旨、此節三司官より申越有之候、隨而練蕉布二反被遣之候、恐惶謹言、

奧武親方

七月廿六日

朝昇誌

羽生仙藏様
人々御中

- 二十七日、兵具奉行河東仲助寺_三入于滿徳寺_一、
種子嶋平藏・河内覺右衛門寺_三入于妙泉寺_一各七
日、嚮岡右衛門欲_下令道具番休助辞_上職也、乃
謀_三之三人_一、三人皆領、以_レ故連坐、
○同日、琉球國奧武親方贈_三練蕉布各二段於船奉行
羽生仙藏・上妻太代・宮浦藤九郎・美座源助・野
間仲左衛門・平山佐一郎、横目種子島友之助政教
・西村十左衛門時弘_一、又贈_三下布各二段於足輕
落合權右衛門・年行司榎原彦太郎・船長松下仲
吉_一、事見_下於贈_三仙藏_一書_上、
○同日、山奉行平山仁左衛門寺_三入于遠妙寺_一百八
十日、坐_下以_三山奉行所杉山簿_一為_中古紙_上也、
○二十八日、諸士請_下種_三甘庶_一以_レ納_三之府庫_一、以
復_中嚮所_レ取之半高_上也、
○同日、以_三馬役遠藤健太郎・八板藤兵衛_一為_二軍役
方掛_一、

- 同日、普請奉行美坐平兵衛為_二軍役方掛_一、
○同日、令_下家老羽生太左衛門能俊・前田十九郎宗
恭、物奉行西村源左衛門時民・種子島友右衛門時
大、與_中聞本源寺之事_上、
○同日、令_下家老上妻小左衛門定直・岩川十右衛門
時行、物奉行平山新兵衛友益・前田新五兵衛宗誠
與_中聞慈遠寺之事_上、
○同日、令_下家老美座十郎右衛門時敏・上妻才次郎
宗敏、物奉行知覽才兵衛行修・上妻七兵衛宗徳
與_中聞大會寺之事_上、
○八月朔日、慈遠寺・大會寺獻_三中紙各二束_一、又
與_三同品于_二箇寺_一、
○二日、與_三青銅各二百足於安納村鎌田金兵衛・油
久村羽生金太左衛門_一、各褒_下自_二壯年_一為_二庄官及
横目_一而能治_中村人_上也、
○同日、中西之表庄官山崎半太寺_三入于妙昌寺_一日
數三七日、坐_三家人火_二古園之松林_一也、
○同日、平山村横目上妻伊三太寺_三入于本妙寺_一、

山口貞之丞寺入于本善寺、山口勝次郎寺入于本因寺、各二七日、罪状同于上妻勇角・羽生十兵衛、

○七日、令一向宗流人市次自西之村一徒居納官村、以能製紙也、

○同日、大風、米倉小拂所一軒・枅取居宅一軒・會所一軒、現和村人家五十四軒・梵宇一軒、國上村五十八軒、住吉村五軒、安納村三十一軒、上西之表二十五軒、中西之表五軒、安城村三十八軒、古田村十一軒、莖永村四十九軒、下中之村四十一軒、増田村六十三軒、油久村二十五軒、野間村五十軒、府本十四軒、上中之村三十五軒、上里村四十軒、島間村二十七軒、西之村三十軒、坂井村六十二軒、平山村四十五軒、納官村十四軒、皆頽焉、
通計七百三十二軒、

○同日、覺邸之内塀外塀皆壞焉、

○大風傷稼、租額減者二千四百四十四斛八升六合六勺七撮所、潰堤六、潰溝三十五所、

○同日、由池田浦漁人之請、自大長瀬以北為池田浦漁場、

○九日、破船一艘漂来于島間浦、締方横目羽田宗之進・松元喜右衛門及吾横目^{名姓}往檢察之、召船子問以下船主與船子之死生、曰、船主為加籠枕崎之丸田屋主人、而溺死者十四人、常吉・與助・權六・權次郎・三四郎・八市・善吉・長九郎・袈婆市・清四郎・權政・吉四郎・新太郎是也、而得活者則我輩六人耳、佐四郎・市太郎・佐吉・仁太郎・仁助・長太郎是也、聞状于官、

○十日、令屋久津之彦八納科錢一貫文、坐竊買海人草也、

○同日、令熊野浦之五郎左衛門納科錢一貫文、事同于彦八、

○十三日、長崎助左衛門帰、

○十五日、古田村蓮勝寺獻神酒・棗盛、

○十九日、檢損地、住吉村十二賦不入賦田百

四十三區、莖永村百七十五賦不_レ入_レ賦田八百十區、平山村百十八賦不_レ入_レ賦田九百二十三區、増田村四十七賦不_レ入_レ賦田三百八十區、上里村九賦不_レ入_レ賦田七十六區、上中之村四十七賦不_レ入_レ賦田六百九十四區、下中之村百十賦不_レ入_レ賦田三百八十七區、西之村十三賦不_レ入_レ賦田百六十八區、都為_二大風_一所傷也、

○廿二日、赦_二山崎半太_一出_レ寺、

○廿三日、與_二俸田各十五斛於森休兵衛友習_一・西村直之進時義_一、以_レ命_二側用人_一也、與_二同十五斛於國上只次・遠藤增右衛門_一、以_レ命_二近習役_一也、

○廿四日、赦_二平山村横目上妻伊三太_一・山口貞之丞・山口勝次郎_一出_レ寺、

○以_二宮浦藤九郎_一為_二側用人_一、前田平二郎為_二船奉行_一、

○西之表足輕長野源助・現和村百姓利三次禮自官所召者也病死、聞_二之于官_一、

○以_二市來喜兵衛_一為_二小姓_一、

○九月九日、令_二森休兵衛友習讀_二法章於廣間_一、
○同日、與_二金各百足於中西之岩原彦七_一・荒木休五郎、下西之中原諸次郎_一、褒_二多年勤_一勞于砂糖製_二也、

○同日、與_二俸田一斗五升所於安納村中間山口善吉_一・同一斗五升所於納官村中間松下休市_一、

○十一日、與_二米六斗於安納村之村人_一、褒_二去歲當_二飢饉_一救_レ人之多、又常務_レ農也、

○同日、與_二木綿一段於莖永村百姓善九郎_一、褒_二常以_レ務_レ農雖_二凶歲_一不_レ請_二飢飯_一、且至_二粗稅公役_一未_レ嘗有_レ負也、

○同日、與_二青銅各百足於安納村日高覺左衛門_一・住吉村深田仁助・納官村孝太郎_一、褒_二多年為_二曇夫長_一能製_レ糖也、

○十三日、與_二金百足於河野主右衛門_一、以_二多年勤_一勞于鉄山方_一也、

○十五日、得_二江豚於石寺濱_一、

○十六日、與_二留主居_一・側用人米各三斛六斗、近習

三斛、小姓二斛及錢六貫五百文、以下在此職者屢役于覺邸、而費用多於他職也、

○二十四日、家老・物奉行・高奉行相議取今歲大山野之租四分之一、以下大風傷禾也、

○二十五日、以上西之表足輕榎本新藏為母夫人之僕也、

○同日、以納官村足輕徳永平太郎為夫人之僕也、

○同日、現和村犀川太郎次縊死、蓋以下盜小山田久賀右衛門所劫之稻、而事得發覺也、締方横目山下源右衛門・上原仲左衛門及我横目名失姓往檢察之、聞于官、

○廿八日、與金二千五百足於檜原直右衛門、二千足於下村貞之助、以多年為覺邸定府筆吏也、

○同日、安城村庄官鮫島新助・横目鮫島良四郎寺入于本成寺、坐長崎助左衛門巡境之日出不遜之言也、

○十月朔日、令三階堂源太夫代吾請官以產物償債、事開于左、

○四四八 二階堂源太夫願書

種子嶋彈正殿藏方難澁成立、連借銀差屯候付改革向之蒙仰難有次第、何篇精微被附手を候得共、大坂表借銀元濟之期至り兼、利足被追詮立兼候處より、御内意申上候趣御座候處、別段之御吟味を以御銀三百貫目於大坂御取替被仰付、是迄者借銀返弁相濟難有仕合奉存候、右三付而者嶋元より繰登候砂糖御物御計を以御拂立被下、年賦返上之賦御座候處、近来嶋元風災等而出来高及減少、其上位も不宜直段下直仕候付不容易候故、御取替銀返上之儀尚又被及心痛候間、年々繰登候生蠟其外諸産物之儀とも右返上三差向、砂糖同様御物御計三而御拂立被仰付被下度、左様御座候得者直成も相進、年符返上之儀も無滞相弁申度念望与存申候間、願通御免被仰付被下度奉願上候様彈正

殿被承、此段私より申上候様、此等之段被仰上可被下儀奉頼上候、以上、

二階堂源大夫

戌
十月

○同日、與_二上下各一具於日高杉右衛門・美座源助・日高嘉兵衛・西村藏多・遠藤壯兵衛_一、以_三多年勤_二勞於勸農方及諸務_一也、

○同日、與_二金百疋於慈遠寺寺役人宜圓院_一、以_三其志有_二可_レ嘉者_一也、

○同日、按_二察一向宗_一、事聞_二于官_一、

○六日、赦_二安城村鮫島新助・鮫島良四郎_一令_レ出_レ寺、

○同日、赦_二島間浦之清之丞・市兵衛・太市、濱田浦之太郎右衛門_一先是有罪禁旅行

○九日、名代家老羽生太左衛門能俊詣_二于本源寺_一、祭_二宗祖_一、

○同日、安城村長野藤九郎・武田藤次郎寺_二入于本

成寺_一、坐_レ長崎助左衛門巡_レ境之日出_中不遜之言_上也、

○十日、與_二金百疋於柳田善兵衛_一、以_レ當_二長崎助左衛門疾_一省護之甚厚_上也、

○十一日、名代家老羽生太左衛門能俊詣_二于本源寺_一、祭_二宗祖_一、

○十二日、令_二納官村足輕徳永吉之丞納_二科錢五百文_一、坐_レ下因_二増田村仙之丞請_二運_中致其所_レ伐之禁木_上也、

○十三日、名代家老羽生太左衛門能俊詣_二于本源寺_一、祭_二宗祖_一、

○十六日、赦_二長野藤九郎・武田藤次郎_一令_レ出_レ寺、

○二十二日、令_二島間浦之清四郎納_二科錢三貫文_一、坐_レ私買_二増田村仙之丞所_レ伐之禁木_一也、

○同日、責_二訶納官村山役徳永良右衛門_一、坐_レ不_レ禁_二止仙之丞伐_二禁木_一也、

○同日、責_二訶納官村横目徳永仲右衛門_一、坐_レ不_レ

禁_レ止仙之丞伐_二禁木_一也、

○同日、洲之崎辨次郎娘_下獄、坐_三鋤_二取山下寬齋所_レ植之甘藷_一也、

○二十六日、以_二上妻新藏・美座三十郎_一為_二組頭、

西俣盛之助無役番頭、西村甚五郎・種子島鉄五郎納戸奉行、日高惣次郎兵具奉行、前田平八山奉行、阿世知仲五郎・河内十助馬役、

○同日、以_二榎本驢齋_一為_二組入士_一、賞_下學_三醫於京撰_二而能療_上人也、

○同日、以_二美座源助_一為_二改革方掛_一、

○二十七日、上里村功才與_三太・彌吉_下獄、以_レ有_二不正之事_一也、

○同日、上里村横目有留榮助寺_二入于本隆寺_一、同村作見舞羽生五右衛門寺_二入于本隆寺_一、以_レ有_二不正之事_一也、

○二十八日、以_二用人森休兵衛友習・山奉行緒方善藏_一為_二改革方掛_一、

○與_二金二百疋於西村源左衛門時民_一、以_レ受_二銃傳

於末川氏_一也、

○以_二緒方吉兵衛_一為_二馬役_一、

○與_二金二千疋於鮫島孫右衛門_一、以_二多年為_二麿邸定府留主居_一也、

○下中之村横目上妻紋十郎・遠藤勝右衛門寺_二入于善福寺_一三十七日、瀬戸口三吉・羽生勘七・羽生勘吉各科仕三十七日、村人羽生嘉右衛門・才河周次郎・上妻仲兵衛・有留政吉・柳田彦太郎・柳田喜太郎・瀬戸口貞太郎・上妻三右衛門・才河仁平太、百姓太惣次・與三次・彌兵衛・休五右衛門・六七・善七・嘉助・喜次郎・彌吉・利助・仲平・伊右衛門・彌七科仕各三十七日、謂_下休市家人犬神成_上崇而逐_レ之、故及_レ茲、

○前年以_二府庫空耗_一收_二世祿之半_一、謂_二之改革中_一、因_下恐特役_二麿邸_一者乏_上于旅資_上、乃自_二家老_一至_二賤隸_一給_二俸銀_一各有_レ差、至_レ是始復_二其祿_一如_レ故、雖_レ然俸銀猶_二改革中之時_一家老等連署曰、如_二諸司_一則賜_二俸銀_一固可矣、至_二臣等_一平日已受_二

役料地一、雖_レ祇_レ役之日_二亦何叨_二俸銀_一之為乎、
請上之不_レ許、

○頒_二自手筆於家老_一、開_二于左_一、

○四四九 申渡書

改革之儀者精微_二吟味を尽候様申渡候得共、大坂
表借財年、利銀_二被追候故、改革筋詮立兼候処よ
り願立趣有之、御銀三百貫目_三朱之利付を以御取
替被仰付、借財之返弁者相調候、右之返上者出来
砂糖繰登相濟賦_二而、斤高相殖位も宜敷成候様、
其外諸篇之下知相加度、長崎助左衛門事御暇相
願、委細申含_二而為渡海上國之上島元取扱振承
届、逐一尤之吟味_二而候条、助左衛門申渡候通已
来被相行候様、猶又可得其意候、然者當夏之風災
端の年府之返上_二茂故障相成候儀、不容易御取替
銀無申訳事ながら、天災無致方不得止、當年上納
高式拾貫目_二而相濟候様願出、何れ殘銀年限中皆
尾不相成候而不叶金筋候条、掛御役、江茂猶吟味

を尽候様達置、此段申渡候条、屹与趣意相貫可致
精勤候事、

○十一月十二日、與_二俸田一斗所於下西之關人_一大瀬
三之進、同一斗所於門脇十太、同一斗所於牧瀬善
之進、同一斗所於土田新之丞、

○十六日、以_二廣瀬平太夫_一為_二勝手方掛_一、

○令_二下村要_一製_二吾換兜_一、

○四五〇 兜拵書

御拵書

御兜

真々之鍛三重練

一大圓山筋拾六間

一塗無潤蠟色

一八幡座五重ニシテ

一天空赤銅

一小いら金滅金

- 一茄子實銀
- 一透菊赤銅
- 一高菊金減金
- 一高勝之鈺金減金
- 一響之穴金減金
- 一前後左右四方白銀
- 一腰巻涯八双金物金減金
- 一留付之鈺赤銅銀之小いら
- 一品垂赤銅ニシテ銀之小いら
- 一茄子實金減金
- 一筋拾六間之中ニ金の星
六ツツ、銀の小いらしき
- 一御前ニ品垂二本
- 一御後式本左右共式本ツ、
- 一高勝の緒本紅唐打
- 一御眉庇上代流綿包
- 一伏組五色
- 一小櫻鈺金減金

-
- 一拔立金減金ニシテ花石目
 - 一御立物鈺形の中ニ椰子
 - 一赤銅御紋三ツ附
 - 一三光の鈺菊形ニシテ金減金
 - 一覆輪金減金
 - 一留りの鈺同断
 - 一御鞆中饅頭五枚當世小札
 - 一御吹返し新田流式枚ニシテ綿包伏組
 - 一小櫻鈺中御紋金減金本紅
 - 一真之縫
 - 一去配ママの鈺金減金銀小いら
 - 一威毛真紺白紫本紅五色啄木
 - 一塗御鉢二同
 - 一菱之板真之縫
 - 一浮裏緋縮緬百重廻指
 - 一御忍の緒緋縮緬練くけ
 - 一根緒四所五色丸打
 - 一御鞆之裏金磨

○廿三日、上中之村足輕河野權助^レ狂^レ縊死、締方横目山下源右衛門・上原仲左衛門及吾横目渡邊早右衛門兼重・西村田代時和往檢^レ察之、事聞^ニ于官、

○廿八日、與^ニ俸田二斛五斗所於西村藏多^一、以^レ有^レ所^レ思也、

○廿九日、友野市助遣^ニ書於長崎助左衛門^一、其書関^ニ係吾府庫之事^一、因記^ニ于左^一、

○四五 友野市助書狀

種子嶋彈正殿藏方難渋成立、改革向被蒙仰難有被奉存、精微被手を付候得共、大坂表借銀^(返力)元濟之期ニ至兼、御内意申上趣御座候処、別段之御吟味を以御銀三百貫目於大坂御取替被仰付、借銀返弁相濟難有奉存候、右返上^ニ方^ニ付而者年、繰登候砂糖御物御計を以御拂立被下、年々七拾五貫目ツ、年

符返上被仰渡置候処、近年嶋許凶作勝、其上當年無類之大風ニ而黍作相痛、御免之斤高者勿論位合も相劣可申候、就而者返上之銀高不足仕可申、近比恐多奉存候得共、當年上納之儀者廿貫目元銀之内江返上被仰付被下度、尚又来夏出来砂糖手厚吟味も仕置候得共、不足銀五拾五貫目之儀者、四ヶ年目皆納之節ニ上納被仰付置度、二階堂源太夫より願之趣有之候、

種子屋敷藏方難渋ニ付、大坂借銀返上方難被行届趣を以、二階堂源太夫殿より被願出遂披露置候処、別昏之通將曹殿御付紙を以昨日被仰渡候間、各方江向差越候付、源太夫殿江其段可被申出候、左候而大坂御留主居方者拙者證文を以申渡置候間、此段申越候、以上、

十一月廿九日 友野市助

長崎助左衛門殿

○十二月三日、赦^ニ下中之村上妻紋十郎・遠藤勝右

衛門_一出_レ寺、

○四日、責_三訶河野佐助_一、以下普請方之簿籍不_レ正也、

○六日、下中之村庄官遠藤勘左衛門、横目遠藤武十郎・才川源十郎寺_三入于善福寺_一、坐_下黨_二村人_一而逐_中休市_上也、

○十三日、上妻源左衛門獻餅、如_レ例、

○廿日、與_三真米_二斗於三箇浦水梢_一、褒_レ當_三大風之時_一各竭_レ力不_レ使_下港口繫船_一至_中覆没_上也、

○同日、褒_三詞下村直之丞・牧藤五郎善_二鎗術_一、大牟礼良七善_レ劍及射、下村源助・下村三太郎・名越船右衛門善_レ劍、吉良太郎善_二鎗術_一、且勤_二學業_一矣、

○同日、褒_三詞種子嶋三七・遠藤健太郎・羽生彦八郎・平山一右衛門・牧平七・鶴田新次_一、以_三各勤_二學業_一也、

○同日、以_三兵具奉行日高勇太郎_一為_二軍役方掛_一、

○同日、赦濱津脇浦藤太郎・熊野浦市五郎・濱田浦

萬吉_向有罪所出獄、更禁旅行三年、

○同日、配_三徒一向宗流人市助_一、平山村住居之者也於安納村_一、以_レ有_二不正之行_一也、

○廿二日、與_三米一斛八斗於前家老前田希仙_一、以_レ為_二養老之資_一也、

○廿四日、西村菊千代元服、命俗字城之助獻賜如_レ例、名代家老上妻才次郎宗敏加冠、物奉行西村源左衛門時民侍_レ席、

○廿七日、赦_三辨次郎娘_一出_レ獄、更為_二竹川塩戶役婢_一一年、

○同日、出_レ令禁_三郷土買_二足輕之祿地_一、

○同日、三箇寺・廿人家・鍛治賀歲暮獻上、如_レ例、

○以_三西村惣次_一為_二改革方掛_一、

○以_三西村蔵多_一為_二組頭_一、高奉行職如故

○歲暮、規式、如_レ例、

嘉永	廿四代
四年	六十七
種子島家譜	
久珍	

- 嘉永四年辛亥正月元日、國上村獻「野老」、
- 二日、國上村獻「介族」、現和村庄司浦獻「鯁」、
- 同日、覽「馬」、名代家老羽生太左衛門能俊、馬役梶原貞次、
- 同日、八寺進上、如「例」、
- 四日、上之郡庄官・小觸進上、如「例」、
- 五日、先「是府庫空耗因令」有職者納「其俸米」、

- 至「是復」之如「故」、因與「米一斛於物奉行見習種子島五郎衛門政義、六斗於勝手方掛日高嘉兵衛、六斗八升一合餘於政府筆吏羽生平右衛門」、
- 六日、初狩、組頭上妻新藏定理・森周右衛門友習・美坐三十郎時資、山奉行國上只次・緒方善藏・日高勘太郎、夕狩場、名代家老前田十九郎宗恭・物奉行西村甚五右衛門時哉・用人種子島友之助政教、西之表庄官進上、如「例」、
- 七日、中之郡・下之郡庄官進上、如「例」、
- 十一日、甲冑之賀、如「例」、
- 同日、蓮勝寺獻「神酒・糗盛」、
- 同日、在郷諸寺進上、如「例」、
- 同日、軍陣・温坐祈念、如「例」、
- 同日、的始、名代家老羽生太左衛門能俊・用人時任丈左衛門時喜、射手一番西村善太郎、二番源次、上妻弥七、左衛門日高伊右衛門、三番羽生惣太郎、
- 十六日、與「米六斗於古田村庄官遠藤半左衛門」、賞「能勸」農事「而化」民俗「也」、

○廿一日、與_三祿地一石於種子島權之丞、嚮以_三支流之故_二歲給_三米一石_一、至_レ是以_三祿地_一代_レ之、且命曰、勿_レ賣矣、如有_レ賣_レ之則當_二籍收_一焉、

○廿八日、岩河勇八郎・同清助・同傳藏初謁、獻_二征矢_一、羽生十助・日高勝右衛門・古市左右衛門各火繩、

○國老末川近江久平贈_二阿蘭陀船之圖一軸・人物之圖一軸及書_一、

○二月二日、加_二與俸田各一斗一升五合於納官村之團人春田直太郎・松下貞市_一、

○同日、以_二上西之表長野甚四郎_一為_二團人_一、與_二俸田一斗五升所_一、

○同日、赦_二平山仁左衛門_一禪寺入宇 妙昌寺

○同日、太守公_{齊興}辭_レ位、少將公_{齊彬}襲_レ統、

○同日、太守公及 宰相公手書之令、開_レ左、

○四五二 島津齊興達書

家老中江

(島津齊興)
今度我等隱居、(島津齊彬)修理太夫家督付而者、政事向者先規之通_二而、猶又萬端相勵、各職分相守精勤可申候、

右之通國中末、迄茂可申付候、

○四五三 島津齊彬達書

今度

(島津齊彬)
宰相樣從御願御隱居、(島津齊彬)我等江家督無相違被 仰付

候、領國中輩專重 公儀之御政道、萬端可相慎之、國家之仕置、先規之通申付候条、不致忘却堅固可相守者也、

(A.A.)
嘉永二年二月二日

○三日、復_二俸田十五石於家老美坐十郎右衛門時敏_一、先_レ是府庫空耗、諸士祿地每_二一石_一益_二賦米二升_一、時敏以_二世祿固厚_一辭_二其俸田_一、頃日獨_二其重租_一、故時敏亦與_レ之、如故、

○四日、住吉村深川之亡七之丞宅火、人馬・手札

無恙、故不聞于官、

○五日、與_二祿地三石於肥後渡前、初以_二支流之故歲給_二米五石、今與_二祿地一以代_レ之、且命曰、必勿_レ賣、如有_レ賣_レ之則當_レ籍取焉、

○十一日、現和村配所流人七兵衛病死、聞_二之官、

○同日、與_二赤米二斗於三箇浦水手中、自_二本月三日_二至_二四日_二風浪大起在港諸船幾覆也、水手等能護_レ之遂得_レ全、故及焉、

○十二日、與_二金子二百疋於住吉村村吏及庶民、嚮使_二家老前田十九郎宗恭築_二路傍之堤、庶民先期既具_二竹木_二及_レ期亦服_レ勞不_レ怠、役_レ省而功速成、故賞_レ之也、

○同日、與_二金子三百疋於現和村村吏及庶民、嚮伐_二楫材于安城山、而現和村庶民運_レ之、而不_レ受_二賃米錢、故及茲、

○十五日、赦_二上里村鄉士有留榮助・羽生五右衛門_二令_レ出_レ寺、百姓與_二三太・彌吉令_レ出_レ牢、

○同日、上妻源齋・河野佐七郎・長野壽右衛門初調、各獻_二火繩、

○十六日、與_二金子二百疋於西之村村吏及庶民、去夏潮風破_二壞田地之封堤、村吏不_レ乞_二役夫_二而庶民自修_二治_レ之、故賞_レ之也、

○廿五日、使_二金藏吏國上助之丞・八板十次郎屏居待_レ罪、往年濱田盛右衛門・山崎筑右衛門為_二金藏吏_二也、會有_二金幣・銀幣改鑄之令、於是舉_二島中之金幣・銀幣_二呈_二于_二官、中有_二惡金銀二十三兩二步二朱、官乃見_レ返_レ之、使_二金藏之吏藏_レ之、頃日欲_レ使_二下村要志製_二吾甲冑、乃以_二其惡金銀_二作_二金具、使_二金藏吏出_レ之、吏曰、無_レ之矣、乃命_二有司_二召_二盛右衛門_二鞠_レ之、答曰、交代之日屬_二之後役十次郎_二助之丞、乃又召_二十次郎_二助之丞_二問_レ之、答曰、二十三兩餘則吾曹不_レ之知也、纔受_二三六兩計_二耳、而分_二取_レ之云、又問_二盛右衛門、所_レ言如_レ前、因檢_二其簿書_二則無_レ簿書以可_レ證矣、而其言紛々無_二確據、

助之丞・十次郎亦私_二六兩許_一者必矣、由_レ是二十
三兩二步二朱悉使_レ助之丞・十次郎・盛右衛門
償_レ之、

○廿六日、三役・組頭_二武藝於廣間之庭_一、師家
如_レ例、了而各褒_二詞之_一、

○廿八日、與_二米三斛於側用人西村藏多時措_一、初
有_レ所_レ思益_二與俸田五石_一、而令_レ役_二于本府之
邸_一、既而會諸士之祿地及俸田悉収_二其半_一、而時
措俸田亦及焉、時措嘗奉_レ職能勤、故與_レ之以為_二
旅資_一、

○廿九日、以_二知覽才太郎_一為_二扈從_一、

○徙_二西之村配所流人隨音于野間村、莖永村配所流
人清吉于油久村_一、而聞_二之于官_一、

○官_二蠲_一重租_二等、事開_二于左_一、

○四五四 藩達書

御所帶方御不如意_二付、去寅年御改革被仰出、諸
郷御取締_二而、江戸其外諸所詰居候面_一、御賄料

・御合力銀等被下方之依多少引方被仰付、且知行
高并御役料高重出米被仰付、其外三割引等被仰付
置候得共、當時一統及困窮、殊_二御軍役手當向追
被仰出候付、此節別段厚思召を以御賄料引方并
三割引等之儀、都而當正月より被成御免、重出米
之儀當亥秋より被成御免候、左候而御改革御取扱
之儀心弛無之、掛之御役、猶又精勤いたし候様被
仰出候、

右之通於江戸被仰出候段申來候、難有次第候
条、各可被奉承知候、

○以_二森休兵衛友習・西村十左衛門時弘_一為_二側用
人_一、

○點_二檢丁夫・病夫・有職者_一聞_二于官_一、如_レ例、

○按_二察宗門_一聞_二于官_一、如_レ例、

○官使_二吾家老前田十九郎宗恭納_一罰錢一貫五百
文_一、嚮有_二御船手附之間世田平兵衛者_一詐称_二吾
家臣笹河八太郎_一而乞_二除證文_一、宗恭信_レ之而與

焉、故及茲、

○以遠藤增右衛門_一為二世小頭格近習役及山奉行_一、以下先是久為小姓_一、而能奉其職也、

○以林次右衛門_一為二世組士_一、久為調菜役_一、而以數役_一于覺邸也、

○三月三日、與艾餅於三寺_一、慈遠寺獻同品_一、

○同日、西村九郎起讀法章_一、

○同日、西之表庄官賀瀬引進上、如例、

○七日、留守居宮浦藤九郎重祇役於覺邸_一、因與

俸田七石五斗_一、

○十三日、使下岩屋口浦之甚太納科錢三貫文上、

停_一旅行三年、且取其所買牛皮_一、同浦之十吉

科錢一貫文、停_一旅行一年、住吉浦之與吉科錢

二貫文、停_一旅行二年、三人相議欲竊買_一牛皮、

以到本府_一而鬻之、遂不鬻而歸焉、以

姦意_一、故及茲、

○十六日、赦囚者洲之崎浦之辨次郎_一、更停_一旅行三年、

○十八日、有留豐次郎令_一寺入于日輪寺_一三七日、

德永小弥太于本隆寺_一三七日、且禱_一內橫目職、

上妻覺右衛門于妙昌寺_一二七日、高尾野甚五郎

于清淨寺_一二七日、下西之表郷士遠藤金右衛門

于滿德寺_一七日、向釣大廣野洋_一寄舟于岸而

上陸、豐次郎竊伐大廣野人所植甘蔗_一、以與

諸衆_一皆受而喫之、小弥太特為內橫目_一而不

之制_一、以故罰之差重、

○十九日、以山奉行中田宇平太_一日高勘太郎_一為

柞灰山方掛_一、

○廿七日、禁錮西村田代時和_一令_一寺入于妙泉寺_一

七日、嚮欲野間村_一納官村競_一角力_一以歲凶且

租稅未_一辨_一之、故止_一之、而田代與_一締方橫目_一

行而私許_一之、連及西村九郎時起_一寺入于滿德寺_一

七日、時起亦自_一島間藏_一行而勸競_一之、共為_一橫

目職_一當止_一之也、而却勸_一之、故及茲、

○廿八日、三役_一組頭閱_一知覺才兵衛行修_一西村源左衛門時民門人之銃術于大野崎銃場_一、了而褒

詞之上、

○廿九日、以下村十郎為二世小頭格近習役及馬役、以下近侍于我而能奉其職也、

○納三狩之鹿皮一枚于官、

○四月一日、濱田盛右衛門自殺、締方横目田強左衛門・仁禮覺太夫、吾横目渡邊早右衛門兼重往檢之、白三状于官、

○二日、西之表百姓甚吉病死于本府下町會所、

因官命令瘞其屍、

○三日、三役觀射儀于本源寺弓場、日高平次雙箭命中軍勢、賞以鷲羽、組頭の矢二篠、

○四日、島間村之横目柳田喜左衛門寺入于本法寺三年、庄官柳田源太郎于隆興寺、横目鮫島十郎于本蓮寺各一年、且禡其職、先是此輩稱民食不_レ足而乞糶、乃_レ發倉以賑貧之、既而三人擅費之、亦實非庶民之乞也、故及茲、喜左衛門為之渠魁罰之差重、

○六日、平山村之石之久保寺火、人馬等無恙、

○七日、内藤丹後守凶討到、官禁音樂三日、

○同日、水野越前守凶討到、官禁音樂一日、

○同日、赦西村田代時和・西村九郎時起各向有罪寺入某寺

○九日、納官村庄官鮫島甚兵衛、横目古市權左衛門

・鎌田森助・春田休左衛門・同仙左衛門・徳永仲左衛門令寺入于隆興寺、野間村庄官石堂休右衛門、横目石堂伊兵衛・古市半右衛門・日高周右衛門于妙泰寺各三七日、旧冬野間村・納官村

競角力以三歲凶且租稅未辨之故止之、既而西村田代時和・西村九郎時起竊行勸之、此輩知之而不制、故及之、

○同日、使野間村之源七・善之進・安太郎・平市源四郎・甚四郎・源助・庄太郎・休藏・金次郎・金助・林吉・十介・源九郎・新太郎・小吉・伊三次・新助・平市・十介・仁吉・市十郎・孫之進・藤吉・伊藏・甚次郎・周次郎・金介・休之進・善之丞・善吉・五次郎・惣介・權助・善之進・安太郎・勇四郎・勘之丞・甚太郎・岩次郎・勘太郎

・平四郎・甚吉・平助、納官村之彦四郎・岩次郎
・勘吉・彦太郎・万助・貞次郎・甚太・七次郎・
傳次郎・貞市・甚助・吉十郎・榮次郎・矢之吉・
矢吉・榮吉・藤介・伊之吉・武次郎・大藏・直市
・嘉十郎・伊十吉・小吉・喜次郎・勘太郎・甚吉
・吉次郎・利吉・覺太郎・源吉・藤吉・源市・源
之丞・太三次・休市・貞市・喜市・庄太郎・周太
郎・淺次郎・半助・金次郎・直助、各納_中科炭三
俵_上、坐_三其背_レ命而競_二角力_一也、

○十日、平山村之足輕小川七次郎縊_二死于立本山_一、
召_二村吏_一、問_二其由_一、答曰、嚮有_下盜_三百姓紺兵
衛者金四兩三步_二朱_一者_上、人皆意_二七次郎_一、七
次郎亦患_レ之、故自決_レ死者歟云、締方横目及吾
横目渡邊早右衛門兼重・西村田代時和檢、告_二状
于官_一、

○十五日、東町之柳田善兵衛寺_三入于滿德寺_二七日、
先_レ是_下令_レ以金幣易_レ錢者每_二一兩_一受_二謝錢_一實百
文_一、以為_二定額_一善兵衛受_レ之過_レ法、故及_レ茲、

○同日、國老島津石見久浮・島津豊後久寶致_二書於
我_一、而傳_二長崎奉行之令_一、如_レ例、

○十八日、移_二雲之城銃場于鴨女川橋東_一、

○二十八日、西町之樋口十之助令_レ納_二其商船_一、嚮
借_二府庫之米_一而所_レ造也、借_レ米未_レ償而死、故
以_レ之令_レ償_レ之、

○以_二緒方吉兵衛_一為_二二世小頭_一、為_二母夫人之納殿
役人_一、能奉_二其職_一故也、

○以_二岩河作左衛門_一為_二近習役_一、

○以_二中西之表足輕荒木休五郎_一為_二代々郷士_一、賞_下
嚮為_二調菜役及砂糖製之長_一、而能奉_中其職_上也、

○以_二河内百助_一為_二小姓_一、

○先_レ是二月二十七日、將軍家賜_二銀百枚_一・卷物
三十于右大將公、卷物二十于_二太守公_一齊彬、翌
二十八日 太守公登_レ營拜_レ之、復賜_二太刀_一・
馬_一、

○先_レ是三月三日、公以_二虎壽丸君_一為_二儲嗣_一、甫
三歳、自登_レ城賀_レ之、

○國老連名之詢書達_三于我_一、事開_三于左_一、

○四五五 末川久平外二名連署達書

知行高井御役料高重出米、其外三割引等御免之儀者、御改革中不容易御詔合_三而候處、御軍役手當向之儀追々被仰出候付、別段厚 思召を以、此節被成御免候儀、誠_三以難有次第之事候付、先達而申渡置候通、夫々分限_三應し武器等相調候儀勿論之事候得共、萬一心得違等閑之向有之候而者如何之至候条、御趣意之程深奉汲受、分限_三應し武器等相調、御軍役手當屹与行届、急変之節連々御用相勤候様、兼而心掛候儀肝要_三候、此旨向々江不洩様可致通達候、

四月

(島津久宝) 豊後
(島津久厚) 石見
(末川久平) 近江

○官被_レ命_三系荷船來處置之法_一、如_レ例、

以_三廣瀬平大夫_一為_三勝手方掛_一、

○莖永村百姓次右衛門下_三于獄_一百日、以下_三於本府邸_一竊盜_上也、

○五月二日、以_三羽生仙藏能通_一為_三用人_一、日高平次馬役、

○四日、與_三青銅百足于下西之表長吉_一、賞_下為_三生蠟製之長_一能勤_上也、同百足於_三下西之足輕笹河

善吉_一、同百足於_三油久村之西田金次郎_一、善吉為_三蔗見舞役_一金次郎為_三砂糖製之長_一、各有_三勤勞_二也、

○五日、與_三粽各一束于三寺_一、慈達寺獻_三同品_一、

○九日、物奉行上妻七兵衛宗徳以_三厚祿之故_一辞_三俸田_一、

○十日、以_三伊地知吉次郎_一為_三鎧匠_一、與_三俸田_一石_一、

○同日、家老美坐十郎右衛門時敏復辞_三俸田_一、以_三厚祿之故_一也、

○十四日、以_三上妻藤八_一為_三納殿役人兼近習_一、近

侍于母夫人、

○十六日、坂井村足輕上浦市之進為_二道具番_一、與_二

俸田三斗_一、加_二與一斗三升於下西之表道具番古

市勘之丞、一斗於坂井村之古市三平_一、

○二十一日、國上村足輕落合十郎當時為森休兵衛、在本府、給_二

死于本府_一、聞_二于官_一、

○二十二日、與_二俸田六斗一升一勺一撮於匠人池龜

喜助、六斗於熊谷六藏_一、

○同日、太守公賜_二文臺一箇・硯蓋一面・越布二

反於久珍、煙盆一箇・越縞二反於夫人_一、翌日

登_レ城陳謝、

○同日、國上村配所流人駒吉・平山村配所松之助・

野間村配所龜吉下_二于獄_一各五十日、法流人不_レ

許_レ出_二配所_一、駒吉等破_レ禁恣_二徘徊于府下_一甚、

則至_レ為_二博奕_一、故及_レ茲、

○同日、西町之牧瀬仁三郎妻・坂井村足輕日高榮吉

各納_二科錢三百文_一、坐_レ為_二博奕者之主人_一也時榮吉者

宿妙法寺者

○同日、使_下西町之池村新助・同惣太郎・樋口儀

八、東町之柳田市助・名越次郎助・柳田助右衛門

・榎元新太郎・阿世知佐吉、野間村足輕河東安次

郎・岩坪宗助、百姓甚吉、油久村足輕德永長吉・

同平次、本成寺僧感應院・惠心院僧自仙坊、本源

寺僧自性坊、妙泉寺僧知寬坊、蓮勝寺僧行善坊・

熊野坊僧教順坊、慈遠寺僧誠圓坊、納_中各科錢一

貫五百文_上、東町之牧瀬仁三太、西町之濱田芳太

郎・牧瀬善助、中西之表荒木惣十郎、安納村一向

宗流人休助各二貫文、西町之榎元休六・樋口六兵

衛各三貫文、皆坐_二博奕_一也、六兵衛・休六者再

犯也、仁三太・芳太郎・善助・惣太郎博_二奕于私

宅_一也、故罰錢有_レ差、

○同日、東町之池田休太郎下_二于獄_一百日、嚮犯_二博

奕之禁_一、以_レ故屏居令_レ待_レ罪、而以下頃日屢出

為_中商買_上、故及_レ此、

○二十四日、以_二增田村之足輕久木原源次郎_一為_二道

具番_一、與_二俸田五斗_一、加_二與一斗于坂井村之道

具番上妻市兵衛、

○二十五日、訶責下西之表中宿土野間孫市、連及大瀬金太郎以不納田租也、

與染布各一反於東町之鍛治柳田直助・阿世知市郎、嘗直助者製左統一挺以獻於先考_公、_{日悟}

且繕治兵具所之銃數挺以納、市郎者製四文目六分之銃、以獻之、故賞之、

○以市來喜兵衛為祐筆見習、

○六月二日、日高伊右衛門令寺入于淨光寺、德

永小彌太于本隆寺、宮浦半之丞于日輪寺、

長野源角于淨光寺、各三七日、坐欠作人分地之租稅也、

○四日、官吏白塩焔方見聞役渋谷甚十郎・下吏圖師代助・丁夫五人自屋久島來、

○六日、先是慈遠寺借府庫之米二十五斛、因収其禄田以為質、至是每歲令納米二斛以償之、禄田則復與之、如故、

○十日、夷船過府下之洋與陸相去半里許、家老

上妻才次郎宗敏、筆吏羽生平右衛門、異國方掛用

人西村九郎時起・同七郎時義、船奉行某、諸士十人、船功者一人、到古城原而警不虞、已而

夷船遠去諸士解嚴、即繕舟令用人西村田代時和・屬吏羽生辰之丞告諸官、

○十六日、以河内六助為納戸奉行、

○二十一日、足輕鮫島市次郎病死于本府谷山牢、

官命瘞其屍、

○廿四日、返與俸田一石五斗於下西之表庖丁人小

川新左衛門、先是庖人之未為本番役者収其俸田之半、至是新左衛門之男平次為本番役、故及茲、

○同日、収故長野才之丞之禄田八斗四升一合四勺九撮所・羽生七左衛門一合所・知覽小右衛門三升

九合七勺五撮所・桑原周左衛門八升五合六勺五撮所・二十家松下次郎左衛門三石五斗所・匠人柳田仙左衛門一石一斗六合二勺所・船匠大木七助五斗

所・岩坪市次郎二石七斗二合一勺所・桑原次助五

斗所、各以_レ負_二債於府庫_一也、

○廿七日、西町之松下休五郎寺_二入于清淨寺_一三七日、且譴_二責東町之山下寬齋_一、以下各對_二締方横目_一有_レ不正之事_上也、

○廿九日、西町之松下榮太郎禁_二旅行_一、以下嘗赴_二于他邦_一之日有_レ不正之事_上也、

○同日、夏越之式、如_レ例、

○與_二米二斗於下西表作見舞笹河善吉_一、賞_二能称_一其職_一也、

○太守公_{齊彬}下_二命于國中_一、事開_二于左_一、

○四五六 島津齊彬達書

今度宰相様御隠居、我等江家督蒙仰、別而令心配候、就而者以來不心附儀も候ハ、無遠慮吳見可申聞候、且又各初諸役人未_レ迄專御先代之規則_二基キ、我意私欲等無之、正路を心掛、上下之情意致通達、國中之仕置行届候様、利害得失を考、萬端入念可取計候、諸士未_レ迄茂弥文武忠孝之道を

志、質素節儉之風儀を守、信義を専として武道之心掛可為第一候、農工商_二茂法令を守、夫_レ之職業を厲、父祖孝養無怠、日夜家業出精第一候、右之趣家老中初領國中一統無心得違可令承知候、猶追_レ可申達候、以上、

(本文書ハ、「旧記雜錄追録」一七六号文書下同一文書ナルベシ)

○以_二美坐三十郎時資・前田平二郎宗成・上妻直藏定理_一為_二用人兼側用人_一、上妻九郎左衛門小姓、

○官以_二吾臣山崎彦兵衛為_二稽古通事_一、歲賜_二俸米十八俵_一、

○七月朔日、割_二國上・伊関経界_一、以建_二租賦定額_一、七月祭礼亦各於_二其里_一為_レ之、以下與_二本村_一路隔而難_中往還_上也、

○同日、本妙寺番僧流行院弟子某縊_二死于本源寺弓場_一、締方横目前田強左衛門・仁禮覺太夫、吾横目西村田代時和・種子島友之助政教點檢、以白_二状于官_一、

○三日、使_下用人西村九郎時起・西村田代時和・種子島友之助政教司_中野間・増田税吏之事_上、實愍_二其家計窮蹙_一也、

○四日、許_下前田十九郎宗恭向所_レ賣_二于府庫_一・祿田五石八斗三升五合四勺二撮所、納_レ錢而償_上返_レ之、

○七日、奉_二日深公之鎧于廣間_一、而家老拜_レ之、如_レ例、

○八日・九日、修_二清孝院殿二十五回忌于本源寺_一、初日八講真讀、結日頓寫說道、名代家老前田十九郎宗恭、夫人名代西村源左衛門時民、母夫人名代西村九郎時起、二姉_與名代西村七郎時義、法事奉行時任丈左衛門時喜・種子島友之助政教、靈膳奉行河内覺右衛門・種子島鉄五郎、僧三十五人、

○八日、家老上妻才次郎宗敏詣_二于大會寺_一、祭_二先祖及宗祖_一、

○同日、赦_二犀川仁左衛門_一・歸_二住于現和村_一、如_レ故、因_二村吏之請_一也_{先是有故所放于古田村也}

○十三日、名代家老岩河十右衛門時行詣_二于慈遠寺_一、祭_二先祖及宗祖_一、

○同日、夷舶自_二住吉村之洋_一過_二府下之洋_一、向_二國上村之洋_一、諸士皆登城、異國方掛到_二國上_一則船既去、諸士皆退城、

○廿八日、以_二平山新兵衛友益・西村甚五右衛門時哉_一為_二米倉掛_一、平山佐一郎友直用人、鯨島孫右衛門・河内十助改革方掛、

○一向宗流人仲太郎_{本姓松元來}、置_二諸上中之村_一、

○八月一日、與_二中紙各二束于慈遠寺・大會寺_一、二寺獻_二同品_一、

○七日、放_二國上助之丞于西之村、八板十次郎于下中之村_一、各一世坐_レ私_二惡金銀_一也_{濱田盛右衛門・山崎筑右衛門既死故不}

○八日、下西之表足輕牧瀬惣四郎寺_二入于本成寺_一・二七日、嚮西町之樋口茂助僕喜四郎・山縣藤助僕佐次六采_二樵于古田大路_一、伐_二惣四郎田圃牆_一、亦惣四郎視而怒殆傷_レ之、其所_レ為_二暴戾以_レ故被_レ

坐、喜四郎・佐次六亦科仕二七日、

○十日、以三西町之池村惣太郎為二十家、與三禄地三石五斗所及宅地一區、

○十五日、蓮勝寺獻三神酒・黍盛、如例、

○同日、締方横目小田善五郎・渋谷三之丞、唐物方横目種子島仙九郎、附役玉利仁次來、

○十六日、赦三囚者僧寬雄院・莖永村次右衛門、

○十八日、以三國上伴九郎為三船奉行、鮫島孫右衛門軍役方掛、知覺覺之丞無役番頭、田上助市記録方掛、

○廿二日、以三種子島三七時習為用人、

○廿七日、以三西村藏多・日高杉右衛門・西村惣次再為三側用人、更番役三于覺邸、

○同日、東町之榎本彌平次寺三入于本成寺二二七日、以三錢易三金銀二者受三錢、嘗有三定法二而彌平次犯三法、故及三茲、

○官使三國老島津豊後久寶預三聞吾府庫之事、

○官以三押川乙五郎為三小納戸格、賜三俸米四十八

俵二而侍三吾、

○官使三吾家老上妻才次郎宗敏納科銀十五文目、横目西村十左衛門時弘・西村九郎時起科錢各二百五十文、嚮足輕長野源助・百姓利三次病三死于獄中、即以三不三告諸官三被三坐、

○使三榎本驢齋療治三吾病、故留居三諸本府、

○按三察宗門、聞三于官、

○本府下町之新左衛門者乘三柏原某者之商船如三琉球、洋中誤墜三于海、幸得三一竹竿一以便三于游泓、翌日漂三達馬毛島、有三漁夫三扶而帰、數日送三諸其郷、

○九月朔日、以三西町之榎本伊太郎・瀨田甚太郎・

桑原吉次郎・榎本直太郎為三船匠、與三俸田各五斗所、榎本勇吉・同清太郎加三與各五斗所、岩坪市助五斗七升一合一撮所、

○四日、家老・物奉行等相議、大山野租収三二分之一、

○八日、締方横目前田強左衛門・仁禮覺太夫婦、

○九日、使_二用人羽生仙藏能通讀_一法章_一、

○同日、官白塩燗製方見聞役樺山巖五郎・筆吏若松藤兵衛來、

○同日、大島之東祖子來、教_レ製_一糖者也、

○同日、西之表百姓休五郎病_二死于谷山獄中_一、

○十一日、上里村配所流人岩吉坐_二于竊盜_一下_レ獄百日、

○十五日、種子島千熊加_二首服_一、獻太刀・馬代、

名代家老前田十九郎宗恭、家老岩河十右衛門時行

理髮、種子島友右衛門時大奏者、用人西村城助時

知、物奉行前田新五兵衛宗誠、用人上妻直藏定

理、命俗字助之丞、

○同日、美坐菊千代加_二首服_一、獻太刀・馬代、名

代家老上妻才次郎宗敏、家老美座十郎右衛門時敏

理髮、種子島五郎衛門政義奏者、用人河内六郎時

然、物奉行前田新五兵衛宗誠、用人羽生仙藏能

通、命俗字半兵衛、

○十八日、與_二棒米四斛一斗八升五合於見聞役西村

甚七時弘、以_レ重役于本府之邸_一也、

○同日、以_二日高次郎_一為_二地方檢者_一、

○米倉故下吏吉良甚助_{同僚傳}之助者_二寺_一入于妙昌寺_一五七

日、船手下吏上妻市助于_二善林寺_一二年、普請方

下吏吉良直太郎于_二淨光寺_一六箇月、責_二訶金倉吏

中村善五兵衛・吉良六兵衛、村下代山崎林右衛門、坐_二各簿書之不_レ正也_一、

○十月二日、船主喜入之五郎八・水手與四郎破_二船

于馬毛嶋、漁者扶而帰、

○七日、鏗船一艘及帆四反漂_二到于住吉村之能野

浦、

○十二日、官列_二我於公族_一門方、事開_二于左_一、

○四五七 島津久宝達書

一年頭

種子島_{久珍}正殿

御座之間御一門方御禮一列被罷出、御座之間上御

敷居より四疊目、御太刀表御年男備之出座、五疊

目御礼、御縁煩之方、御一門方部屋栖次_二而着

座、御祝儀被申上之、御家老御取合御意、又御取合有之候、

但御式向頂戴物、御一門方之通御盃頂戴、御座之間下御敷居より一疊目、

一八朔御禮之儀、御一門方部屋栖迄御札相濟退座之上、疊目等年頭之通^ニ而御太刀御側御用人備之、出座御札不及名披露、直御縁類之方江着座、御祝儀被申上之、御家老御取合御意、又御取合有而退座、

一五節句并月次御禮、於御座之間御一門方御禮相濟、引續疊目等是迄之通^ニ而御札、御家老名披露^ニ而着座、御取合申上候様被仰付候、

一登城之節、御樓門橋之涯^ニ而下乗有之候様被仰付候、

但乗物置所、御樓門前之通、供屋北御門下乗所等、右^ニ可準候、

一上り口虎之間高欄、

一御番所并御門番下座御一門方之通、

一謁席并扣所是迄之通、

右者、御續柄別段厚以 思召、一世右之通被

仰付候、

十月

(島津久宝)
豊後

○廿七日、與^ニ上里村之足輕山口山右衛門于金百疋^一、賞^ニ嚮役^ニ于覺邸之日、獲^ニ遺金六兩二步于近所板藏之側^一、而納^ニ諸府庫^上也、

○西村七郎時義代^ニ三役^一、日高十郎代^ニ諸奉行^一・諸士^ニ赴^ニ于覺邸^一、賀^ニ我列^ニ於公族^一、

○使^ニ鑄工重富之鎌田直右衛門政則^一・本府之勝目金助^ニ加治木之岡山與八秀次鑄^ニ更鐘^一、而設^ニ鐘樓于矢倉臺^一、以懸^ニ之、且請^ニ府學助教橫山安之丞安容^一作^ニ之銘^一、銘記^ニ于左^一、

○四五八 横山安容選鐘銘並序

鐘銘并序

嘉永四年之冬、隅州熊毛郡種子島創置鐘樓、先是

本郡未曾有是設、特有梵鐘以報昏曉而已、以故

今代、久珍公子與室老等議、而命諸鑄工云、夫鐘

為用有正有變、今夫鼓之徐而声音有數者、以為官

衙出入之規民事作止之度、是其正也、若夫擊之急

而大小乱鳴者、則所以集士民於瞬息應、事機於造

次是其變也、然則苟為一郡邑者、豈得視之以為文

具哉、近歲以來西洋夷舶往來于邊海、或如有覬覦

者然、於是沿海候國置屯堡設砲墩大修戎備、然而

種子島則屹立南海中特為之要衝、則最不可以不用

意也、蓋 種子島氏受封于此也、傳世二十四歷

歲五六百、是以上下一體民心固結、加之土沃財足

而火器之製曾為天下之先、且函人劍工亦往々以精

巧稱焉、乃其戎備之嚴豈出于諸侯之下哉、今此鐘

之成也、官吏民庶能慎之規度勤、其所當務於平

日、而在上者亦益富之教之、則萬一有不虞之事其

應機成功、何疑是宜銘而勒之也、銘曰、

兩鑿九乳 梟氏鳩功 不窳不懶

其声自洪 于警于揚 維士農工

治不忘乱 多福何窮

嘉永四年辛亥冬十月

本府横山安容謹撰

○十一月朔日、以種子島友右衛門時大・時任丈左

衛門時喜・西村次郎兵衛時知為改革方掛、平

山一右衛門・知覽安太郎馬役、

○四日、使平山村廣田之里長儀左衛門・與次郎・

周七・慶市各納科炭三俵、嚮坂井村之百姓三

吉赴于廣田、欲燒死馬之骨、以採其灰上、

儀左衛門等不許、三吉不聽而燒之、於是怒

使三吉出錢一貫三百文以謝之也、夫馬骨者

農事之上糞也、宜勸而燒之也、而却怒之、故

及茲、

○五日、加與俸米二斛一斗九升九合於見聞役西村

甚七時弘、

○八日、納官村配所流人音吉殺野間村百姓仁吉于

伊原之喜平太之宅、而自殺、締方横目小田善五

郎・渋谷三之丞、吾横目前田平二郎宗成・羽生仙藏能通點檢死骸、以聞于官、

○九日、牧傳之助寺入于本因寺三年、以下嚮為本府邸納殿役有不正之行也、

○十一日、赦囚者池田休太郎、

○按察一向宗聞于官、如例、

○官被命吾禮節之等、開于左、

○四五九 島津久宝達書

種子島彈正殿(久珍)

右者、別段厚以 思召一世品能被仰付候付、年頭其外何ぞ付進上物、且登 城之節御目附案内中途御辭儀、合平日供廻并乘物又者願書認振、内用頼

・御用人之儀、何篇一世御一門方同様被仰付候、

十一月 (島津久宝)
豊後

○十二月二日之夜、上西之表松原之甚太郎之宅火、人馬・手札無恙、

○六日之夜、莖永村松原之寺火、人馬等無恙、

○十三日、上妻源左衛門獻斗搗之餅、如例、

○十四日、與綿布一端於野間村庄官石堂休右衛門、賞嚮造飯屋之日、不賦米錢於庶民、而自辨之也、

○十五日、官赦一向宗流人高田與三右衛門・久

木田五郎兵衛・牧田曾兵衛・正次郎・五左衛門・

與三太・覺右衛門・十郎左衛門、以下 儲君

承統也、

○廿日、以前田平二郎宗成為組頭、

○廿二日、山崎林右衛門寺入于隆興寺二七日、

坐使中西之表百姓三四郎一私伐大之崎銃場之

松也、連逮三四郎納罰錢五百文、

○同日、東町之牧瀬仁三太寺入于日輪寺一四七日、榎本休藏于淨光寺一五七日、坐去月九日之

夜對西之表扶持之者有不正之事也、

○廿三日、家老等議定締方横目等之宿札及書翰可

用殿之字、以家格列于公族一也、

- 廿四日、赦_二囚者上里村故配所流人岩吉_一、
- 廿六日、以_二種子島三七時習_一為_二組頭_一、
- 廿七日、赦_二洲之崎浦之辨次郎之女_一、前是有罪為竹之川塩戸役婢者也
- 同日、三寺・二十家・鍛治進上、如_レ例、
- 歲暮、規式、如_レ例、

嘉永	廿四代
種子島家譜	六十八
五年	久珍

- 嘉永五年壬子正月元日、國上村庄官獻「野老」、如例、
- 二日、國上村獻「介族」、庄司浦獻「鯪」、
- 同日、覽「馬」、名代家老前田十九郎宗恭、馬役下村要二、
- 同日、八寺獻上、如例、
- 四日、上之郡庄官・小觸進上如例、名代家老岩

河十右衛門時令

- 六日、初狩、名代家老上妻小左衛門定直、物奉行西村甚五右衛門時哉、用人西村次郎兵衛時知、組頭西村七郎時義・前田平二郎宗成・西村藏多時措、山奉行日高勘太郎・緒方善藏・前田平八・遠藤増右衛門、西之表里正獻上、如例、
- 七日、下之郡庄官獻上、如例、
- 同日、赦「山崎林右衛門」出寺、
- 十一日、本源寺軍陣・温坐祈念、如例、
- 同日、的始、名代家老岩河十右衛門時令、用人西村九郎時起、射手一番西村善太郎、二番上妻孫助、河内助次、二番大牟礼良太郎、三番羽生三次郎、日高六郎、
- 同日、蓮勝寺獻「神酒・棗盛」、
- 同日、甲冑之賀、如例、
- 同日、在郷諸寺獻上、如例、
- 同日、官見「命」枿形柵門守衛・火消、
- 同日、沖濱田塩戸二軒火、
- 二十九日、赦「東町之牧瀬仁三次」出寺、

○納_二狩所獲鹿皮于_一官_一、

○按_二察丁夫・病夫・有職者_一聞_二于_一官_一、如_レ例、

○二月三日、赦_二東町之榎元休藏_一出寺、

○同日、下西之表百姓仙吉納_二科錢一貫文_一、以下締方横目^{失姓}將_レ赴_二于國上村_一、命促_二乘馬_一違_レ期也、

○四日、官命_下公儀流人天台宗松之助、一向宗

宣妙・善吉・金兵衛・菊吉、浄土宗宗兵衛・安吉

・芳松、日蓮宗駒吉・金太郎・由松、可_レ隨_二札

改之舊例_一、

○七日、上中村徒_下假屋自_二河内_一于_二上野_上、復_二舊

貫_二也_一、

○八日、褒_二詞下村三太郎_一、以下監_レ製_レ糖而有_中功

勞_上也、

○九日、大島之東祖子歸_來教製_{糖者}、

○十一日、與_二赤米五斛于平山村_一、以下嚮決_二佐山

之河_一之日、諸民能服_中其勞_上也、

○同日、與_二真米一斛于工匠_一、賞_レ有_三功_二勞于營

作_二也_一、

○十三日、以_二市來喜兵衛_一為_二小納戸_一、

○十五日、納官村之日高藤太郎・故春田源左衛門妻

・猪吉納_二罰錢各三百文_一、坐_レ伐_下為_二灑_レ田水_一所樹杉_上也、

○同日、収_レ在_下納官村與_二野間村_一之界_上、杉山及日

高淺之丞・日高藤右衛門・同直助・春田源左衛門妻・七次郎・猪吉所_レ伐材_中、以_二侵_レ法伐_レ之也、

○同日、収_二野間村之日高十太郎・牧瀬權吉杉山_一、以_レ無_二券書_一也、

○同日、下_二士分宅地之令_一、記_二于左_一、

○四六〇 役所申渡書

一士屋敷之儀古來より被定置候故、右之屋鋪相求引

移候儀願出候ハ、御吟味之上御免可被仰付事_二

候、然處士屋敷之餘地伐明手狹之場所江可成_二屋

鋪致困、又者古屋鋪之内切坪_三而讓受_二、二屋敷相

成候儀、其外田地を春題_{衰力}而直り屋鋪願出候儀

坏、不容易之事候条、右式之地面者掛役、得与遂見聞、相當之場所柄ニ而、至永年土屋鋪被召出置差障之廉無之候得者、願通御免被仰付儀も可有之候得共、當分迄者古来より被定置候土屋敷之内段、明地有之候間、右之場所江引移候而、明地無之節者新規之場所をも可願出、其内者新規之地面願出候儀不相成候、

一三反竿より長小田迄之間者、赤尾木方限ニ而被定置候、土屋敷無之節者、御先代様引移方御免被仰付置候先例も有之事故、右之場所江願出候節之御吟味可被仰付候、

右者、町中宿之面、府元屋鋪引移之儀ニ付、差當之見立を以新規之地面可願出之儀、甚以不勘弁之至候、依而町奉行・高奉行得其意、此段可申渡旨可被申渡候、

二月十五日

御役所印

(前田宗恭)
十九郎

御物奉行
御用人

○十六日、以_二笹河五兵衛_一為_二納殿役人及馬役_一兼_二留主居_一、

○十八日、赦_二吉良直太郎_一出_レ寺、

○同日、鮫島利仙・國上村落合_二權右衛門_一・日高休右衛門・落合十四郎・河内仁吉・落合庄助・榎元源太郎・百姓甚之進科役各十日、以下不_レ奉_レ命催_中俳優于日典祠_上也、

○二十日、與_二眞米二斗于工匠_一、賞_二造_二寔邸本門_一也、

○二十三日、以_二用人渡邊早右衛門兼重_一為_二札改方家老代_一、

○二十五日、官使_二吉村助作為_二吾近侍小納戸改革方_一、

○同日、國老傳_レ拔_レ擢吾家格之_二命_上、於是歲首及其餘佳節家老始服_二生絹衣_一 俗所謂
髮斗目

○二十六日、浴于櫻島黑髮之温泉、

○同日、家老羽生太左衛門能俊致仕、

○閏二月十七日、包人柳田源吾寺入于隆興寺二
七日、坐掠長崎助左衛門所獲鹿肉也、

○二十一日、歸自温泉、

○同日、免牧瀬新之助包丁職、放之于西之村
三年、坐攘長崎助左衛門所獲鹿肉、且先是
有不正之事也、

○三月二日、官以河井田藤之進為小姓侍於
吾、

○三日、使前田平次郎宗成讀中法章、

○同日、與艾餅于三寺、

○同日、西之表庄官賀瀬引、

○九日、歲與米八斛六斗・錢拾二貫文于小納戸市
來喜兵衛、

○十五日、子島龍助・羽生関助・上妻休藏・一湊矢

九郎・中田市藏獻征矢、柳田市太郎・吉良吉

次郎・長野仙袈裟・吉良孫次郎・同六次郎・上妻

良太郎・西村三彌・河内市郎・西村九市・下村彌
次郎・美坐矢一郎獻火繩、始謁、

○十六日、嚮野間村配所公儀流人榮三郎改配徒之
于納官村、

○二十二日、赦柳田源吾出寺、

○同日、新造兩門、使能野之戸右衛門・其子次郎
右衛門・其孫藤次三夫婦行通初之式、

○同日、唐物横目南郷覺太郎・締方横目安藤作左衛
門來、

○二十四日、以平山新兵衛友益為家老及改革
方掛、與祿田十五石為俸、

○二十五日、以新鐘換矢倉臺所置之舊鐘、

○二十六日、三役觀射于本源寺弓場、

○二十七日、官見示名字可諱之字、開于
左、

○四六一 諱字書上

家齊重豪敬忠宣敏頼朝信宗年行垂慶享與壽英久郁

須孝普亮昵赦彬恒千祥親聰大晴隱岐勝籠澄隨真柔
正精桃齡聰德遠江修采女加賀晴雲智鏡眞華

○同日、官有_下因_二殺牛之罪_一、梟_三西之表甚吉於境
瀬戸_二之命_上、

○四六二 末川久平申渡書

獄門

種子嶋西之表村

中目門名頭

善太郎名子

甚吉

右者、牛買入候處悪牛ニ而不用立候ニ付、同所
之休五郎江下直ニ可賣渡候間、買入殺具候様再
三申聞候得共相断候付、悪牛ニ而殺候而茂不苦
段、所役より免許を受候旨取繕申聞、押々為致
納得、代錢六貫百文ニ致直究、内金式步餘相請
取牛殺させ、金子色々仕捨候旨糺方之上申出、
格護所預申付置候処相果、右仕形別而不届ニ

付、右之通被行獄門候、

右之通明後廿七日御仕置申付候条、如例可申

渡候、

三月廿五日 (末川久平)
近江

○同日、利三次死_二于獄_一、官因_下命暴_二其罪状_一
以告_二于我_一、原書記_二于左_一、其所_二連逮_一者鮫島
市次郎、亦然矣、

○四六三 末川久平申渡書

利三次

右者、同所之甚吉より牛買入殺具候様ニ休五郎
承、再三相断候處、悪牛故殺候而茂不苦与所役よ
り免許を請候段申付、源助申談、代錢六貫百文ニ
致直究、内金式步餘相渡、牛相請取利三次江も致
配分候旨、休五郎儀問付之上、源助・利三次ニ者
横目糺方之上申出不届之仕形ニ付、遠島申付有候
得共、休五郎儀者致牢死、源助・利三次ニ者於格

護所相果候ニ付、右科相當ニ而死躰無御構候、

種子島彈正殿

足輕札名彦太郎

鮫島市次郎

右者、前条長野源助所江差越候處、休五郎茂參居、甚吉江牛買入殺咎候間肉可配分申付致同意、

金配分候旨問付之上申出、不屈之仕形ニ付、遠嶋申付者候得共致牢死候付、右科相當ニ而無御構候、

右可申渡候、

三月廿七日

未久平
近江

○同日、與ニ染布各一端于鐵匠平瀬新助及其弟新太郎、賞ニ製レ銃獻レ之也、

○二十八日、與ニ米三斛六斗于側用人、三斛于近侍、各二斛・錢六貫五百文于小姓五人、賞ニ其勞動ニ也、

○同日、以ニ種子島平藏時宜ニ為ニ船奉行、

○官命鼻ニ公儀流人音吉之屍、先レ是害ニ百姓仁吉ニ而自殺者、

○四六四 島津久宝申渡書

獄門

公儀流人無宿穢多前髪之

音吉

右者、種子島預申付置候處、去年十一月八日夜、同島之仁吉与及爭論、其夜同人儀數ヶ所疵付相果居、音吉ニ者致縊死、其身不及問付者候得共、及爭論候儀を憤、仁吉臥居所江竊ニ忍入致殺害候儀無別条、不屈之仕形ニ付、右之通手沙汰ニ而仕置被申付候様、種子島彈正内用頼御用人江可申渡候、

但

別紙日取之内見合仕置可被申付、左候而取扱相濟候ハ、其届無延引被申出、所持道具片付方之儀者、可被得差圖旨をも可申渡

候、

三月

(島津久宝)
豊後

○四月三日、與_二金一兩于_一榎原直右衛門、以_二屢役_一于_二覺邸_一也、

○同日、責_二訶山下寬齊_一以_二屢酗_一於酒也、

○同日、松下栄太郎・荒木拙之助以_レ有_レ罪免_二其一十人_一、

○同日、赦_二柳田源太郎・鮫島十郎_一出_レ寺、

○十四日、返_二與世祿八石九斗九升九合_一所于_二榎原直

右衛門_一、先_レ是直右衛門納_レ之以_レ償_レ債、故府庫

收_二其入數_一年于_二茲_一、頃日使_二直右衛門_一屢_レ祇

役于_二覺邸_一、滯留有_レ年故有_二是命_一以_レ酬_レ其勞也、

○十五日、國老傳_二長崎奉行_一之令、如_レ例、

○十六日、唐物横目種子島仙九郎・附役玉利甚次

来、

○十七日、責_二訶坂井村横目古市源助_一・同八百吉・

上妻惣太郎・上浦孝太郎、坐_レ締方横目小田善

五郎赴_二于嶋間浦_一之日不_レ迎_二之途_一也、

○十八日、西村勝太元服、名代家老及家老以下_二三役班例_一、命_二俗字仲左衛門_一、獻賜如_レ例、

○二十一日、慈遠寺僧某法弟子大年自_二本府_一脱走、搜索不_レ獲、

○二十五日、藩吏樺山某等歸、先_レ是来製_二硝石_一者也、

○同日、以_二平山藤左衛門_一為_二船奉行_一、知覽覺之丞納戶奉行、美坐平兵衛・緒方善藏并高奉行、下

村佐一郎兵具奉行、

○以_二森休兵衛_一為_二物奉行_一、

○五月二日、普請方吏緒方權藏寺_二入于妙昌寺_一、

以_二簿書_一不_レ正也、

○五日、賀儀、如_レ例、

○八日、與_二金二百足于鮫島嘉三次等十七名_一、以_レ

先_レ是使_二丙是輩_一學_二乙土踊_一之歌章于小田善五郎_甲

也、

○同日、太守公新設_二常平倉_一、書_二其所以_一以告_二

闔藩、

○同日、以_二上西之表足輕榎元新藏_一為_二一世郷士_一、
○十一日、下西之表足輕岩重甚右衛門寺_二入于妙昌寺_一三七日、以_二有_二不正之事_一也、

○十六日、代官所下吏河野嘉兵衛寺_二入于清淨寺_一三七日、以下簿書不_レ正也、

○六月五日、東市榎元元右衛門寺_二入于滿德寺_一七日、坐_地嚮不_レ告而竊欲_テ移_下居于_下府_上也、

○六日、官使_下川田彦九郎為_二小納戸見習_一、而侍_中於_上吾_上、

○七日、以_二森休兵衛友習_一為_二改革方掛_一、上妻九郎左衛門無役番頭、平山寬藏納戸奉行、東嘉介山奉行、牧平七・下村平太郎馬役、遠藤宇兵衛勝手方吟味役、

○同日、赦_二河野嘉兵衛_一、

○十三日、赦_二榎元元右衛門_一、

○十四日、先_レ是莖永村鯨魚漂到村人竊攘_二其肉_一、至_レ是事露罰_レ之各有_レ差、村吏某々等亦速坐焉、

以下監視令不_レ嚴也、

○同日、以_二笹川九兵衛_一為_二普請奉行_一、
○二十六日、責_二詞坂井村之庄屋池山喜藤次_一・古市源助等_一、坐_下禁_二博奕_一之令不_レ嚴也、

○二十九日、夏越賀儀、如_レ例、
○官_一聞_二吾府庫空耗_一患_レ之、因使_下藩吏三原藤五郎與_二聞家政_一、而受_レ惣裁于國老島津久實_上、

○與_二染布二端于鐵匠宇多津覺右衛門_一・同直介_一、賞_下製_レ銃獻_レ之也、

○與_二金子四百足于包丁林次右衛門_一、賞_二屢祇_一役于本府_一也、

○七月二日、與_二米二斗于井元彌吉_一、以_レ築_二波戸於某地_一也、

○七日、賀儀、如_レ例、

○八日、名代家老某祭_二戰死之靈_一、如_レ例、

○十七日、與_二金二百足于羽生次郎助_一、以下嘗使_二某祖六郎左衛門_一編_中集吾家中行事_上也、

○九月四日、以_二笹川九兵衛_一為_二納殿役人_一、

○五日、與_二金各百疋于榎元新五郎・新原次平・井元彌吉・同矢太郎_一、賞_レ有_レ勞_二于產物方之事_一也、

○七日、側用人日高杉右衛門代_三三役_一、近習國上只次代_三諸奉行_一、及醫柳田喜碩・鮫島貞齋等來省_三吾病_一、

○同日、用人某々等代_レ吾詣_三諸神社_一、諸士又射以禱_三吾病_一、

○同日、上妻半介・高尾野四郎介・鮫島周八始謁、獻_三火繩_一、

○九日、用人某讀_三法章于廣間_一、

○十日、今歲不_レ登、諸村減_三租額_一有_レ差、

○十一日夜、洪水、稻之刈而未_レ收者許多流失、時定_三秋稅之額_一、然不_レ得_レ不_レ為_三之處置_一、乃使_レ郡奉行羽生半左衛門往_三本府_一、問_中官之法_上、

○十九日、官臬_三吾臣國分之塚田新九郎及其子喜兵衛于逆瀬戸_一、以_レ盜_三諸神社之祭器_一也、原書記_三于左_一、

○四六五 樺山久成申渡書

種子島彈正殿家來塚田新太郎弟

獄門

塚田新太郎_九

右者、國分正八幡宮寶藏入付之品物可盜取伴喜兵衛江申聞、鑰を拵、當正月十二日夜、寶藏鎖前捻放、右鑰_二而板戸おとしを明、喜兵衛_二者遠見等之為戸口江為扞忍入、御寄進之御鑑一領・御甲一領・御脇差一腰、其外諸人寄進身刀大小拾弍本盜取、且喜兵衛列立、財部日光社并清水北辰社寶殿を明、拵刀一腰・身刀弍本・賽錢四百文・鏡四面・銅金物尅具時々盜取、右之内代金壺兩賣拂、錢者仕拵、余品者都而隱置候處、被召捕候旨問付之上致白狀、揚屋江遣置候處相果、右之仕形不届_二付、右之通被行獄門候、

獄門

むくろためし

右新九郎子
塚田喜兵衛

右者、親新九郎与申合、正八幡宮寶藏を明、御
鑑其外盜取、且外両社寶藏江忍入、諸人寄進之
拵刀等盜取候次第、前条新九郎申出通不相替問
付之上致白状、右仕形別而不届ニ付、右之通被
行獄門候、

右之通明後十九日御仕置申付候条、如例可申
渡候、

九月十七日 權山久感
伊織

○二十二日、與_三米二斗于海土浦之嘉吉船々中_一、

以_四先_レ是有_レ故使_三淹_ニ滯于覺港_一也、

○同日、與_三金百足于島間浦之清三郎船々長及水夫
等_一、以_四有_レ故使_三急航_ニ于覺府_一也、

○以下年不_レ登減_ニ大山野之租_一、

○十五日、島間浦之清之丞納_三科錢若干_一、先_レ是
請_下航_ニ于波美柏原_一之手摸_上而實如_三細島_一、其歸

也亦不_レ到_ニ府下之港_一、而直還_三島間浦_一也、故被_レ
坐、

○二十日、與_三米各二斛・錢各六貫文于小姓某等三
名_一、以_三屢祇_ニ役于覺府_一也、又別與_三米二斛一
斗_一、而除_三其俸金_一、

○同日夜、平山村之紋平宅火、

○十一月五日、修_三日增上人三百五十回忌于慈遠
寺_一、

○同日、與_三米一斛八斗于古田村之庄屋遠藤十左衛
門_一、因_三改革_ニ納_ニ半地_一、雖_下一旦収_レ之、今返_ニ
與_レ之_一、

○九日、蟹泊浦之善吉漁船壞_ニ于島泊_一、時自_三本
藩_一謫_ニ于我島_一者山口休兵衛亦在_ニ于船中_一、佐多
郷長告_三之府邸_一、即聞_ニ状于_三官_一、且使_下村權
六及輕卒一人增_三金二百足于佐多郷長及諸役人_一、
金百足于浦人_一、以_謝其周旋之勞_上、

○十二月十三日、上妻源左衛門獻_三斗搗之餅_一、

○國上村之仲次郎・直助・重吉・專大夫・直次納_三
科錢各三百文_一、以_三私伐_ニ製糖之車材_一也、

○同日、太守公見_レ任_ニ從四位上中將_一、

○二十七日、鉄匠及二十家・三寺獻上、如例、

○野尻江平村金四郎以信二向宗一被_レ放來、

○歳暮、賀儀、如_レ例、
